

地方独立行政法人大阪市博物館機構
令和 2 事業年度にかかる業務の実績に関する評価結果
小項目評価

年度評価
令和 3 (2021) 年 9 月 1 日現在

内容

1. 地方独立行政法人大阪市博物館機構の業務運営、財務及び会計並びに人事管理に関する規則第9条で定める項目別業務実績及び自己評価等

大項目Ⅰ 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

Ⅰ－① さまざまな魅力の創造、発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」	1
(1) 活動の基盤をなす人材及び資料等の充実並びに施設及び設備の整備	1
(2) 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力の効果的な発信	17
(3) 戦略的広報の展開	36

大項目Ⅰ 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

Ⅰ－② 幅広い利用者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」	44
(1) ソフトの充実及び利用者の受入れ体制の整備	44
(2) 周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携	51
(3) 民間企業等との協働等	54

大項目Ⅰ 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

Ⅰ－③ 人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」	58
(1) こども及び教員等への支援	58
(2) 幅広い利用者への支援	61
(3) 参画機会の提供	70

大項目Ⅰ 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

Ⅰ－④大阪中之島美術館の開館に向けて

(1) 大阪中之島美術館の開館に向けて	74
---------------------	----

大 項 目Ⅱ	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するため取るべき措置	77
(1)	人材の活用と育成	77
(2)	評価制度の活用	79
(3)	I C Tの導入及び活用	80
(4)	民間活力の導入	81
大 項 目Ⅲ		
Ⅲ	財務内容の改善及び効率化に関する目標を達成するため取るべき措置	83
(1)	収入の確保	83
(2)	経費の節減	85
大 項 目Ⅳ		
Ⅳ	その他業務運営に関する重要事項の目標を達成するため取るべき措置	86
(1)	環境整備	86
(2)	重要なリスク回避のための体制の構築	88
(3)	利用者等の安全確保	89
(4)	環境保全の取組み	91
(5)	情報公開の推進	93

1. 地方独立行政法人大阪市博物館機構の業務運営、財務及び会計並びに人事管理に関する規則第9条で定める項目別業務実績及び自己評価等

大項目 I－①	I 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 さまざまな魅力の創造、発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」 (1) 活動の基盤をなす人材及び資料等の充実並びに施設及び設備の整備 (2) 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力の効果的な発信 (3) 戦略的広報の展開
------------	--

中期目標	1 さまざまな魅力の創造、発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」 法人は、大阪の都市格の向上に寄与するよう、博物館等における歴史、美術、自然、科学及び科学技術に関する実物、標本、現象に関する資料その他の資料(以下「博物館等資料」という。)の蓄積と人々が学び、楽しみ、育んできた成果を更に発展させ戦略的に発信する (1) 活動の基盤をなす人材・資料等の充実と施設・設備の整備 各館の活動の成果の継承及び発展並びに大阪における文化資源の蓄積を図るため、人材及び博物館等資料の充実並びに各館の施設及び設備の整備に取り組む 【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】 ・博物館等資料(寄託品を含む、以下、同じ。)の新たな収集 ・防災及び防犯を含めた博物館等資料の適切な保管及び将来への継承 ・常設展における展示替え及び自主企画による特別展等の充実による展示活動の活性化【1-(2)において記載】 ・博物館等資料に関する情報及び資料の収集、整理及び提供 【中長期的 発展を見据えて 取り組む事項 】 ・法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成 ・博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧に関する調査研究 ・博物館等の運営に関する調査研究及び評価等 ・博物館等資料の保全及び効果的な活用のための計画的な修復 ・ICT等を活用した博物館等資料に関するさまざまな情報の有効利用及び博物館等資料のアーカイブ化(重要な資料等をひとまとめにしてデジタルデータ化すること等により、資料等を広く相互利用が可能な形式で保存することという。以下同じ。)による公開の推進【1-(2)において記載】 ・博物館等の施設として必要な機能及び快適な利用環境の確保に向けた各館の施設の計画的な整備及び改修 ・調査研究活動等の拡充を目指した外部資金の獲得 ・バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した各館の施設の計画的な整備及び改修
------	---

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由・評価のコメント	評価
(1) 活動の基盤をなす人材・資料等の充実と施設・設備の整備						
各館の活動成果の継承及び発展並びに大阪における文化資源の蓄積を図るため、次の通り、人材及び博物館等資料の充実並びに各館の施設及び設備の整備に取り組む。						
【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】 1 博物館等資料の新たな収集 各館が対象とする実物、標本、現象に関する資料その他の資料(以下「博物館等資料」という。)について、調査研究、寄贈、購入等を通じて、新たな獲得を目指す。			【機構の評価】 美：3、自：3、陶：4、科：3、歴：3 各館とも寄贈による資料収集を進めることができた。特に東洋陶磁では、評価額が8300万円にも及ぶ高額な資料の寄贈を受けた。	3		
	(大阪市立美術館) ア 絵画・書・彫刻・工芸・考古の諸分野において、購入及び寄贈の受け入れを継続的に行う。	1	(大阪市立美術館) ア 購入0件 寄贈6件 寄贈作品数24件、122点	3		

	イ 博物館活動に有効な資料の寄託確保に努める。		【令和元年度実績】 購入0件 寄贈3件 寄贈作品数5件、5点 イ 受入10件29点、返戻13件114点 【令和元年度実績】 受入73件、返戻95件		
	(大阪市立自然史博物館) ア 「自然史標本の今後の収蔵計画について 大阪市立自然史博物館資料収集方針」に基づき、社会共有の財産である自然史標本を適切に収集し、次世代へ継承するために受け入れ、保存管理する。 イ 収蔵庫など館内の配置を見直し、収蔵余力の確保に努める。今年度は旧第二収蔵庫の改修に合わせ、移動式物品棚の導入整備を進める。	1	(大阪市立自然史博物館) ア 令和2年度の春から夏にかけては、休館などの影響もあり、大規模な寄贈は少ない。重要コレクションとしては、旧みさき公園所蔵脊椎動物骨格標本等約320点が寄贈された。 【令和元年度実績】総資料数1,884,254(昨年度末比111,723点増) イ 旧第二収蔵庫のアスベスト改修工事の後に移動式物品棚を設置し、一部収蔵品を移動した。これにより収蔵能力が植物・昆虫・動物分野それぞれに向上した。	3	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 芸術的あるいは資料的価値の高い作品の購入および寄贈の受け入れを継続的に行う。 イ 美術館活動に有効な資料の寄託確保につとめる。	1	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 寄贈申し出件数14件(作品数119件133点) 評価額計83,069,000円 【令和元年度実績】寄贈0件 ※地方独立行政法人化に伴い、寄附収受に関連する規定及び様式の整備に時間を要したことなどから、令和2年2月に実施した収集・評価委員会で決定した受領作品について、受領日を翌年度とした。 イ 購入作品0件 【令和元年度実績】0件 ウ 寄託作品8件(作品数44件):新規受入1件(作品数3件)、継続7件(作品数41件)、解除1件(作品数2件) 【令和元年度実績】 8件(作品数43件):新規受入4件(作品数15件)、継続4件(作品数28件)	4	
	(大阪市立科学館) ア 物理・化学・天文・科学史・気象・科学技術を中心とした分野の新規資料を収集し、科学における「現象」そのものを展示化するための装置開発・調査研究を行う。 イ 大学等との連携を通じて観測機器類・実験装置類等実物資料の収集を行う。	1	(大阪市立科学館) ア ポケットコンピュータなど12件の資料寄贈を新たに受けた。また借用が14件あった。 【令和元年度実績】寄贈・寄託10件、購入・製作2件、借用15件	3	
	(大阪歴史博物館) ア 歴史・考古・美術・民俗・芸能・建築の諸分野において、購入および寄贈の受け入れを継続的に行う。 イ 博物館活動に有効な資料の寄託の確保に努める。	1	(大阪歴史博物館) ア 令和2年度実績:購入0件、寄贈1,405点 【令和元年度実績】購入0件、寄贈274点 イ 令和2年中に新規寄託申出はなかったが、適宜寄託を受け入れる。 令和2年度実績:0件 【令和元年度実績】13件53点	3	

2 防災及び防犯を含めた博物館等資料の適切な保管及び将来への継承 博物館等資料について、収蔵庫等において適正な温度・湿度等の下、防災や防犯にも備えた環境で適切に保管し、将来へ継承する。		【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3、事：3 各館とも、計画通りに温湿度管理、IPM、防犯・防災等に着実に取り組んでいる。展示ケース内の有機酸についての現情把握を行い、展示・収蔵環境の改善に向けて機構全体での取り組みも進めている。	3	3
	(大阪市立美術館) ア 館内での総合的虫菌害の管理（IPM）及び収蔵庫の燻蒸を行う。 イ 収蔵庫及び展示室での温湿度管理を継続的に行う。 ウ 防犯・防災システムを定期的に点検する。 エ 新規受入資料の登録を継続的に行う。	2	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア 収蔵庫内での虫菌害の監視および温湿度管理を継続的に行う。 イ 入室記録、貸出管理簿による適切な資料の管理を行う。 ウ 防犯・防災システムを定期的に点検し、訓練を実施する。 エ 収蔵庫内の棚転倒防止対策を順次実施する。 オ 西日本自然史系博物館ネットワークなどとの連携による災害対策の検討をすすめる。	2	3	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 収蔵庫・展示室の虫菌害の監視および温湿度管理を継続的に行う。 イ 館蔵品の確認を計画的に行う。 ウ 防犯・防災システムを定期的に点検する。 エ 新規受入作品の登録を継続的に行う。	2	3	

			エ 新規受入作品の登録を継続的に行った。 ・令和2年度寄贈作品14件（作品数119件）について8月に行った。 【令和元年度実績】0件		
	(大阪市立科学館) ア 常設稼働展示品を保守管理し、故障、運用停止を可能な限り少なくするよう努める。 イ 特に重要な資料に関しては、機械警備などによるセキュリティ確保を図る。 ウ 所蔵資料の出し入れを記録する。	2	(大阪市立科学館) ア 新型コロナウイルス感染拡大リスク回避のための改修も含め、既存の展示物14点の改修、改善を行った。 イ 重要な貴金属資料等については、機械警備、ビデオ撮影、定期的な確認を実施している。 ウ 所蔵資料の出納実施の際は、出納簿に記録を行った。	3	
	(大阪歴史博物館) ア 収蔵庫内での虫菌害の監視および温湿度管理を継続的に行う。 イ 出納簿によって収蔵庫からの資料の出し入れを記録する。 ウ 防犯・防災システムを適切に運用する。 エ 新規受入資料の登録を継続的に行う。	2	(大阪歴史博物館) ア 年1回の生物調査を実施した。 イ 出納簿を収蔵庫前室に設置し、記録を開始した。 ウ 防犯システムのメンテナンスを行い、システムの維持に努めた。 エ 前年度の新規資料は順次登録を進めた。館蔵品台帳の整理と、データベース化の検討を継続的に進めた。	3	
	(事務局経営企画課) 展示ケース内の有機酸、害虫、蛍光灯のLED化、地震等の災害に対する減災対策など展示・収蔵環境改善のため、作業部会を立ち上げ、報告をまとめる。	2	(事務局経営企画課) 有機酸に関する各館の状況を把握する会合を開き現状を把握し、今後の検討課題を洗い出し報告をまとめた。今後も引き続き検討する。	3	
			(事務局総務課) 監事及び会計監査人の監査に対して適切に対応した。	3	
3 博物館等資料に関する情報及び資料の収集、整理及び提供 博物館等資料に関する図書、文献、調査資料その他必要な資料(以下「図書等」という。)を収集するとともに、博物館等資料及び図書等に関するデータベース等の作成と公開を行う。			【機構の評価】 美：3、自：4、陶：3、科：3、歴：3 各館とも計画通り、館蔵資料のデジタル撮影や図書・雑誌の収集を着実に実施した。特に東洋陶磁では、文化庁の予算も利用し、高精細写真のデジタルデータを作成することができた。	3	3
	(大阪市立美術館) ア 継続的に館蔵品及び寄託品のデジタル撮影を行い、アーカイブ化を進める。 イ 調査研究に資するため、継続的に研究図書・雑誌・展覧会図録等の資料の収集を行う。	3	(大阪市立美術館) ア 撮影を次の通り、順次行った。 撮影：79件、174カット 【令和元年度実績】15件、20カット イ 予算額に応じて資料の収集を行った。 図書・雑誌購入139点 【令和年度実績】図書・雑誌購入166点	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア 継続的な資料の登録・整理をすすめ、収蔵資料目録を発行する。 イ 標本資料だけでなく、自然史科学関連の画像・映像資料・絵画資料の収集と整理を進める。 ウ 継続的に市民の学習に資する図書、及び研究資料となる図書の収集を行う。	3	(大阪市立自然史博物館) ア 収蔵資料目録52集を3月に発行した。 イ 継続して取り組んでいる。 ウ 図書資料の購入・寄贈受け入れも順調に進めている。予算のない中、科研費により獲得した間接経費を投入しての自己努力により、将来の公開に向けた整備を進めた。 【令和元年度実績】図書単行本1,202点増、逐次	4	

			刊行物3,889点増、累計図書23,810点、逐次刊行物204,887点		
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 継続的に館蔵品の撮影し、データベース化するとともに、オープンデータ化を進める。 イ 継続的に研究図書などの収集を行う。	3	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 館蔵資料81件(中国黒釉関係陶磁16件、近現代天目関係陶磁19件、青銅器1件、オープンデータ化作品20件、黒田泰蔵作品22件)のデジタル撮影を行った。 【令和元年度実績】 館蔵資料45件(中国陶磁20件、木村盛康作品22件、現代陶芸3件)のデジタル撮影を行った。 イ 継続的に研究図書などの収集を行った。 購入図書資料255点(図書36点、雑誌219点) 【令和元年度実績】購入図書資料276点(図書82点、雑誌194点)	3	
	(大阪市立科学館) ア 現在提供している画像資料を引き続き有償提供する。 ・古代の宇宙観(6点) ・学天則(3点) ・江戸時代の天文書(6点) ・西洋の古書(3点) イ 継続的に図書、研究図書の収集を行う。	3	(大阪市立科学館) ア 資料画像8件の有償提供を行った。 【令和元年度実績】3件 イ 研究用図書62冊、雑誌8誌を収集した。 【令和元年実績】研究用図書46冊、雑誌11誌	3	
	(大阪歴史博物館) ア アーカイブ化を進めるため、継続的に館蔵資料のデジタル撮影を行う。 イ 「なにわ歴史塾」で市民の閲覧に供し、また調査研究に資するため、継続的に図書の収集を行う。	3	(大阪歴史博物館) ア 資料撮影 202カット マイクロフィルム撮影 なし デジタル撮影 1,406カット 【令和元年度実績】 館蔵資料撮影 122カット マイクロフィルム撮影 456カット デジタル撮影 2,182カット イ 市民図書として189冊の図書を購入しており、寄贈を受けた図書は3,522冊。 【令和元年度実績】購入図書217冊、寄贈図書3,749冊	3	
【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 4 法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成 法人の活動を支える専門人材を安定的に確保するため、条件を整備するとともに、成果に対する適正な評価を実施する。 館蔵品保存管理、広報、教育、資金調達等に特化した専門人材の安定的確保と充実をめざす。			【機構の評価】 美：3、自：4、陶：4、科：3、歴：4、経：4 学芸員について、欠員にともない自然史博物館2名、東洋陶磁美術館1名、歴史博物館2名を新規採用のうえ配置し体制を強化した。 また、コロナ禍で出張や対面が厳しい中でも研修機会への派遣ができた。	4	4
	(大阪市立美術館) ア 職員のスキルアップをはかるため、研修情報等の収集に努める。 イ 館の人材を生かすための適切な職員配置、業務分担等を模索する。	4	(大阪市立美術館) ア 文化庁、教育委員会など公的機関より研修情報を得る他に、保存や展示などに関する技術などの民間によるセミナーなどの情報の収集にも努めている。 総務課1名が文化庁「ミュージアム・マネジメント研修」(12月・オンライン)を受講・修了。 イ 来年度生じる欠員に向けて7月採用のスケジ	3	

	(大阪市立自然史博物館) ア 退職などに伴う欠員を速やかに補充する。 イ スキルアップのため、館内に博物館学関連催事を誘致する。 ウ 外部研究者とのネットワークづくりや研究能力の向上を目的とした、館内外で開催される学会参加など専門的研修への参加を進める。 エ 総務課職員、案内要員を含めた、館の活動への理解を深めるための研修を実施する。	4	（大阪市立自然史博物館） ア 4月に学芸員2名を採用した。11月に産休・育休学芸員の補充としてアルバイトを採用した。 イ 11月に自然史標本の保全をテーマとしたシンポジウムを実施した（No. 2再掲）。 ウ 多くの学会が中止またはオンライン開催となり、当館で開催予定であった日本菌学会も要旨集のみでの開催になった。デジタルアーカイブ学会、ベントス学会、鳥学会、全日本博物館学会、生態学会などにオンライン参加。参加数集計中（学会中止などにより減少）。 【令和元年度実績】学会発表15学会23件（国際学会含む）その他参加15件 エ 案内要員を含めた研修は休館中に実施し、2月に防災研修、視覚障害者に対する接遇研修、およびロジックモデル評価を学ぶワークショップを実施した。	4	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 専門的人材の採用・育成と職務の役割を進め、国際的専門美術館としての体制の充実を図る。 イ 学芸員のスキルアップをはかるため、国内外での研修参加を推進する。 ウ 館の人材を生かすための適切な職員配置、業務分担、職制などを模索する。	4	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 欠員に伴う新規学芸員の採用1名を採用 インターン3名を受入れ 【令和元年度実績】新規学芸員採用公募1名、学芸事務の採用1名、インターン受入1名 イ 研修実績 のべ16名 ・ ICOM京都大会1周年記念シンポジウム「SDGsと博物館」(9月26日、1名) ・ 文化庁著作権関連オンライン研修 (授業目的公衆送信補償金制度に関するオンライン説明会) (10月7日、2名) ・ 照明セミナー(10月17日、5名) ・ 日本学術会議公開シンポジウム「今後の博物館制度を考える～博物館法改正を見据えて～」(3月2日、2名) ・ 大阪中之島美術館準備室アーカイブ研修会「美術分野におけるオーラルヒストリーの収集と管理」(3月26日、5名) ・ 美術史学会2020年度美術館博物館東西合同シンポジウム「コロナ禍の美術館・博物館」(3月27日、1名) 【令和元年度実績】のべ6名	4	
	(大阪市立科学館) ア 各種学会・研究会、講習等に随時参加し、専門性の向上と広範囲の情報の収集に努め、資質向上を図る。 イ 国内・海外の施設との人材交流や短期～長期の留学を検討・実施する。 ウ プラネタリウム、サイエンスショーの制作時と制作後の組織内評価や、常設展示の改良評価の実施を通じて、学芸員の資質向上を図る。	4	(大阪市立科学館) ア 科学館・博物館若手職員向けグローアップ研修、物理教育学会物理教育研究集会、日本プラネタリウム協議会全国研修会、天文教育研究会、全国理工系学芸員展示研究大会、日本科学史学会、全国科額博物館協議会研究大会、等(オンライン開催を含む)に参加した。 イ 新型コロナウイルス感染症拡大により、今年度は実績なし ウ プログラム公開前には、プラネタリウム試写会(4回)、サイエンスショー検討会(4回)を実施	3	

			施した。公開後は、実施内容を検討する事業検討会を開催し、議論を行なった(3回)。また、オンライン会議システムを使った普及事業の質的向上に向けて館内向け研修を実施した(1回)。		
	(大阪歴史博物館) ア 若手学芸員のスキルアップをはかるため、研修情報などの収集に努め、参加機会を模索する。 イ 館の人材を生かすための適切な職員配置、業務分担などを模索する。	4	(大阪歴史博物館) 今年度は4月に2名の学芸員の採用を実施し、係へ適切に配置した。 また、以下の研修機会の確保や実施に努めた。 ・東京文化財研究所・文化財活用センター「保存担当学芸員研修」に応募(不採択) ・文化庁「第2回近現代建築アーカイブズ講習会」に学芸員1名を派遣 ・文化庁、日本博物館協会、歴史民俗系博物館連絡協議会等の研修情報を収集し、適宜参加を検討した。 ・特別展開催後に振り返りをおこない、学芸員や館全体でも課題や手法等を共有化した(猿描き狙仙三兄弟展・大阪の近代化と町展)	4	
	(事務局経営企画課) 教育普及や広報など多様な分野の専門職員のあり方や育成法について、検討を行うため、作業部会を開催する。	4	(事務局経営企画課) 広報担当の係長が採用され、今後の広報活動の在り方の検討に入った。 ・博物館機構ICT関連オンライン研修(「情報化会議」)(7月31日、6名) ・大阪市博物館機構「コロナ状況下で博物館の価値を発信していくー令和2年度大阪市博物館機構の試み」(オンライン)(3月24日、5名)	4	
5 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧に関する調査研究 博物館等資料に関する専門的見地からの調査・研究を実施する。 博物館等資料の展示をはじめとする公開・活用に関する調査・研究・開発を実施する。 博物館等資料の保存や修復に関する調査・研究を実施する。			【機構の評価】 美：4、自：4、陶：4、科：3、歴：4 コロナ禍ではあったが、各館とも着実に調査研究を進めており、科研費も新規17件を合わせ43件の採択を受け、35,152千円で実施したことで館活動に大きく寄与する状況となった。	4	4
	(大阪市立美術館) ア 館蔵品に関する基礎研究を継続的に進める。 イ 資料保存、展示手法について、最新の情報の収集に努める。	5	(大阪市立美術館) ア 年度末に研究紀要を発行した。 著書・論文等15件、研究発表12件、展覧会・コレクション展報告25件 【令和元年度実績】著書・論文等16件、研究発表11件、コレクション展報告22件 イ 大規模改修に備え、近年改修を終えた京都市京セラ美術館を訪問、収蔵庫の設備、展示室のケースや照明、各種バックヤード等を実見させてもらい、意見交換を行った。また各学芸員が種々の展示施設を訪ねたおりに展示設備・方法などを調査し、改修計画に反映させている。	4	
	(大阪市立自然史博物館)	5	(大阪市立自然史博物館)	4	

ア 科学研究費補助金等による、館蔵資料を活用した研究、および野外での現況や生態に関する基礎研究を継続的に進める。 イ 西日本自然史系博物館ネットワークや関連学会などと連携して資料の保存科学的研究会、展示手法に関する研究会に参加または誘致開催する。	ア 科研費の採択などを受け、基礎研究を継続的に実施している。令和二年度は当館学芸員(外来研究員含む)が研究代表者となる科研費が新たに5件の採択を受け、継続課題9件とあわせ14件を獲得し著書・論文等も順調に公開されている、ただし、学会の開催状況もあり、研究発表は減少の可能性が高い。民間助成も採択され、執筆論文も好調に発表されている。 【令和元年度実績】 令和元年度、査読付き論文20本、著書5冊、その他224本発表22件 イ 適宜ZOOMによるオンライン研究会を実施。12月に西日本ネットワークによる「肖像権講習会」を実施。2月には同ネットによる「COVID-19状況下だからやってみた工夫、身につけたい技」を実施。 【令和元年度実績】東京文化財研究所の被災自然史標本の対応マニュアル作成協力。また南海トラフ巨大地震を想定した研究会を行った。		
(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 館蔵品に関する調査研究を継続的に進める。 イ 保存、展示手法、運営等に関する調査研究を進め、最新の情報の収集につとめる。	5 (大阪市立東洋陶磁美術館) ア 館蔵品に関する調査研究を継続的に進めた。(調査実績と調査研究の成果) ・著書翻訳1件、論文等8件、その他原稿26件、研究発表2件、講演会等12件、取材協力4件、科研4件 【令和元年度実績】著書1件、論文等14件、研究発表10件、講演会等14件、取材協力6件、科研5件 イ 保存、展示手法等に関する調査研究を進め、最新の情報の収集につとめた。 ・研修、シンポジウム等参加のべ26名(内容) ・地方独立行政法人 大阪市博物館機構ICT関連オンライン研修(「情報化会議」)(7月31日、6名) ・ICOM京都大会1周年記念シンポジウム「SDGsと博物館」(9月26日、1名) ・文化庁著作権関連オンライン研修(授業目的公衆送信補償金制度に関するオンライン説明会)(10月7日、2名) ・照明セミナー(10月17日、5名) ・日本学術会議公開シンポジウム「今後の博物館制度を考える～博物館法改正を見据えて～」(3月2日、2名) ・地方独立行政法人 大阪市博物館機構「コロナ状況下で博物館の価値を発信していく—令和2年度大阪市博物館機構の試み」(オンライン)(3月24日、5名) ・大阪中之島美術館準備室アーカイブ研修会「美術分野におけるオーラルヒストリーの収集と管理」(3月26日、5名) ・美術史学会2020年度美術館博物館東西合同シン	4	

			ボジウム「コロナ禍の美術館・博物館」(3月27日、1名) 【令和元年度実績】会議、セミナー等参加のべ7名 ウ 現在採択中の科学研究費による研究成果・新規採択1名(研究代表者)、継続4名(研究代表者3名、研究分担者1名)による研究をすすめた。 【令和元年度実績】新規申請2名3件、継続4件(研究代表者3名、研究分担者1名)		
	(大阪市立科学館) ア 館蔵資料に関する基礎研究を継続的に進める。 イ 資料保存、展示手法に関する研修に参加するなど、最新の情報の収集に務める。 ウ サイエンスガイドリーダーから展示物等について意見徴収し、展示物等の改善・改修のための調査研究を行う。	5	(大阪市立科学館) ア 館蔵資料等に関する基礎研究を実施し、成果を大阪市立科学館研究報告第30号で公表した(論文21件)など論文27件を公表したほか、7件の研究発表を行った。 【令和元年度実績】著書・論文等24件、研究発表7件 イ 第11回全国理工学芸員展示研究大会をオンラインにより開催し、参加した。 ウ 新型コロナウイルス感染拡大防止によるサイエンスガイド活動休止のため、実績なし。	3	
	(大阪歴史博物館) ア 館蔵資料に関する基礎研究を継続的に進める。 イ 資料保存、展示手法について、最新の情報の収集に努める。	5	(大阪歴史博物館) ア 個々の学芸員による日常的な館蔵品研究のほか、館の研究事業である基礎研究2件中1件、共同研究4件中1件において、館蔵資料・預託資料の研究として採択し実施した。ただし、コロナ禍の影響を受け、外部研究者との研究会や調査が制限され、館内での基礎作業が中心となった。 イ 昨年度、展示ケース内の有機酸濃度が大きな問題として浮上したため、継続的に他館状況等について情報を収集し、機構内各館とも情報共有・対策打合せを実施(3月)するとともに、吸着材、空気清浄機および換気による対処的な対策を実施し、各種計測器により必要データを蓄積中である。今後の対策については展示改修等の基本計画での具体化を目指している。	4	
6 博物館等の運営に関する調査研究及び評価等 他館の事例研究など、博物館運営に関する調査・研究を実施する。 国内外からの来館者や各種活動への参加者のニーズを把握するため、必要な調査(マーケティング)やデータ分析を行う。			【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：4、経：4 コロナ禍であったため、従来の紙面でのアンケート調査に加え、ウェブ上でのアンケート作成を行い、積極的に入館状況等の分析に努めた。	3	3
	(大阪市立美術館) ア 効果的な広報戦略を策定するため、来館者を対象とした各種アンケートを実施し、他館の結果も参照して分析を行う。	6	(大阪市立美術館) ア コロナ禍によりこれまでどおりのアンケートを実施できなかったため、「第7回日展」からウェブアンケートを試験的に実施。	3	
	(大阪市立自然史博物館)	6	大阪市立自然史博物館)	3	

	ア 自主企画展の開催時には実施目的を明確にし、その目的・計画に基づいて組織内評価を行い、効果を検証する。 イ ミュージアムショップや普及行事についても適宜、アンケート調査や外部有識者によるピアレビューの実施によって、効果検証などの手法開発を試みる。	ア 「外来生物展」についての内部評価を10月に実施した、ただし、コロナ対応によりアンケートを取れなかったため限定的。 【令和元年度実績】夏期の特別展が巡回展になったため組織内自己評価は実施せず、実行委員会の報告書を持って評価としている。 また、明治大学源由里子教授を招聘し、ロジックモデル研修会を開催し、事務局からの参加者も得て評価手法を学び、館運営の改善に努めた。 イ ミュージアムショップに関する評価もアンケート取得が困難であり実施せず、ショップスタッフがオンライン講演会「ミュージアムグッズサミット」で講演し、多くのコメントと評価をもらい改善の参考とした。 【令和元年度実績】4月にミュージアムショップに関する研究会を実施した。秋以降のミュージアムショップ事業者の選定を外部委員のレビューを受けて実施した。		
(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 入館者に対するアンケート調査を展覧会ごとに実施し、入館者のニーズを把握して事業に反映するとともに、効果的な情報提供、広報活動等に活かす。 イ 館内にご意見ノートを設置して、来館者の生の声を運営に活かす。	6	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア アンケート実績 ・天目展 実施回数:3回 実施期間:18日 回答数213(実施期間中入館者の約6%) ・黒田展 実施回数:5回 実施期間:30日 回答数255(実施期間中入館者の約11.5%) ※非常事態宣言に伴う臨時休館のため、竹工芸展の今年度分は実施できず。 ※新型コロナウイルス感染症対策の一環で、従来の用紙方式に加え、新たにウェブアンケートも同時に実施した。 従来の顧客満足度に代わり、新たに顧客ロイヤリティを数値化する指標を導入し、分析の参考とした。 【令和元年度実績】 ・文房四宝展 実施回数:3回 実施期間:18日 回答数:829(実施期間中入館者の約13%) - フィンランド陶芸/マリメッコ・スピリッツ 実施期間: 実施回数:4回 25日 回答数:1695(実施期間中入館者の約7%) ・灯火具展 実施回数:1回 実施期間:6日 回答数:571(実施期間中入館者の約22%) ・竹工芸展 実施回数:3回 実施期間:18日 回答数:634(実施期間中入館者の約12.3%) ※非常事態宣言に伴う臨時休館のため、3月は実施できず。 イ ご意見ノート0件 ※新型コロナウイルス感染症対策の一環で、ご意見ノートは当面の間撤去している。そのため、ウェブ版方式による意見収集方法を検討した。 【令和元年度実績】ご意見ノート154件	3	
(大阪市立科学館) ア 入館者の満足度等を調査、分析、評価し、館の	6	(大阪市立科学館) ア 入館者に対するアンケートをオンラインと紙	3	

	運営、事業内容の改善を行うなど、住民のニーズを把握し、それに応える魅力ある事業を行う。		媒体の両方で実施し、プラネタリウム、展示場、その他内容について10段階での評価や記述意見を収集し、それら意見を職員に回覧し、事業改善に努めた。 また、新たにサイエンスショーの観覧者アンケートも実施した。 イ 館独自に、チケット販売状況から分析した来館者属性や今年度から導入したインターネットを利用したチケット販売の記録より、来館者の客層分析、動向調査を実施している。 また、展示場の入場者数をカウントするシステムを導入し来館者の動向調査を行っている。		
	(大阪歴史博物館) ア 効果的な広報戦略を策定するため、来館者を対象とした各種アンケートを実施し、他館の結果も参照して分析を行う。 イ 展覧会事業を館内組織で事後検証し、効果を確認する。	6	(大阪歴史博物館) ア アンケートによる情報収集と分析 ・常設展(施設含む)に加え、特集展示4本、特別公開1本、特別展1本、特別企画展1本、特別公開1本のアンケートを実施し、結果を分析して事業策定の参考とする。 ・館長講演会でもコロナ対策を含めアンケートを実施した。 ・Googleフォームを活用し、QRコード形式で実施することで集計の効率化と、コロナ対策を図ることができた。 あわせて、アンケートの回収率と有用な分析データを得るためにアンケート内容とアンケート収集方法について改善企画を立てつつある。 イ 特別展終了後に実施する振り返りの会において、アンケート結果を参照し、検証に役立てている。 ウ インバウンドの来館はないが、6月の再開後はデジタルサイネージを用いた日本語での案内を充実させた。常設展示リニューアルに関連付けて、専門業者に委託して利用者調査を実施し、当館利用者の意向の傾向を把握した。	4	
	(事務局) ア 博物館の利用者等に関する調査・分析等を継続的に実施する。	6	(事務局経営企画課) ア 各館における入館者状況について、入館者数と推移、属性等を可視化して把握し、各館とも共有している。 ・各館の日々の展示ごとの観覧者数等をリアルタイムで集計・分析し、他館の情報も含めた経営会議等での議論を通じて、業務改善を促した。 ・博物館の評価に関する調査研究を勧め、評価制度の構築やPDCAサイクルの循環に関する研究結果を公表した。	4	
7 博物館等資料の保全及び効果的な活用のための計画的な修復 博物館等資料の保存・継承と、展示等による効果的な活用を図るため、必要な修復を進める。			【機構の評価】 美：4、自：3、陶：3、科：3、歴：3 各館とも計画通りに館蔵資料の修復や展示物の改修を実施した。	3	3
	(大阪市立美術館) ア 館蔵資料の中から、資料の状態を勘案して優先	7	(大阪市立美術館) ア 市の予算(20,000千円)により、近世絵画2点	4	

	順位を設け、修復を行う。		、近代絵画1点を修復した。 【令和元年度実績】3件		
	(大阪市立自然史博物館) ア 展示資料を中心に必要に応じた修復を行う。	7	(大阪市立自然史博物館) ア ナウマンホール地図ビューワー、第1, 3 展示室 (映像装置、人体骨格) や第5 展示室の改良を実施した。 【令和元年度実績】第5 展示室などを中心に実施。	3	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 館蔵資料の中から、資料の状態や活用予定などを勘案して優先順位を設け、館蔵品の修復を行う。	7	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 修復作品 韓国陶磁計5件5点 【令和元年度実績】韓国陶磁計7件7点	3	
	(大阪市立科学館) ア 科学に関する展示は、情報の更新や老朽化などが起こるため、計画的な改修・改装を実施する。	7	(大阪市立科学館) ア 新型コロナウイルス感染拡大リスク回避のための改修を含め、老朽化や改良が必要となった14点の展示物の改修を実施した。	3	
	(大阪歴史博物館) ア 館蔵資料の中から、資料の状態を勘案して優先順位を設け、館蔵品の修復を行う。	7	(大阪歴史博物館) ア 絵画、刀剣など3件3点の修復を実施した。 【令和元年度実績】 1件1点	3	
8 各館の施設の計画的な整備及び改修 博物館施設としての機能と利用者サービスの向上を目指し、次の改修等を計画的に実施する。		8	【機構の評価】 美：4、自：4、陶：4、科：4、歴：4 美術館及び東洋陶磁美術館の大規模改修計画を進め、自然史博物館の天井工事及び照明のLED化、科学館のプラネタリウム改修準備、歴博の改装作業など大規模な施設整備にかかる作業が順調に進んだ。	4	4
(大阪市立美術館) 館の機能強化やサービス・魅力向上を目指し、教育普及活動の場の確保も念頭に、本館の大規模改修計画を策定して、2021年度からの実施を目指す。	(大阪市立美術館) ア 館の機能強化やサービス・魅力向上を目的とした本館の大規模改修計画を策定し、今年度は基本設計を策定。令和4年度からの着工、令和7年度のリニューアルを目指す。	8	(大阪市立美術館) ア 基本設計を完了させ、来年度は実施設計に進む。中央ホールの無料化、多目的ホールや教育普及のための施設の設置、カフェやショップの充実、慶沢園とのアクセスなど多岐にわたって検討し、設計に反映できた。	4	
(大阪市立自然史博物館) 今後50年を見据え、収蔵体制や常設展示をより魅力的な情報提供の場とするため、将来の展示改装に向けた構想づくりに着手する。 常設展示場内の展示端末およびその運用システムの更新を検討する。	(大阪市立自然史博物館) ア 全面的な環境改善を必要とする旧第二収蔵庫を改修し、合わせて移動式物品棚の整備を進めていく。(再掲) イ 天井 耐震 ・防水工事・アスベスト対策などの計画的整備・改修を進める。 ウ 研究機器などの継続的更新を進める。 エ 将来的な展示更新のための調査を進める。情報機器の刷新計画と合わせ、魅力的な展示の実現に向け検討を行う。	8	(大阪市立自然史博物館) ア 旧第二収蔵庫のアスベスト改修工事の後に移動式物品棚を設置し、一部収蔵品を移動した。これにより収蔵能力が植物・昆虫・動物分野それぞれに向上した。現在、収蔵能力向上の中期的な方向性を検討中、来年度調査を予定している。 イ ネイチャーホールの天井耐震を9月から実施、3月までに本館のEV、第三展示室の屋上防水、空調設備更新を実施した。合わせてネイチャーホールの天井照明はLED化された。休館期間を利用して第2展示室の壁面を一部修理、展示内容は第2, 3展示室の課題を検討し一部改良した。大規模改修については予備的な議論を行った。 ウ 情報システムの更新について検討を進め、改善提言を外部専門家や市民を交えて形成してもらった。メールサーバの変更、図鑑DBシステムの刷	4	

(大阪市立東洋陶磁美術館) 館の機能強化のため、本館エントランスを中心とした大規模な改修計画を策定し、2020年から実施を目指す。	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 今年度からの本館エントランスを中心とした大規模改修計画の設計作業を実施する。 イ 老朽化した展示ケースはじめ展示室の改修などを検討する。 ウ LED照明など展示機器の更新をする。	8	新検討を進めた。 (大阪市立東洋陶磁美術館) ア 大規模改修計画の基本設計作業が完了した。 イ 展示室の改修に向けての検討を行った。 ウ LED照明に関する最新情報を収集し、館内での研修を兼ねた実証実験を実施し、今後の更新の検討の参考にした。	4	
(大阪市立科学館) 展示情報を更新し老朽化を回避するため、計画的な改修・改装を実施する。	(大阪市立科学館) ア 第4次展示改装2期目の基本設計を実施する。 イ 常設展示品・展示場の老朽化、安全対策の検討を行う。 ウ プラネタリウムホール及び全天周映像システム更新の基本設計を実施する。 エ 受変電設備更新、給排水設備更新をはじめとした各種施設整備の計画を行う。	8	(大阪市立科学館) ア 新型コロナウイルス感染拡大防止による展示手法の見直しが必要となったため、3年度に予定していた展示改装を延期し、基本設計を中断した。 イ 新型コロナウイルス感染拡大リスク回避のための改修を含め、展示品の老朽化等により機能が低下した展示物7点を改修した。 ウ 3年度に実施予定であるプラネタリウムホール設備および全天周システムの更新計画作成を行った。 エ 受変電設備更新、給排水設備更新をはじめとした各種施設整備を計画作成を行った。	4	
(大阪歴史博物館) 常設展示場の見直しを行い、老朽化した展示ケースや備品類の新調、展示機器の更新などを実施する常設展示場内の展示端末およびその運用システムの更新を検討する。 増加する海外からの来館者に対応するための施設整備に努める。	(大阪歴史博物館) ア 老朽化した展示ケースや備品類の新調、展示端末などの展示機器の状況を把握し、適宜対応を行う。 イ 展示更新計画の策定のための調査（改修方法と内容、費用、スケジュール）を実施し、調査結果をとりまとめ、基本構想へ向けての準備を進める。 ウ 展示ケースの有機酸対策について日常的に対応するとともに必要データを集め、展示更新計画のなかに改修工事を位置づける。	8	(大阪歴史博物館) ア 展示ケースおよび展示用蛍光灯、展示情報端末（コロナ対策により使用停止中）については経年による劣化、故障が生じており、随時、修理などの対策を実施。 イ 展示等の改修については2024年度中の完成を目標に、常設展示等改修基本構想の策定を実施した。 ウ 昨年度、展示ケース内の有機酸濃度が大きな問題として浮上したため、継続的に他館状況等について情報を収集し、機構内各館とも情報共有・対策打合せを実施（3月）するとともに、吸着材、空気清浄機および換気による対処的な対策を実施し、各種計測器により必要データを蓄積中である。今後の対策については展示改修等の基本計画での具体化を目指している。（再掲）	4	
9 調査研究活動等の拡充を目指した外部資金の獲得 科学研究費補助金をはじめ助成金等の獲得に努める。 科学研究費補助金の新たな館での研究機関指定を目指す。			【機構の評価】 美：4、自：4、陶：4、科：3、歴：4、経：4 科学研究費補助金については、代表研究27件・分担研究16件合計43件が進行して（内令和2年度の新規採択は、機構全体で17件）、令和2年度の採択総額は35,152千円に上る。 また、文化庁からは、「地域と共働した博物館創造活動支援事業」として、13,160千円の支援を得た。 昨年度から科研費申請を行えるようになった科学館でも令和3年に向けて1件の新規採択があったの	4	新規の科学研究費補助金を17件獲得した点については、非常に評価できると考えるものである。
					5

			は大きな前進であった。		
	(大阪市立美術館) ア 科学研究費補助金を獲得するため、学芸員が新規申請を行う。	9	(大阪市立美術館) ア 学芸員9名中のべ5名が獲得。 科学研究費:4名が獲得、1名が分担者 文化庁助成金:1名が獲得 【令和元年度実績】 科学研究費:3名が獲得、1名が分担者 民間助成金:1名が獲得 イ 事務局と共同して文化庁補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」を申請し、採択された(採択額13,160千円)。	4	
	(大阪市立自然史博物館) ア 科学研究費補助金を活用した現在継続中の研究課題を継続的に実施する。また研究活性化のために当面取り組むべき研究課題について新規の応募を科学研究費補助金及び民間研究助成金に対して行う。 イ 自然史・レガシー事業などを通じた館外との連携事業を実施する。 ウ 文化庁補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」に各館とともに応募する。	9	(大阪市立自然史博物館) ア 令和2年度に向けて、研究代表者として14件(新規課題5件、継続課題9件)が採択された(これと別に延長課題2件)。他研究機関の分担者として参加する課題も7件(新規2件、継続は5件)、その他民間助成5件(新規2件、継続3件)と多様な研究を行っている。 【令和元年度実績】研究代表者採択12件(新規5件・継続7件)、分担者6件(継続3件、新規3件)のほか民間助成金7件採択 館から新規申請12件、分担者としての申請企画9件。 イ 文化庁補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」の採択を受け、視覚障害者対応。大阪自然史フェスティバル関連シンポジウムを実施。内容はコロナ禍により大幅縮小してオンラインで実施したが、多くの視聴を得ることができた。	4	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 科学研究費補助金を獲得するため、学芸員が新規申請を行う。 イ 文化庁補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」に各館とともに応募を行う。	9	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 科学研究費補助金を獲得するため、学芸員が新規申請を行った。 ・新規申請2名3件、新規採択1名(研究代表者)継続4名(研究代表者3名、研究分担者1名) ※館長・学芸員計6名中 【令和元年度実績】新規申請2名3件、継続4件(研究代表者3名、研究分担者1名) イ 事務局と共同して文化庁補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」を申請し、採択された(採択額13,160千円)。	4	
	(大阪市立科学館) ア 科学研究費補助金をはじめとした各種研究助成金を獲得するため、学芸員が新規応募を行う。 イ 文化庁補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」に各館とともに応募を行う。	9	(大阪市立科学館) ア 科学研究費補助金を獲得するため、令和2年度に向けて学芸員12名が10件応募し、また学芸員1名が「研究活動スタートアップ支援」部門で新規申請を行った(採択0件)。その他、令和3年度の科研費の募集に対して応募を行った(応募11件、採択1件)。 【令和元年度実績】応募10件、採択0件 イ 事務局と共同して文化庁補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」を申請し、採択さ	3	

	(大阪歴史博物館) ア 科学研究費補助金等外部資金を獲得するため、学芸員が新規応募する。 イ 文化庁補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」に各館とともに応募する。	9	れた（採択額13,160千円）。 (大阪歴史博物館) ア 令和2年度の科学研究費助成金は新規応募件数が8件、うち2件が新規採択となった。また、「研究活動スタート支援」に2件応募（いずれも不採択）。令和3年度分については新規応募件数が4件、加えて研究成果公開促進費1件に応募した。なお、令和2年度の研究代表者5件、研究分担者7件は、令和3年度も継続の予定である。 【令和2年度実績】 研究代表者5件（継続課題3件、新規採択2件） 研究分担者7件（継続課題2件、新規採択5件） ただし新規採択1件は機構内部の分担者） ・出光文化福祉財団の調査・研究助成を受け（1件）、令和3年度にも応募し採択された（1件）。 【令和元年度実績】採択7件（新規4件・継続3件、研究代表者5件、分担者2件） イ 中核館として事務局と共同して文化庁補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」を申請し、採択された（採択額13,160千円）。 当館の主体事業は不採択となったが、中之島美術館との共同事業を実施した。	4		
	(事務局) ア 科学研究費補助金を活用した研究課題23件を継続的に実施し、また新規の応募を行って研究資金の獲得に努める。 イ 文化庁補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」を活用した事業を実施し、また次年度の応募を行って補助金獲得に努める。	9	(事務局経営企画課) ア 科学研究費補助金については継続的に実施中。 イ 各館と共同して文化庁補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」を申請し、採択された（採択額13,160千円）。	4		
10 バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した計画的な整備及び改修 高齢者、障がい者、ベビーカー利用者等の利便性を図るため、バリアフリー化を推進する。 さまざまな利用者を念頭に、ユニバーサルデザイン化を推進する。			【機構の評価】 美：3、自：4、陶：3、科：3、歴：3 自然史博物館の点字資料、科学館のスマートフォンを利用した展示解説（韓国語）などのバリアフリー化に取り組んだ。また、計画を有している館については、その計画を進めた。	3		3
	(大阪市立美術館) ア 館の機能強化やサービス・魅力向上を目的とした本館の大規模改修計画を策定し、今年度は基本設計を策定。令和4年度からの着工、令和7年度のリニューアルを目指す。（再掲） イ 来館者状況を注視しつつ施設案内等（非常時の案内を含む）の多言語化の見直しを進める。	10	(大阪市立美術館) ア 基本設計を完了させ、来年度は実施設計に進む。中央ホールの無料化、多目的ホールや教育普及のための施設の設置、カフェやショップの充実、慶沢園とのアクセスなど多岐にわたって検討し、設計に反映できた（再掲）。	3		
	(大阪市立自然史博物館) ア 障がい者の観覧や行事参加を補助するための支援策策定に向けプログラム検討や教育ニーズなどの情報を収集する。 イ 受付カウンターなどでのタブレット端末を利用した翻訳や説明の支援を検討し進める。 ウ 高齢者の参加ニーズなどに関する検討を進め	10	(大阪市立自然史博物館) ・エレベーター更新においてバリアフリー化を図った。 ア 日本ライトハウスによるアドバイスを受け、10月以降、館内研修、点字資料などの改善・作成を行った。 イ 科研費による研究会を3月に予定していたが	4		

る。 エ 照明の LED 化の推進による照明環境の向上に努める。		、新型コロナウイルス感染症の影響で中止した。		
(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 障がい者の観覧を補助するための支援策策定に向けて情報を収集する。 イ トイレの改修、授乳室設置など来館者ニーズを踏まえた環境整備の検討を進める。 ウ 増加する海外からの来館者を踏まえ、施設案内等（非常時の案内を含む）の多言語化の検討を進める。	10	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア エントランス増築棟建築計画に合せて情報収集をした。 イ エントランス増築棟建築計画に合せて情報収集をした。	3	
(大阪市立科学館) ア 施設案内等（非常時の案内を含む）の多言語化の検討を進める。 イ 解説・説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者増加を図る。	10	(大阪市立科学館) ア 救護室、おむつ交換用ベビーベッドを設置している。また、車椅子とベビーカーの貸し出しを実施している。 イ トイレ洋式化を検討中	3	
(大阪歴史博物館) ア 障がい者の観覧を補助するための支援策策定に向けて情報を収集する。 イ 増加する海外からの来館者対応のため、万博に向けた改修計画のなかでトイレの洋式化などの調整を進める。 ウ 来館者状況を注視しつつ施設案内等の多言語化について見直しを進め、展示更新計画と合わせて新たなあり方を検討する。 エ 震災・火災等の非常時の案内について、様々な来館者に対応できる方策を検討する。	10	(大阪歴史博物館) ア 全館バリアフリー化、多目的トイレ設置、車椅子貸出し等対応済み。更なる改善点については情報収集中 イ トイレの洋式化は、改修計画作成済み。 ウ AED（自動体外式除細動器）を1階ならびに5階に設置。新型コロナウイルス感染症拡大防止の案内を多言語で実施した。	3	

中期目標	1 さまざまな魅力の創造、発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」
	(2) 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力の効果的な発信 博物館等の魅力を広く伝えるため、各館がさまざまな活動を展開するとともに、他の博物館等、学校、学会、調査研究機関その他の国内外の関係機関（以下「他の博物館等関係機関」という。）と積極的に連携する ・常設展における展示替え及び自主企画による特別展等の充実による展示活動の活性化 ・博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧並びにそれらの調査研究に関する教育及び普及の事業を行うこと ・多様な媒体及び手段を通じた調査研究その他の活動の成果の公開 ・博物館等資料の貸出し及び他の博物館等関係機関の資料の借用 ・各館の枠を超えた知識及び経験等の共有並びに展示及び広報等における戦略的連携 ・ＩＣＴ等を活用した博物館等資料に関する情報の有効利用及びアーカイブ化による公開の推進 ・他の博物館等関係機関との相互支援及び協働を通じた相互の資源の保全及び効果的な活用 ・各館の建物及びその附帯設備等を有効活用した幅広い事業の実施

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由・評価のコメント	評価
(2) 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力の効果的な発信						
博物館等の魅力を広く伝えるため、次の通り、各館がさまざまな活動を展開するとともに、他の博物館等、学校、学会、調査研究機関その他の国内外の関係機関と積極的に連携する。						
【各館及び法人(以下、「各館等」という。)の基礎的活動の充実を目指す事項】 11 常設展における展示替え 常設展示について、次の方針のもと、展示更新をはじめその充実に努める。			【機構の評価】 美：4、自：3、陶：3、科：3、歴：3 コロナ禍のため、休館や、入場者数の制限などから当初の目標人数から各館大幅に来館者数が落ち込んだ。しかしながら、密を避ける、アルコール設置、科学館の抗ウイルス対策など感染予防対策をとり、開館した後は、感染状況の影響を受けながらも、一定の入館者数を獲得することができた。	3		3
(大阪市立美術館) 最新の研究成果を基に館蔵品及び寄託品を活用し、日本と中国をはじめとする東アジアの美術・歴史・文化の理解の促進に寄与する展示を行う。	(大阪市立美術館) コレクション展では、購入や寄贈によって集まった日本・中国などの絵画・彫刻・工芸など8,400件をこえる館蔵品と、社寺などからの寄託品から作品を選定して展示する。 ア 最新の研究成果を基に館蔵品及び寄託品を活用し、日本と中国をはじめとする東アジアの美術・歴史・文化の理解の促進に寄与する展示に取り組む。 イ 館蔵品及び寄託品を紹介するため、本年度は特集展示「没後50年 浪華の女性画家 島成園」ほか「おおさかの仏教美術3」「古代エジプト コプトの美術」「鳥獣草木ー中国・朝鮮王朝の絵画」等のコレクション展を18本程度実施する（下半期日程は未定）。	11	(大阪市立美術館) ア コロナ禍で一時間閉館を強いられたが、9月末までの展示日程を組み替え、当初計画通り11本のコレクション展を実施した。 年間総入場者数 【令和2年度】 コレクション展単独：10,844人 総入場者：33,555人 【令和元年度実績】98,471人	4		
(大阪市立自然史博物館) 「自然と人間」をテーマにした展示を行い、自然科学研究の進展や、新たな資料やコンテンツの活用	(大阪市立自然史博物館) 人間をとりまく「自然」について、その成り立ちやしくみ、変遷や歴史を「身近な	11	(大阪市立自然史博物館) 常設展示の入場者数実績は臨時休館後の6月からの再開以降、順調な推移を見せているが、A.4、5月	3		

に合わせた適時の更新を進める(開館日)。 常設展示室内で、小規模な企画展示を適時実施する。	自然 「地球と生命の歴史」「生命の進化」「生き物のくらし」のテーマで展示する。 ・岸川椿蔵書展 3月7日～4月5日 ・「世界一変な火山」展 4月11日～5月31日 ・「池田小の地下」 4月25日～6月14日 ・「氷河時代展ポスターができるまで」展 10月3日～11月8日 ・自由研究展 12月～1月 ・干支展 1月4日～1月末などを予定(時期未定) イ 展示室内での子どもワークショップを継続的に実施することによって、既存の展示室の活用を活発化する。	の閉館 B. 小中学校の校外学習の中止 C. 夏の大規模展覧会の中止 D. 大阪自然史フェスティバルの中止などの影響があり、新たに、9月に目標値を93,165人とした。厳しい状況ではあるが、結果として10万人を超えることができた。 令和2年度の実績入館者数 102,488人 (うち、有料 48,361人、無料54,127人) 【令和元年度実績】 290,812人 (うち、有料 132,204人無料 158,608人) ア テーマ展示・コーナー展示を実施 ・岸川椿蔵書展 3月7日～4月5日コロナによる休館で実施できず YOUTUBE にて公開 ・「世界一変な火山」展 4月11日～5月31日 コロナによる休館で実施できず、来年度開催 ・「池田小の地下」 4月25日～6月14日 コロナによる休館で実施できず、来年度開催 ・大山桂貝類学文庫 ミニ展示 6月2日～8月30日 (25,517人観覧) ・「陸前高田市立博物館コレクションが遺す地域の自然と文化ー自然史標本レスキューの現在地点ー」 10月16日～11月29日 (24,329人観覧) ・「氷河時代展ポスターができるまで」展 10月3日～11月8日 (21,607人観覧) 「ジュニア自由研究・標本ギャラリー」12月12日～1月11日、3月13日～28日 「丑年展」12月12日～1月11日、3月13日～28日 (14,177人観覧) イ 子どもワークショップを38回分企画したが、4～7月実施分はコロナ影響により中止。代替プログラムをデジタルコンテンツにより提供した。8月以降は再開している。		
(大阪市立東洋陶磁美術館) 独自の展示方法による魅力ある館蔵品の展示を行う。	(大阪市立東洋陶磁美術館) 安宅コレクションの中国・韓国陶磁を中心に、李秉昌(イ・ビョンチャン)コレクションの韓国陶磁や、日本陶磁などの館蔵品を展示する。 ア 安宅コレクションの中国陶磁・韓国陶磁、李秉昌コレクションの韓国陶磁、日本陶磁、沖正一郎コレクション鼻煙壺、近現代陶芸などの中から代表的作品を中心に約300点(特別展・企画展開催時は規模縮小)をそれぞれ陶磁史の流れに沿って展示する。 イ 常設展示に変化と多様性を持たせるため寄贈作品を中心に約20～30点をテーマ・ジャンルごとに企画構成する下記の特集展示を開催する。 ・「現代の天目ー伝統と創造」4月25日～8月16日 ・「柿右衛門(仮称)」8月29日～11月23日 ・「悠久の中国陶磁(仮称)」12月5日～3月28日	11 (大阪市立東洋陶磁美術館) 国宝2点、重要文化財13点を含む世界有数の東洋陶磁コレクションである安宅コレクションの中国・韓国陶磁を中心に、李秉昌(イ・ビョンチャン)コレクションの韓国陶磁や、日本陶磁などの館蔵品を自然採光や自然光に近いLED照明、独自の免震装置、日英解説などにより展示した。 【令和2年度実績計】32,221人(6月～3月) ア 安宅コレクションの中国陶磁・韓国陶磁、李秉昌コレクションの韓国陶磁、日本陶磁、沖正一郎コレクション鼻煙壺、近現代陶芸などの中から代表的作品を中心に約300点(特別展・企画展開催時は規模縮小)をそれぞれ陶磁史の流れに沿って展示した。 イ 常設展示に変化と多様性を持たせるため寄贈作品を中心に約20～30点をテーマ・ジャンルごとに企画構成する下記の特集展示を開催した。 ・「現代の天目ー伝統と創造」6月2日～11月8日 ・「柿右衛門ーYumezurasコレクション」11月21日～令和3年7月25日(予定)	3	

(大阪市立科学館) 物理学・化学・天文学・科学史・気象・科学技術に関する資料及び実験装置、観測装置の実物資料の展示、並びに体験型展示を行う(開館日)。 展示化が困難な現象やより展示内容を掘り下げた現象について、サイエンスショーを通じて演示する。	(大阪市立科学館) 「宇宙とエネルギー」をメインテーマに、1階から4階の各フロアで模型・装置・実物などにより展示し、またサイエンスショーなどの演示を行う。 ア 実験装置、観測装置の実物資料静展示や体験型展示を設置する。 イ 展示化が困難な現象等はサイエンスショーで演示し、新プログラムを3か月に1本実施する。	11	(大阪市立科学館) 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月1日から7月20日まで、展示の公開を休止した。休止期間中、各展示物の感染リスクの評価と対策の実施、展示場の最大滞留可能人数の決定と滞留人数カウントシステムの導入、消毒回数や実施案の策定、アルコールボトル設置、展示場入口改札のソーシャルディスタンス対応、全展示物やサイエンスショーコーナー・トイレ・展示場の床・壁などへの抗ウイルス剤塗布、感染リスクの高い展示物1点へのリスク回避の改修、加えて展示物28点に公開中止対応を行った上で、7月21日より再開した。なお、サイエンスショーは、定員と実施回数を減らした上で8月6日より再開した。また、休館期間中は、オンライン配信によるサイエンスショーを実施し、対応した。 2年度の展示場入場者数は、87,405人。 ア 常設展示場では、実物資料静展示や体験型展示を221点設置しているが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3月31日現在、感染リスクの高い展示物17点の公開を休止中。 イ サイエンスショーの演示回数は354回。また、サイエンスショーのオンライン配信は、展示場公開休止期間中に4回実施し、公開再開後の10月24日から毎日1回ライブ配信で実施している。	3	
(大阪歴史博物館) 「都市おおさかの歴史」をテーマに展示を行うとともに、時宜やテーマに即した「特集展示」を開催する(開館日)。	(大阪歴史博物館) 古代から中近世、近現代にわたる「都市大阪のあゆみ」を模型・映像や実物資料などで展示する。 ア 最新の調査研究成果にもとづき、季節や時宜に応じた展示、話題性のあるテーマ・内容(徳川大坂城400年など)の展示をおこなうことで常設展示の更新に取り組む。 イ 様々な国の人々が展示を理解できるように、日本語以外の表示の充実をはかる。 ウ 館蔵資料および市内出土の考古資料を紹介するため、6本の特集展示を実施する。 ・「発掘された難波京」5月13日～7月20日 ・「河内源氏1000年 壺井八幡宮の社宝」7月22日～8月24日 ・「新発見! なにわの考古学2020」8月26日～11月9日 ・「大阪の灯火具」11月11日～1月11日 ・「蒐集家・高島唯峰—明治期考古学の遺産—」1月13日～3月22日 ・「大阪市の指定文化財展—平成28年度から令和2年度まで—」3月24日～5月17日	11	(大阪歴史博物館) 令和2年度実績 45,463人 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響から5月31日までの臨時休館となり、再開後も訪日外国人旅行者の激減、国内の来館者の減少によって常設展示入場者数は、前年度実績・今年度目標を大きく下回った。 ア 常設展示の更新は47件を実施。各フロアを連携させたテーマ展示「疫病退散の祈り」を実施し、以後もテーマ性のある企画として「なにわの仮装文化」、「徳川大坂城400年」、「建てる」を実施した。 イ 展示資料の内容に合わせ適宜外国語訳を付した。 ウ 特集展示は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため8月までの下記の展示を中止とした。 「発掘成果から考える近世都市「おおさか」の食文化」(前年度より展示は完成段階) 「発掘された難波京」(リーフレット完成段階) 「河内源氏1000年 壺井八幡宮の社宝」 なお、状況の変化に応じて、「特別公開 重要文化財 久米田寺文書」(7月22日～8月24日)を代替企画として急遽立案し実施した。 「新発見! なにわの考古学2020」以降の企画は予定通り実施した。	3	
(大阪中之島美術館) 開館後、所蔵品と寄託品を活用して、多彩なテーマ	(大阪中之島美術館) 【記載なし】	11			

により、変化に富むコレクション展示を開催する					
12 自主企画による特別展等の充実による展示活動の活性化 特別展等について、次の方針のもと、利用者ニーズにも配慮した魅力的な企画の実現に努める。			【機構の評価】 美：3、自：4、陶：4、科：4、歴：4 コロナ禍において、「天目展」は、開催期間を延長することで来館者の利便を図った。「埋忠展」もその展示内容や、アニメーションとの連携、SNS発信などにより、コロナ禍でも集客に健闘した。ただし、一部の企画展においては、コロナの影響を鑑みても集客が芳しくなかったものもあった。	4	4
(大阪市立美術館) 国内外の美術館・博物館や寺院・神社をはじめとする所蔵者と連携するとともに、新聞社・テレビ局などと協働した特別展を開催する(年3～4回程度)。なお、改修工事実施に伴い、年度により、開催回数が変動することがある。	(大阪市立美術館) 国内外の美術館・博物館や寺院・神社をはじめとする所蔵者と連携するとともに、新聞社・テレビ局などと協働した特別展を開催する。本年度は以下の5本の特別展を実施する。 ・「フランス絵画の精華」(巡回企画) 4月11日～6月14日 開催日数 57日 17～19世紀にかけてのフランス絵画の名品を、ヴェルサイユ宮殿美術館・オルセー美術館・大英博物館など欧州の20館以上の協力を得て89点を展示する。 ・「第66回全関西美術展」(自主企画) 7月1日～7月13日 開催日数12日 大阪市立美術館が関西圏の作家に出品を募集し、審査をして開催する公募展覧会。 ・「揚州八怪」(自主企画) 8月29日～10月18日 開催日数45日 清朝中期、揚子江のほとりに繁栄した揚州に集った「揚州八怪」と呼ばれる個性的な書画家たちの魅力を紹介。国内の蔵品に加え上海博物館から名品を借用する。 ・「天平礼賛」(自主企画) 10月27日～12月13日 開催日数42日 天平美術に関する優品を一堂に展示するとともに、歴史の中で繰り返し振り返られ、日本の美の古典となった天平美術に焦点をあてる。 ・「改組新7回 日展」(巡回企画) 2月20日～3月21日 開催日数26日 日本画・洋画・彫刻・工芸美術・書の55部門からなる日本で最も歴史と伝統のある公募展。	12	(大阪市立美術館) ア コロナ禍により来館者が平年に比べ大きく落ち込んだが、欧州の借用各館との交渉を進め、フランス絵画展の会期を変更し、赤字削減に積極的に取り組んだ。天平展では展示の企画や展覧会そのものは高い評価を受けたが、コロナ禍のなかでの効果的な広報方法を追求しきれず、入場者が目標に届かなかった。一方、文化庁から多額の補助金を獲得した経験により、令和3年の「聖徳太子」展で同じ補助金を得ることに繋がった。 ・「第66回全関西美術展」(自主企画) コロナ禍のため多数の人による搬出入や密になる審査などが行えないため本年度は中止 ・「揚州八怪」(自主企画) 主たる借用先である上海博物館および共催の読売新聞社と協議し、2021年度に延期・「天平礼賛」(自主企画) 予定通り実施。入館者数：8,556人 ・「改組新7回 日展」(巡回企画) 予定通り実施。入館者数：30,271人	3	
(大阪市立自然史博物館) 博物館の収蔵品や学芸員の調査研究の成果の市民への還元や新たな価値の創出を目指し、主催特別展を開催する(毎年1回)。国内外の自然史系博物館や新聞社・テレビ局などと連携して、特別展を開催する(年2～3回程度)。	(大阪市立自然史博物館) 以下の2本の特別展を実施する。 ・「知るからはじめる外来生物展」(自主企画) 3月1日～5月31日 ※新型コロナウイルス感染症の影響により開始日を変更。 日本を中心に外来生物問題を紹介し、自然との付き合い方を考えてもらう機会とする。あわせて、平成27年から市民参加で実施している外来生物調査プロジェクトの成果の発表も行う。	12	(大阪市立自然史博物館) 「知るからはじめる外来生物展」は、開催期間を「令和2年6月9日(日)から8月30日(日)まで」とし、特別展「知るからはじめる外来生物 ～未来へつなぐ地域の自然～」として再開を告知。しかし、遠足などを見込めない時期でもあり、また積極的な集客広告を打つことが難しい時期であったことが影響した。 主に無料入館者が伸び悩んだが、変更後の目標(7,000人)を越え8,261人(うち有料3545人)となった。	4	

	・「かがくのとびら」展（巡回企画） 7月11日～ 9月6日 科学絵本を題材とした特別展、福音館の「科学の友」を題材とし、原画及び絵本に取り上げられた、自然、体、食べ物、乗り物に関する展示を展開する。絵本の閲覧スペース、読み聞かせやワークショップなども展開する。		通販により解説書の販売をおこなったが、好調な販売を示した。		
（大阪市立東洋陶磁美術館） 国内外の美術館・博物館などと連携し、当館の特徴を活かした特別展や企画展を開催する（年3～4回程度）。 なお、改修工事実施に伴い、年度により、開催回数が変動することがある。	（大阪市立東洋陶磁美術館） 以下の3本の特別展を実施する。 ・「上海博物館所蔵 明時代“空白期”の景德鎮磁器」（自主企画） 5月16日～8月16日、開催日数80日 本展は、最新の発掘や研究の成果をもとに、上海博物館の所蔵作品を通して、これまで謎であった明時代15世紀中期の「空白期」と呼ばれる景德鎮磁器の特徴やその意義について日本で初めて紹介する。なお、特別展「天目—中国黒釉の美」（会期4月25日～8月16日、開催日数98日）を同時開催する。 ・「黒田泰蔵」（自主企画） 8月29日～11月23日 開催日数75日 陶芸家の黒田泰蔵（1946 - ）は、静謐な白磁の造形で世界的に知られている。本展ではこれまで国内の美術館では紹介される機会の少なかった黒田の活動を、イセ文化基金所蔵品と当館所蔵品を中心に、白磁作品約80点で紹介する。 ・「希蘊廬コレクション 清朝陶磁の精華展」（自主企画）12月5日～3月28日、開催日数92日 本展は、香港在住の清朝陶磁コレクターとして著名な希蘊廬（きうんろ）氏の所蔵品から、日本ではほとんど見ることのできない日本初公開の清朝陶磁の精華約60点を紹介する。	12	（大阪市立東洋陶磁美術館） ・「天目—中国黒釉の美」（自主企画） 6月2日～11月8日、開催日数138日 【入館者目標値】22,600名 【入館者実績】24,524名 コレクションを活用し、研究成果を反映した本展は、回転ケースや踏台など国宝「油滴天目」などの見せ方に工夫をこらし、また最新の撮影技術による画期的な図録や新たな鑑賞方法を開拓した。さらに、現代の天目を集めた特集展を同時開催し、特別展と関連させた企画内容は好評で、新規層の取り込みにもつながった。その他、特集展のQRコードによるウェブ解説やデジタル図録のHPでの無償頒布、関連高額グッズの販売、記念講演会のチケットのネット予約・販売など新たな試みにも積極的に取り組み、効果を上げた。この他、会期の長期化や支出削減などの取り組みもあり、結果として目標を超える収益増、入館者増となった。また、ウェブアンケートを新たに実施し、迅速なサービス改善に務めるとともに、従来の顧客満足度に代わり、顧客ロイヤルティを数値化する指標を導入した。 ※新型コロナウイルス感染症のため特別展「上海博物館所蔵 明時代“空白期”の景德鎮磁器」の開催は中止となり、天目展の会期変更、長期化による開催で対応した。 ・「黒田泰蔵」（自主企画） 11月21日～2021年7月25日（予定）、開催日数206日 現役の日本人作家としては当館で初めての特別展となった本展は、白磁作品で世界的に知られる陶芸家の黒田泰蔵（1946-）の作品を紹介した。本展に先立って黒田作品の寄贈が相次ぎ、館蔵品として22点を出品することができた。これに加え、イセ文化基金所蔵品40点、個人蔵1点、そして作家蔵1点の計64点の代表作を展示した。本展にはイセ文化基金から協賛金250万円をいただいた。また、安藤忠雄氏の協力を得て新聞やウェブの取材を受け展覧会評の掲載につなげた。緊急事態宣言期間中は、作家のアトリエを紹介する映像や、作品解説のウェブ公開など、オンラインで展覧会を積極的に紹介し、InstagramなどSNS広報によって新たな来館者獲得に努めた。また、オリジナルグッズの委託販売など、企業との協力をおこな	4	

			た。コロナ禍において3月末時点で全会期目標入館者数の38.1%を達成し、有料率73%となった。 【入館者目標値】20,188名 【入館者実績】7,697名（3月31日現在）名 ※新型コロナウイルス感染症による天目展会期の変更に伴い、黒田泰蔵展の会期も変更となり、また清朝陶磁展は延期とした。 【令和元年度実績】 ・「フィンランド陶芸 芸術家たちのユートピアコレクション・カッコネン」 ・同時開催「マリメッコ・スピリッツ フィンランド・ミーツ・ジャパン」（巡回企画） 7月13日～10月14日、開催日数81日 【入館者実績】57,610名 ・「竹工芸名品展：ニューヨークのアビー・コレクションメトロポリタン美術館所蔵」（巡回企画）12月21日～2020年4月12日、開催日数91日（当初予定）新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2月29日以降は臨時休館とし開館日数53日 【入館者実績】15,655名		
(大阪市立科学館) プラネタリウムの投影を特別展と位置づけ、定期的にテーマを変え、実施する(開館日)。 小～中規模の企画展を開催する(年1～2回程度)。	(大阪市立科学館) ア プラネタリウムの投影を特別展と位置づけ、新プログラムを3か月に1本制作・投影し、他館に配給する特別プログラムを年1本制作する。 イ 企画展「はやぶさ帰還10周年」、「南部陽一郎生誕100周年」を実施し、科学の最新の成果や、日本の科学研究について広く紹介することにより、市民の興味を喚起する。 ウ プラネタリウムや展示等の各種事業において、学芸員の専門性を生かして、幅広い層にアピールするプログラムを開発する。	12	(大阪市立科学館) ア 新型コロナウイルス感染症拡大拡大防止のため、4月1日から5月20日まで、プラネタリウムの公開を休止した。休止期間中、プラネタリウムホールにおける感染リスクの評価と対策、最大入場人数の算定、消毒回数や実施案の策定、アルコールボトル設置、ホール入口改札のソーシャルディスタンス対応、ホールの全座席や手摺、床、扉などへの抗ウイルス剤塗布、利用中止の座席への表示などの作業を行った上で、5月21日より定員60名(通常時300名)、一日投影回数5回(通常時7～8回)で再公開した。なお、6月17日には定員を95名とし、7月16日からはファミリータイムも再開して一日投影回数を7回にし、さらに8月8日には土日祝日を8回投影として、投影回数を通常通りに戻した。また、9月2日には学校団体向けの学習投影も再開し、10月1日からは1回の定員を150名とした。今年度のプラネタリウム入場者数は、110,410人。 <備考> 一般投影：3か月毎に2パターンずつプログラム更新を実施。 ファミリータイム：お子様とその家族を対象としたプログラム。毎日1～2回実施。 学習投影：小中学校の天文分野の学習内容に準拠した学校団体専用プログラム。学校期間の平日に3回実施。 イ 今年度は当初より予定していた2件の企画展に加え、1件の企画展示を追加実施し、計3件開催した。 ①「はやぶさ帰還10周年」：7/1～7/12。アトリ	4	

			ウム(無料スペース)にて開催。なお本展は、会期の大半が新型コロナウイルス感染症拡大に伴う臨時休館期間となったため、会場をアトリウム(無料スペース)に変更して実施した。 ②企画展示「歴史資料で見る 科学の歩み」(7/21～11/29) ③南部陽一郎生誕100周年記念企画展「ほがらかに」(1/13～3/28)。 その他、アトリウムとホワイエ(無料スペース)において以下の期間限定展示を行った。 ①「新コレクション展2020」(5/21～6/28) ②「はやぶさ帰還10周年」(7/1～7/12) ③「夏休み”mini”ミニ气象台」(7/15～8/30) ④「小惑星探査機はやぶさ2」(12/10～2/28) ⑤「蔵出しコレクション展2021」(3/3～3/31) 【令和元年度実績】112,884人(企画展開催期間中の常設展示場入場者数) ウ ブラネタリウムにおいて、学芸員がそれぞれ企画・制作したプログラムで投影を行う特別プログラム「学芸員スペシャル」を実施した。また新たに、サイエンスショーのYoutube上でのライブ配信を10月24日より開始した。		
(大阪歴史博物館) 国内外の博物館やコレクター、大学、新聞社・テレビ局などと連携し、自主企画や巡回展により、特別展・特別企画展を開催する(年3～4回程度)。	(大阪歴史博物館) ア 以下の2本の特別展を実施する。 ・「NHK大河ドラマ特別展「麒麟がくる」」(共同企画) 4月25日～6月14日、開催日数45日 NHK大河ドラマ特別展として、本能寺の変で織田信長を討った明智光秀にスポットをあてる。光秀ゆかりの作品を通じて、謎に満ちた人物像や彼の事績をたどるとともに、信長や細川藤孝、娘のガラシャなど、彼を取り巻く人物たちを紹介する。 ・「妖怪(あやかし)―怪異をめぐる世界展―」(巡回企画) 7月18日～9月14日 開催日数 52日 日本各地や大阪の伝承に登場する妖怪や怪異を、湯本豪一コレクション(三次もののけミュージアム蔵)の絵巻や錦絵等の絵画作品や版本、器物や玩具、妖怪のミイラなどの資料を通じて概観し、妖怪たちが様々な文化として受容されてきた姿を紹介する。 ・「埋忠<UMETADA>―桃山刀剣界の雄―」(共同企画) 10月31日～12月14日、開催日数39日 桃山時代に刀剣界に登場した埋忠一門は、刀剣、刀装具の製作、刀身彫刻、なかごの仕立て直しや刀絵図の作成等、多岐にわたる仕事をおこなった。本展では、埋忠一門が関わった珠玉の名刀群を通じ、謎多き一門の実態に迫る。 イ 常設展示枠内で特別展示室を活用し、特別企画展を実施する。 ・「大阪の近代化と町―水帳から公文書へ―」(自	12	(大阪歴史博物館) 2本の特別展のうち、「麒麟がくる」がコロナウイルスのため中止となった。10月末から特別展「埋忠」を、1月下旬から特別企画展「大阪の近代化と町」を実施した。特に「埋忠」は、感染症対策を十分に計画、時間指定制による入場制限を実施した。SNS効果もあり若年層の観覧者を誘客し、グッズ販売も好調であったが、コロナウイルス感染症拡大第3波により後半の来場者数は大きく影響を受けた。 ○特別展「埋忠<UMETADA> 桃山刀剣界の雄」 ・目標 21,000人 ・入場者数 18,412人(達成率 88%) ・会期 10月31日～12月14日 開催日数39日 ○特別企画展「大阪の近代化と町」 ・入場者数 5,475人 ・会期 令和3年1月27日～3月1日 開催日数30日	4	

	主企画) 1月27日～3月1日、開催日数30日 江戸時代に町人身分の共同体であり、都市の基礎単位でもあった町。町の様々な機能を確認した上で、町が明治以降の近代化によって受けた変化を、町運営のあり方や土地所有の実態などから明らかにする。				
(大阪中之島美術館) 開館後、近代から現代にいたる美術や造形文化を中心に、国内外のさまざまなジャンルの優れた作品や動向に注目した企画展を、新聞社・テレビ局などと連携して開催する。	(大阪中之島美術館) 【記載なし】	12			
13 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧等に関する教育及び普及の事業 講座・講演会・シンポジウム等を通じて、活動成果の公開と普及に努める。 踏査や見学機会を通じて、実物に接する機会を提供する。 ワークショップの実施やリファレンス窓口を設置して、利用者の学習支援を行う。			【機構の評価】 美：3、自：4、陶：3、科：3、歴：3、経：3 コロナ禍のため、対面行事が大きく制約される中、ZoomやYouTubeの利用などオンラインでの取り組みに活路を見出し、各館事業に取り組んだ。	3	オンライン配信等、様々な媒体を用いたコンテンツの配信を行った点は大いに評価できる。
	(大阪市立美術館) ア 展覧会等の関連事業としての講演会、ギャラリートーク等を開催する。	13	(大阪市立美術館) ア コロナ禍により中止していたが、「天平礼賛」展では2回講演会を実施した。また、オンラインでのミニギャラリートークも3本アップ。 【令和元年度実績】 講演会：3回 トークイベント：1回 ギャラリートーク：19回	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア 各種の自然観察会など多様な野外行事・講演会を継続的に実施する。 イ 学芸員の専門、特別展の内容に則した「自然史オープンセミナー」を開催する。 ウ 外部の学術団体などと連携したシンポジウム・講演会などを誘致開催する。	13	(大阪市立自然史博物館) ア 野外観察会、室内実習、ワークショップなど合計173回を企画したが、緊急事態宣言およびその後の体制が整うまでの7月末までの期間、12月から2月末まで大阪府赤信号期間はオンライン行事を除き休止となった。結果、 ・コロナにより中止となった行事110回 ・雨天などによる中止8回 ・実施した行事55回 これらの結果参加者数は2,462名であった。自然史フェスティバルやジオカーニバルも中止となり、対面の行事は人数制限など厳しい状況となった。中止になった行事の代替としてTwitterやホームページによるコンテンツ提供を「おうちミュージアム」と連携して行った。また、YOUTUBEへ動画コンテンツを積極的に公開し、新規に実施した51番組で24958回再生された。大阪市立自然史博物館チャンネル全体では4月から3月まで述べ7万5千回の再生、7222時間の再生時間、742名のチャンネル登録者増加となった。 イ 外来生物展に関連し、webでのオープンセミナーを計3回、その他公開の学芸員のセミナーを5回実施した。合計2,912人が視聴。	4	

			ウ 地学団体研究会、日本菌学会との共催講演会を4、6月に予定していたが中止となった。12月に関西自然保護機構と実施した共催webシンポジウムは2809回の再生となった。		
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 展覧会ごとに関連した講演会、講座などを開催する。 イ 学芸員の調査研究の成果を還元するための講演会、講座、レクチャーなどを継続的に実施する。 ウ 韓国陶磁研究基金による李秉昌博士記念公開講座を実施する。	13	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 展覧会ごとに関連した講演会、講座などの開催は感染症予防対策のため中止、10月末から定員を半減して再開。(10月31日午前・午後2回展覧会関連の講演会実施)11月以降は再び中止し、ボランティアに向けたレクチャーの動画配信をおこなった。 実来場2回、オンライン2回 【令和元年度実績】26回 イ 学芸員の調査研究の成果を還元するための講演会などは感染症予防対策のため中止。オンラインでの講演を行った。 2回(オンライン) 【令和元年度実績】2回 ウ 韓国陶磁研究基金による李秉昌博士記念公開講座(13)「耀州窯青磁と高麗」をオンライン開催(2021年3月7日)で行った。 【令和元年度実績】 韓国陶磁研究基金による李秉昌博士記念公開講座(13)「耀州窯青磁と高麗」を延期(2020年3月14日開催予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で次年度以降に延期)	3	
	(大阪市立科学館) ア 学芸員による各種実験教室や研修・講座を実施する。 イ 物理教育学会との連携による科学の祭典の実施、気象庁との連携による天気関係の行事実施など、外部組織と連携する。 ウ ボランティアによる展示ガイドやエキストラ実験ショーを実施する。 エ プラネタリウムやサイエンスショー、講演会等を出張するアウトリーチ活動を実施する。	13	(大阪市立科学館) ア 新型コロナウイルス感染拡大防止による休館やリスク回避などにより、7月8日まではすべての普及行事、研修などを中止し、7月9日以降再開した。また、1/14から2/28発出の緊急事態宣言下においては夜間行事を全て中止した。 学芸員等による各種実験教室・講座として、天体観望会を4回、プラネタリウム・スペシャルナイトを1回、大人の化学クラブをのべ2回、中之島科学研究所コロキウムを8回開催した。また、新型コロナウイルス感染症拡大に対応するために、新たにオンライン科学教室を企画し3回実施した。 その他実施を予定していた日食観望会、大学紹介イベント、南部陽一郎生誕100周年記念講演会は、オンライン実施に変更して実施した。 なお、再開に当たっては、機構ガイドラインに基づき、入館者の体温チェックや手指消毒、館内でのマスク着用要請などを実施したほか、会場の床・壁・机・椅子への抗ウイルス剤塗布、参加者のソーシャルディスタンス確保のための定員数減などを行った。 【令和元年度実績】22件 イ 新型コロナウイルス感染拡大防止のためボラン	3	

			ティアによる展示ガイドやエキストラ実験ショーは休止した。 【令和元年度実績】 展示ガイド活動延べ1,502名、エキストラ実験ショー319回 ウ アウトリーチ事業では、従来事業に加えて、新型コロナウイルス感染拡大防止に対応する事業として新たに「おうちでサイエンス」サービスを新たに追加し、今年度5件実施した。 【令和元年度実績】 22件 エ 市民からの問い合わせ対応は随時行っている。		
	(大阪歴史博物館) ア 学芸員が各自の専門の最新の研究成果をつたえる「なにわ歴博講座」を継続的に実施する。 イ 学芸員の専門に即した連続講座を実施する。 ウ 展覧会などの関連事業としてのシンポジウムなどを開催する。	13	(大阪歴史博物館) ア なにわ歴博講座は2期6回開催予定であったが、コロナウイルスの影響により、年内の開催は見送り、1月から3回実施した(165名)。 【令和元年度実績】 1期3回(192人) ※一部コロナウイルスの影響で未実施。 イ 考古学入門講座、漢文講座、古文書講座は、コロナウイルスの影響で今年度の実施を見送った。その欠を補う意味で、新たに「館長講演会」を7月に実施した(59人)。12月に予定していた第2回はコロナウイルスの影響で延期した。 【令和元年度実績】 ・考古学入門講座 3回(107人)、漢文講座 3回(166人) ウ 特別展「埋忠」 ・シンポジウム 96人 ・講演会 94人 特集展示「新発見! なにわの考古学2020」 ・講演会 76人	3	
	(事務局経営企画課) ア 各館の学芸員等が連携して行う連続講座を16講演程度開催する。 イ 大阪市立大学と連携して、各館の学芸員が講演するミュージアム連続講座を1シリーズ(6講演)、歴史に関する連続講座を1回(4講演)、シンポジウムを1回、理系の講演会を1回、それぞれ開催する。	13	(事務局経営企画課) ア 各館の学芸員による連続講座「TALK&THINK」を令和3年2月に、コロナ禍のため、会場の設備を活用し、SNSを媒介にしたオンラインで15回実施した。著作権に関しての処理が事務局でできなかったため、講義1回分が実施できなかった。 イ 大阪市立大学との包括連携協定による事業「ミュージアム連続講座」を、難波市民学習センターとの共催で、2~3月に実施した。シンポジウムは、令和2年1月実施。夏季に行う予定だった理系の講演会は、コロナウイルス感染症の影響により、中止。 ウ 10月に2件実施した。 【令和元年度実績】 3件	3	
14 多様な媒体及び手段を通じた調査研究その他の活動の成果の公開 図録・紀要等印刷物の発行によって調査研究その他の活動の成果を公表する。 収蔵資料や図書等に関する情報をインターネットを介して公開する。 講演会や学会発表映像、収蔵標本データ観察記録などのアーカイブ化と公開を促進する。			【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3 コロナ禍ではあったが、各館とも計画通り、展覧会ごとに図録を発行し、シリーズ・定期刊行物を発行するなど堅実に取り組んだ。	3	3

	(大阪市立美術館) ア 研究紀要を刊行し、ホームページ上で公開する(年1回)。 イ 特別展の図録を作成する。 ウ 広報誌『美をつくし』を発行する(年2回)。	14	(大阪市立美術館) ア 研究紀要を3月に刊行・公開した。 【令和元年度実績】研究紀要年1回 イ 「天平礼賛」(独自作成)、「フランス絵画の精華」展の2回の特別展で図録を作成・販売した。 【令和元年度実績】特別展図録5冊 ウ 広報誌『美をつくし』を9月・3月に発行。 【令和元年度実績】2回	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア 研究報告、自然史研究の発行とホームページ上での公開を進める。 イ 共同研究報告書、収蔵資料目録・ミニガイドなどを継続的に発行する。 ウ 年報の作成およびホームページ上での公開を通じ、館の活動を公開する。 エ 特別展「アンダーグラウンド」解説書を作成する(発売は令和3年度予定)。 オ 友の会発行の月刊誌Nature Studyを12冊監修、編集する。 カ 出版社と連携した学術書の発行を検討する。 キ SNS (Facebook, Twitter) やブログ、ホームページを活用した学術情報や研究過程の発信を行う。	14	(大阪市立自然史博物館) ア 大阪市立自然史博物館研究報告75号を発行。自然史研究4巻4号を発行した。 【令和元年度実績】各1冊発行 イ 収蔵資料目録52集岸川椿蔵書の発行、ミニガイドNo. 33 「クジラのバトン」を発行した。 【令和元年度実績】収蔵目録1冊、ミニガイド1冊 ウ 10月に館報45号を発行、リポジトリに掲載した。 エ 特別展、大阪アンダーグラウンド展の解説書を執筆、完成したが、会期が令和3年4月からとなったため、発行は令和3年度とした。 【令和元年度実績】「知るからはじめる外来生物」発行 オ 友の会発行の月刊誌Nature Study66巻4号から67巻3号の12冊を発行した。 【令和元年度実績】12冊 カ 共著書籍の出版が発行された。 キ HPでの新着情報46件、Twitter 111件、FaceBook50件を投稿 オフィシャルアカウントはTwitterを9500人がフォロー、FaceBook 2350人がフォローしている。この他、各学芸員がそれぞれ自然関連情報や館の活動を発信している。	3	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 調査研究の成果を反映した展覧会図録や館蔵品に関する書籍・図録の制作、監修、発行、販売などを行う。 イ 李秉昌博士記念韓国陶磁研究報告を発行する。	14	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 調査研究の成果を反映した展覧会図録や館蔵品に関する書籍・図録の制作、監修、発行、販売などを行った。 編集発行3件、編集2件、再版1件 ・特別展「天目—中国黒釉の美」展図録の編集(外部出版社発行) ・特別展「黒田泰蔵」展図録の編集、発行、販売 ・特集展「現代の天目—伝統と創造」デジタル図録の制作・HP上での無償頒布 ・特集展「柿右衛門—Yumezurasセクション」展図録の編集 ・館蔵品図録『大阪市立東洋陶磁美術館コレクション選』の販売 【令和元年度実績】編集発行3件、編集2件、再版1件 イ 李秉昌博士記念韓国陶磁研究報告について、オンライン開催用PDF版を発行した。 李秉昌博士記念韓国陶磁研究報告(13)「耀州窯	3	

		青磁と高麗」PDF版		
	(大阪市立科学館) ア 学芸員の調査研究成果などを、学会発表や研究報告の出版、HPを通じて公開する。 イ 月刊誌「うちゅう」を発行する(年12回)。 ウ 展示解説の動画配信やSNSツールを利用した情報発信を行う。	14 (大阪市立科学館) ア 大阪市立科学館研究報告誌第30号の出版を行った。また、学芸員による研究成果の学会・研究会発表(口頭、論文を含む)を9件行った。 イ 月刊「うちゅう」4月～3月号の計12冊を発行した。 【令和元年度実績】12冊発行 ウ 「科学館だより」を3回発行した。 エ ミニブックを17冊作成し、ミュージアムショップで販売中。今年度は1冊を新規製作、1冊を増刷した。 オ 展示解説の動画配信は117件公開した。またツイッターでは通常の発信に加え、ハッシュタグ[#エア大阪市立科学館]を付けて、科学情報を積極的に発信した。新たに、サイエンスショーのライブ配信を開始したほか、科学教室をオンライン事業で実施した。	3	
	(大阪歴史博物館) ア 年1号の研究紀要を継続的に発行し、ホームページ上で公開する。 イ 共同研究報告書、館蔵資料集などを継続的に発行する。 ウ 特別展の図録を作成する。 エ 特集展示リーフレットを継続的に作成する。	14 (大阪歴史博物館) ア 研究紀要第19号を発行。第18号のホームページアップを完了し、今年度から総合学術電子ジャーナルサイト「J-STAGE」への登録を開始した。 【令和元年度実績】研究紀要 第18号 イ 共同研究報告書15、館蔵資料集17「旧大阪市都市工学情報センター所蔵写真 大阪城とその周辺」を発行。 【令和元年度実績】共同研究報告書14、館蔵資料集16「小絵馬 中コレクション・柴垣コレクション」 ウ 2本の巡回特別展における図録作成に大きく関わったが、大河ドラマ特別展「麒麟がくる」は当館では中止となり、9月に岐阜展で発行された。10月開催の特別展「埋忠」は予定通り発行した。 【令和元年度実績】2本の自主企画特別展において作成 エ 特集展示「発掘成果から考える近世都市「おおさか」の食文化」「発掘された難波京」はリーフレットを作成したが、臨時休館・中止のため未配布。「なにわの考古学2020」は作成・配布、以後の展示は予定通り実施し、リーフレットを配布した。 【令和元年度実績】開催した5本の特集展示において作成・配布(公開中止の特集展示1本は作成のみ) オ 平成31(令和元)年度の年報を発行し、ホームページに掲載した。 【令和元年度実績】「大阪歴史博物館年報」平成30年度	3	
15 博物館等資料の貸出し及び他の博物館等関係機関の資料の借用		【機構の評価】 美：4、自：3、陶：3、科：4、歴：3	3	3

博物館等資料の公開と認知度の向上を図るため、他館への貸し出し等を行う。 博物館等資料の館外研究者への特別研究や、図書等の貸出しの対応を行う。 他の施設に対して、展覧会企画やプラネタリウム番組の配給を行う。 企画展や特別展等の充実のため、他館資料を借用し、有効活用する。			各館と計画通りに実施し、コロナ禍ではあったが美術館では貸出が前年に比べ約2.5倍となった。 また、科学館のプラネタリウム番組配給が、2.6倍と増大した。		
	(大阪市立美術館) ア 作品の保存状況、展覧会趣旨等を鑑みながら、各館への作品の貸し出し及び借用を行い展示の充実に努める。	15	(大阪市立美術館) ア コロナ禍にあって、昨年度を上回る貸出107件、に対応するとともに、借用181件を実施した。 【令和元年度実績】貸出42件、借用284件	4	
	(大阪市立自然史博物館) ア 資料の保存状況、展覧会趣旨などを鑑みながら、要望に応じて収蔵資料の貸借を行い、当館の館蔵品の魅力や研究成果の発信と当館の展示の充実に努める。	15	(大阪市立自然史博物館) ア きしわだ自然資料館を始め展示目的の貸し出しを行っている（現在集計中）、その他、研究目的の貸し出し多数を実施している。 また、外来生物展には京都大学および琵琶湖博物館などから、テーマ展には陸前高田市立博物館や遠野文化センターから貸し出しを受けた。 【令和元年度実績】貸出等12件	3	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 作品の保存状況、展覧会趣旨などを鑑みながら、継続して国内外の美術館・博物館等への作品貸し出しを行い、当館の館蔵品の魅力の発信に努める。 イ 特別展などの開催に際して、必要不可欠な国内外の美術館・博物館等の所蔵品の借用を行う。	15	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 作品の保存状況、展覧会趣旨などを鑑みながら、継続して国内外の美術館・博物館等への作品貸し出しを行い、当館の館蔵品の魅力の発信に努めた。 3月末実績：貸出件数5回、貸出作品数計13件（うち海外分1回9件） 【令和元年度実績】貸出件数3回、貸出作品数計16件 イ 特別展などの開催に際して、必要不可欠な国内外の美術館・博物館等の所蔵品の借用を行った。 ・天目展：個人コレクター等所蔵作品 ・黒田泰蔵展：国内個人や財団コレクター所蔵作品 ・特集展：個人コレクター所蔵作品 【令和元年度実績】 ・文房四宝展：国内個人コレクター所蔵作品 ・フィンランド陶芸展：外国個人コレクター所蔵作品	3	
	(大阪市立科学館) ア 展示物、資料の貸し出しを行う。 イ 他の科学館等に対してプラネタリウム番組を配給する。	15	(大阪市立科学館) ア 展示物貸出実績は1件、資料貸出は1件。 【令和元年度実績】4件 イ プラネタリウム番組は、32件に配給した。 【令和元年度実績】12件配給	4	
	(大阪歴史博物館) ア 資料の保存状況、展覧会趣旨などを鑑みながら、継続して各館への資料の貸し出しおよび借用を行い、当館の館蔵品の魅力の発信と当館の展示の充実に努める。	15	(大阪歴史博物館) ア他館から展覧会のため借用申請を受けた資料については8件45点を許可した。 【令和元年度実績】貸出26件179点 ・国指定重要文化財長原古墳群の出土資料など、常	3	

			設展示に活用できる考古資料については、文化庁や大阪市教育委員会などから年間借用を実施し、展示の充実を図った。		
16 各館の枠を超えた知識及び経験の共有並びに展示及び広報等における戦略的連携 法人の複数館が連携・協働した企画展・特別展を開催する。 定期的な刊行物を通じて、法人各館の情報を一元的に発信する。 法人の複数館が共同して外部資金等の獲得し、総合的な調査研究を実施する。			【機構の評価】 美：3、自：4、陶：3、科：3、歴：3、中：3 経：3 各館とも機構内の博物館の資料の貸し借りや、事業の共同実施、共同で研修を行うなど、連携を図り、それぞれの強みを生かしながら、より良い事業を実施することができた。	3	3
	(大阪市立美術館) ア 展覧会等の関連事業としての講演会等に他美術館・博物館、大学などの外部研究者を招へいする。 イ 他美術館・博物館、大学などの外部研究者との共同研究を行う。	16	(大阪市立美術館) ア 特集展示「没後50年 浪速の女性画家 島成園」において大阪中之島美術館の学芸員による記念講演会を企画したが、中止となった。 イ 特別展「天平礼賛」の準備段階において大阪歴史博物館学芸員の協力を得て調査が進められ、同館および大阪市文化財協会保管の作品を借用・展示する運びとなった。	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア 将来の特別展示などの企画、及び常設展示の更新につながる共同研究を模索する。 イ 外部の学術団体などと連携したシンポジウム・講演会などの誘致し、開催する（再掲）。	16	(大阪市立自然史博物館) ア 大阪歴史博物館学芸員などと共同研究員の科学研究費課題を申請した、そのほか情報化会議を開催し、大阪市ICT戦略に関する研修を機構全体に向け実施。WEB展示などの今後を模索した。 イ 明治大学源由里子教授を招聘し、ロジックモデル研修会を開催し、事務局からの参加者も得て評価手法を学び、館運営の改善に努めた（再掲）。 イ そのほか科研費従事者への研究者倫理研修として、機構の研究者を対象に、オーサーシップに関する研修会を開催した。また西日本自然史系博物館ネットワークによる研修「COVID-19状況下だからやってみた工夫、身につけたい技」を公開実施。機構内からも参加者を得た。	4	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 国立国際美術館など中之島エリアの関連機関との広報協力や相互割引などを継続して実施する。	16	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 大阪中之島美術館（準備室）や科学館とともに「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」に参加し、中之島にある文化施設のクリエイティブコンテンツの開発・創出の連携事業や広報協力を行った。 イ 機構の展示・収蔵環境担当者情報交換会に参加し、展示室や収蔵庫の作品保存環境に関する意見交換や情報共有を行った。 ウ 機構の情報化会議に参加し、ICT戦略やデジタル化などに関する意見交換や情報共有を行った。	3	
	(大阪市立科学館) ア 全国科学博物館協議会をはじめとする各種協議会・会議等へ参画する。 イ 中之島研究所事業やその人脈を通じて、調査研究や事業の質の底上げを図る。 ウ ドイツ博物館やクエスタコン オーストラリア	16	(大阪市立科学館) ア 中之島美術館準備室と共催で、クリエイティブアイランド中之島・エクステンジプログラムを1回実施した。 イ 来年度、自然史科学館と協働して開催予定の特別展「アインシュタイン」（巡回展、大阪会場は自	3	

	国立科学技術センター など海外の先進館との交流を実施する。 エ 大阪大学、大阪市立大学など近隣大学、各種研究機関と調査研究、講演会など各種事業の連携を行う。 オ 気象台や電気協会等、関連他業種と連携した実験教室、講演会等各種事業を開催する。 カ 会場、資料、人材等を他館と融通した特別展「ノーベル賞受賞 100 年記念特別展「アインシュタイン」の実施に向けた準備を行う。 キ 当館の知見を生かした他科学館等に対する、展示製作等のコンサルティングを行う。		
	(大阪歴史博物館) ア 共同研究における外部研究者との研究を行う。	16 (大阪歴史博物館) ア・中之島美術館準備室と共同で、大阪フィルムアーカイブ計画に取り組み、市民・企業からのフィルム募集や映像上映会などを実施した。 ・有機酸対策問題等の資料保存環境に関する情報交換会を機構内各館に呼びかけ開催した（3月）。 ・美術館蔵資料を研究対象として、美術館とも共同で当館予算での共同研究を実施した。 ・あべのハルカスの掲示板に美術館と共同で広報を実施した。	3
	(大阪中之島美術館) ア 中之島に位置する文化施設の交流を活かし、創造的な連携と発信を行う。 イ 文化庁「地域と共働した博物館創造活動支援事業」にて「大阪フィルムアーカイブ計画」を大阪歴史博物館と協働して推進。（継続） ウ アーカイブに関する積極的・継続的な取り組みである「ミュージアムアーカイブ・ワークショップシリーズ」の一環として、研修会「美術分野におけるオーラルヒストリーの収集と管理」を開催。	16 (大阪中之島美術館) ア 大阪市立科学館と大阪中之島美術館の学芸員が登壇する「デザインと科学技術」をテーマとするオンライン講座を実施（2月11日）。約350件の視聴履歴があった。 イ 戦前、戦後の大阪の風景を記録した収集・所蔵フィルムの上映会を実施。7プログラムで構成し、コロナ禍の制限中、約200名の来場があった。 ウ 昨年度コロナ禍により開催できなかったワークショップに代わり、職員・学芸員に参加者を限定したオンライン研修会を開催（3月26日）。機構各館の職員・学芸員を中心に、20件を超える受講履歴があった。	3

	(事務局) ア インターネットのポータルサイト「Osaka Museums」を多言語で開設・運営し、展覧会情報等を掲載する。 イ Twitter や Facebook といった SNS による展覧会情報等の広報を日常的に行う。 ウ 各館の事業やコレクション、学芸員等を紹介する広報誌「各館の事業やコレクション、学芸員等を紹介する広報誌「Osaka MuseumsOsaka Museums」を」を4回発行する。 エ 各館の概要を案内する「総合案内パンフレット」多言語)を配布する。	16	(事務局経営企画課) ア 文化庁補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」を活用し、広報誌等を通じた各館情報の発信に努めた。 ・ 広報誌「Osaka Museums」を刊行(3回)した。(機構予算分1回と合わせ計4回発行) ・ 英語版の各館総合ガイド「Exploring Osaka's Museums」、「Osaka Museums Card」(多言語)を刊行した。 ・ 各館の学芸員による連続講座「TALK&THINK」を令和3年2月に、コロナ禍のため、会場の設備を活用し、SNSを媒介にしたオンラインで15回実施した(再掲)。 イ 次の研修機会を通じて知識等の共有を図った。 ・ 博物館機構ICT関連オンライン研修(「情報化会議」)(7月31日) ・ 大阪市博物館機構「コロナ状況下で博物館の価値を発信していくー令和2年度大阪市博物館機構の試み」(オンライン)(3月24日) ウ インターネットのポータルサイトの多言語(日、英、中(2)、韓)での開設・運営を行った。 エ ツイッター(フォロアー:約4,200)、フェイスブック(同約1,400)、インスタグラム(同約170)を通じて、機構や各館情報を発信中。	3		
【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 17 ICT等を活用した博物館等資料に関する情報の有効利用及びアーカイブ化による公開の推進 博物館等資料や図書等のデータベース化を図る。博物館等資料のアーカイブ化とその公開と活用方法を検討する。			【機構の評価】 美:3、自:4、陶:4、歴:3 各館とも計画通りに館蔵資料のデジタル化、アーカイブ化を進めた。特に東洋陶磁美術館では、収蔵品画像オープンデータとして公開するためのサイトを制作し、高精細な館蔵資料23件をオープンデータ化した。	3		3
	(大阪市立美術館) ア 継続的に館蔵品及び寄託品のデジタル撮影を行い、アーカイブ化を進める(再掲)。	17	(大阪市立美術館) ア 撮影を次の通り、順次行った(再掲)。 撮影:79件、174カット 【令和元年度実績】15件、20カット	3		
	(大阪市立自然史博物館) ア 標本資料、自然科学関連の画像・映像資料、絵画資料について科学研究費などを活用したデジタル化を進め、アーカイブの形成を図る。デジタル化のさらなる加速に向けて検討を行う。 イ 標本情報について、Science-Museum Net, GBIFなどを通じた継続的な公開を進める ウ 図書情報について、市立中央図書館などとの共有による活用促進に向けた準備を進める。 エ 研究報告などの研究成果をリポジトリによりインターネット公開を進める。	17	(大阪市立自然史博物館) ア 科学研究費「動画を博物館の「標本」として収集・収蔵・利用公開するための課題解決と環境整備」の成果として、映像(動画資料)を中心に進展。著作権などの契約も進めている。静止画のコンテンツ登録もシステムの改良を検討中。 イ Science-Museum Net, GBIFにも計3,000点の情報を提供した。 【令和元年度実績】データレコードの追加5,000件 ウ 図書館との情報交換を勧めている エ 4月1日以降87件の論文・レポートを登録、公開した 【令和元年度実績】論文・レポートの新規公開73件	4		

	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 既存の資料のアーカイブ化を進める。 イ 館蔵品のデジタル画像データのオープンデータ化に向けた規定整備等を行う。	17	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 既存の資料のアーカイブ化を進めた。 119件(中国陶磁13件、韓国陶磁4件、日本陶磁38件、近現代陶芸55件、その他工芸2件、その他資料2件、絵画5件) 【令和元年度実績】45点(中国陶磁20件、木村盛康作品22件、現代陶芸3点) イ オープンデータ化のために規程の変更や利用規約の新規制定、新規規約の英語、中国語(簡・繁)、韓国語への翻訳を行い、ホームページでのデジタル画像のアップや容量の調整を行った。 【令和元年度実績】利用規程見直し ウ 館蔵資料23件については、「大阪市立東洋陶磁美術館収蔵品画像オープンデータ」サイトの製作・公開(3月26日)に伴い、館蔵資料23件をオープンデータ化した。	4		
	(大阪歴史博物館) ア 新規資料撮影に加え、既存の資料のアーカイブ化を進める。	17	(大阪歴史博物館) ア 新規に資料撮影を実施した(No. 3に記載)。新規撮影の画像データは、統合データベースへの登録作業を順次実施中で、令和2年度内に約半数を登録した。 また、3次元データから作成した考古資料の3Dモデルを外部の閲覧サイト(Sketchfab)へ追加公開した(7点を新規公開し、計18点を公開中) 新規寄贈・購入の図書(No. 3に記載)についても、図書データベースへの登録を完了。	3		
18 他の博物館等関係機関との支援及び協働を通じた資源の保全及び効果的な活用 災害時において関係館との連携を図り、博物館等資料の保全に努める。 他館の博物館等資料に関する情報の共有と相互利用を推進する。			【機構の評価】 美：3、自：4、陶：3、科：3、歴：3、中：3、経：3 コロナ禍ではあったが、各館とも計画通りに、国内や海外の博物館等と協力・連携を図り、情報の共有を推進した。	3		3
	(大阪市立美術館) ア 国内外の博物館・美術館等との協力により、館蔵品・寄託品の効果的な活用と保全を図る。	18	(大阪市立美術館) ア 国内諸館からの調査に積極的に協力しており、88件の調査を受け入れ、107件に上る貸出を行った。海外では台北の国立故宮博物院と協力して2021年と22年に相互に作品を貸借しての展覧会を企画準備している。	3		
	(大阪市立自然史博物館) ア 大阪市立中央図書館、及び各区の図書館、大阪府立中央図書館での巡回展示などを実施する。 【平成30年度実績】13館 イ 資料の保存状況や目的や手法を鑑みながら、研究目的での資料の相互貸借を行い、資料の研究をすすめる、学術的な価値の向上に務める。 ウ 大阪市理科系博物館連携クラスターにもとづいた大阪大学との研究交流を進める。 エ「津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト」と連携した資料展示を実施する。	18	(大阪市立自然史博物館) ア 『大阪府立図書館(1月)「大阪アンダーグラウンド展」、『大阪市立中央図書館(3月)出張！自然史博物館展』を実施した、このほか各区の図書館で展示する資料キットを提供した。 イ きしわだ自然資料館を始め展示目的の貸し出しを行っている(現在集計中)、その他、研究目的の貸し出し多数を実施している(再掲)。 また、外来生物展には京都大学および琵琶湖博物館などから、テーマ展には陸前高田市立博物館や遠野文化センターから貸し出しを受けた。 【令和元年度実績】貸出等12件	4		

		ウ 今年度の実施はなかった。 エ 「津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト」により「陸前高田市立博物館コレクションが遺す地域の自然と文化ー自然史標本レスキューの現在地点ー」を開催した。		
(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 相互協力提携のある台北・國立故宮博物院をはじめ、国内外の関連機関との共同研究や学術交流などを実施する。	18	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 相互協力提携のある台北・國立故宮博物院をはじめ、国内外の関連機関との共同研究や学術交流などを実施した。 ・國立故宮博物院との共同研究を継続して実施した。一方、国際シンポジウム「天目、茶文化、生け花(案)」を開催予定だったが新型コロナウイルス感染症の拡大のため中止となった。 ・韓国国立光州博物館「Asia Ceramic News」季刊誌に「天目展」の紹介記事、学術交流(12月刊行) ・韓国全羅南道高敞郡の「谷城下汗里白磁窯場学術研究報告書」刊行にあたって、浅川伯教関連の論文提出及び学術交流(6月～9月)。	3	
(大阪市立科学館) ア ドイツ博物館やクエスタコン オーストラリア国立科学技術センター など海外の先進館との交流を実施する。(再掲) イ 第11回展示研究大会開催に協力し、同大会開催の継続的支援を行う。	18	(大阪市立科学館) ア 新型コロナウイルスの影響により実績なし。 イ 第11回展示研究大会をオンラインにより開催した。 ウ ポケットコンピュータなど12件の資料寄贈を新たに受けた。また借用が15件あった。(再掲) エ 大阪市立大学との共催でノーベル物理学賞を受賞した南部陽一郎氏の生誕100周年記念の企画展を開催した。また、電気協会と連携し電気記念日スペシャルイベントを実施した。なお、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、外部組織との連携事業は以下のような影響を受けた。大阪市立大学、大阪教育大学等との連携による天文学関連の大学紹介イベントはオンラインに変更して開催した。 オ 大阪管区气象台との連携による「夏休みミニ气象台」は展示事業に変更して実施した。また日本気象予報士会関西支部と連携した「楽しいお天気講座」は、回数を減らして実施した。その他、他業種と連携したイベントなどは合計7件開催した カ 物理教育学会との連携による「青少年のための科学の祭典大阪大会」とラジオ研究会との連携による「ファミリー電波教室」は中止とした。 【令和元年度実績】20件 キ 当館の知見を生かした他科学館等に対する、展示製作等のコンサルティングを受け付け、1件実施した。 ク 日本プラネタリウム協議会の研究会、第11回展示研究大会の開催に参画、支援を行った。	3	
(大阪歴史博物館) ア大阪市文化財協会が調査した埋蔵文化財資料の展示	18	(大阪歴史博物館) ア 共同研究の前年度実績は3件。令和2年度は4件を	3	

	や速報性を重視した年2～3回のパネル展を実施する。 イ 東京都江戸東京博物館との共同研究を継続実施する。 ウ 韓国・大邱博物館との学術交流協定にもとづいた研究交流を実施する。		実施したが、コロナ禍の影響を受け、外部研究員との研究会や調査等は困難となり、館内での基礎作業が中心となった。共同研究の内1本は機構内の美術館と連携している。 イ 大阪市文化財協会の調査成果を紹介するパネル展を1回実施。また共催で、特集展示「発掘された難波京」(コロナ禍の影響で公開中止、陳列・パンフ作成は実施)、「新発見！なにわの考古学2020」、「大阪の灯火具」や、10階特設コーナー展示を実施した。 ウ 東京都江戸東京博物館と連携した共同研究は、コロナ禍のため活動を休止した。 エ 国立大邱博物館は、コロナウイルス感染症の影響で交流ができない状態である。 オ 全国歴史民俗系博物館協議会に加盟し、幹事館を務めるとともに、各種情報交換を行い、また被災文化財レスキューへの協力体制に参画した。 カ 日本博物館協会の被災博物館復興支援事業の担当者登録により、文化財レスキュー情報を収集した。		
	(大阪中之島美術館)	18	(大阪中之島美術館) 開館プレイベントや開館後の展開を見据えた事業取り組みを推進。コロナ影響による令和元年度中止イベントの復活オンライン開催を含む。 【開館プレイベント、中之島地域連携】 アートエリアB1、クリエイティブアイランド中之島実行委員会、中之島まちみらい協議会、中之島三井ビルディング、株式会社銭高組、国立国際美術館 【アーカイブ事業・研究連携】 大阪大学、大阪市立大学、同志社大学、インダストリアルデザイン・アーカイブズ協議会、パナソニック株式会社、シャープ株式会社、積水ハウス株式会社、ダイキン工業株式会社 【展覧会連携】 国立国際美術館、東京ステーションギャラリー、大分県立美術館、他	3	
	(事務局) ア 大阪市立大学と包括連携協定を結び、共同の調査・研究、キャンパスメンバーズ制度や博物館学・実習の援助等の学生支援、講座開催等の社会貢献を行う。 イ 大阪市文化財協会と包括連携協定を結び、共同の調査・研究、展示、普及事業等を実施する。	18	(事務局経営企画課) ア 昨年度に続き協定を締結した。キャンパスメンバーズ制度への継続加入、博物館学講座(保存論、展示論、経営論の3授業)への出講などを行った。また、シンポジウム、ミュージアム連続講座などを令和3年初頭に共同開催した(再掲)。 イ 昨年度に引き続き協定を締結し、市立大学も加えた3者で、上記シンポジウムや連続講座等を共同開催する。	3	
19 各館の建物及びその附帯設備等を有効活用した幅広い事業の実施	各館の活用と魅力の発信に向けたユニークベニューなどを計画・実施する。 文化財指定された建物等の有効活用を促進する。		【機構の評価】 美：3、自：3、歴：3、経：2 コロナ禍における社会情勢や、開館に向けての取り組みに忙殺され実施なし。	3	一部実施事業はあるものの、大部分の事業が実施できていないため、2評価とする。
	(大阪市立美術館)	19	大阪クラシック2020(無料動画配信)の演奏収録に協力。	3	

	(大阪市立自然史博物館) ア 大阪市との調整が完了次第、学術関連催事を中心に、ポーチ（クジラ展示下）及びナウマンホールなどを活用したユニークベニュー事業に取り組む。	19	(大阪市立自然史博物館) ア コロナ禍にあって実施できなかった。 イ 大阪クラシック2020（無料動画配信）の演奏収録に協力。	3	
	(大阪歴史博物館) ア アトリウム地下にある難波宮の遺構や、博物館南側の史跡指定地内に復元された5世紀の倉庫のガイドツアーなどの実施。	19	(大阪歴史博物館) ア 難波宮の地下遺構および5世紀の倉庫のガイドツアーは臨時休館およびコロナウイルスの影響で休止した。また例年5月と11月にNHK地下に保存されている難波宮の石組み溝を公開を中止した。 【令和元年度実績】難波宮遺跡探訪参加者 4,582人 【令和元年度実績】復元倉庫公開参加者 10,999人 イ 大阪クラシック2020（無料動画配信）の常設展示室での演奏収録に協力した。	3	
	【記載なし】 (大阪市立東洋陶磁美術館)(大阪市立科学館)	19			
	(事務局) ア 大阪MICEデスティネーション・ショーケースへの出展等、各館のユニークベニューの取り組みを支援する。	19	(事務局経営企画課) コロナウイルス感染症のためMICE等もなく、実施なし。	2	

中期目標	1 さまざまな魅力の創造、発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」 (3) 戦略的広報の展開 時機及びニーズを捉えた戦略的な広報活動を展開することを通じて、大阪における文化資源の蓄積及び各館の活動の成果の素晴らしさを国内外に向けて効果的に発信する ・ 広報の対象及び時機並びに媒体の特徴を捉えた迅速で柔軟な情報発信 ・ マスメディア等への積極的な情報発信 ・ 各館の枠を超えたマーケティングの実施及びその結果に基づく広報戦略の策定 ・ 生涯学習に関する施設その他の博物館等に関連する施設及びその事業者との連携及び協働を通じた広報活動の展開 ・ 各館の職員の専門的な知識及び技能を活かした効果的な広報活動の展開
------	---

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由・評価のコメント	評価
(3) 戦略的広報の展開						
大阪における文化資源の蓄積及び成果の素晴らしさを国内外に向けて効果的に発信するため、次の通り、時宜やニーズを捉えた戦略的な広報の展開を目指す。						
【各館等の基礎的活動の充実を目指す事項】 20 広報の対象及び時機並びに媒体の特徴を捉えた迅速で柔軟な情報発信 紙・マスメディア・SNSなど各種媒体の特徴を生かした情報発信を行う。 最適な時期や場所を逃さない情報発信を行う。 外国人観光客の動向に応じた情報発信を行う。			【機構の評価】 美：3、自：4、陶：4、科：4、歴：4、経：3 各館とも計画通りに進めた。コロナ禍であったため、これまで以上に積極的にSNS発信を行った。東洋陶磁美術館ではコロナによる休館時に、ニコニコ美術館として展覧会内容の配信を行った。また、科学館では、サイエンスショーを配信した。	4	コンテンツ配信については非常に評価できる（No13で評価）が、広報という観点では3評価が妥当と考える。	3
	(大阪市立美術館) ア ホームページ等での情報発信を行う。 イ SNSでの情報発信を行う。	20	(大阪市立美術館) ア 【令和2年度実績】 1,797,686pv／月平均149,807pv	3		

	ウ 広報誌『美をつくし』を発行する（再掲）。		イ 【令和2年度実績】 Twitter フォロワー数：1,298 Instagram フォロワー数：654 ほかにもYouTubeなどでの情報発信を実施 ウ 再掲（No. 14に記載）		
	（大阪市立自然史博物館） ア ホームページ、Facebook、Twitterなどでの情報発信を継続して行う。 イ 車内放送、ポストカード、学校向け案内など多様な手段を用いて広報を実施する。 ウ 特別展などにおいて、テーマに相応しいイラストレーターやデザイナーの起用した魅力的なチラシ・ポスターの作成に務める。同時に、Webやグッズなどへの展開による効果的な特別展イメージ訴求に務める。	20	（大阪市立自然史博物館） ア ホームページでの新着情報46件、Twitter 111件、FaceBook50件を投稿 オフィシャルアカウントはTwitterを95,00人がフォロー、FaceBook 2,350人がフォローしている。この他、各学芸員がそれぞれ自然関連情報や館の活動を発信している（再掲）。 イ 車内放送や学校向け案内を実施している。ポストカードはコロナ影響により実施せず ウ 外来生物展の広報は写真を基調としたものになり、今回はイラストレーターは採用しなかったが、広報委員会での検討によりクイズ形式の訴求力のあるポスターとすることができた。「氷河時代展のポスターができるまで」をミニ展示として実施（10月）。	4	
	（大阪市立東洋陶磁美術館） ア ホームページ（4か国語対応）、館案内パンフレット、年間展示予定、ポスター・チラシ、国内外の関連雑誌、Instagram、YouTubeなどにより情報発信を継続して行う。 イ グーグル・アートなど各種媒体との提携による優れたコレクションの国内外への情報発信を継続的に行う。	20	（大阪市立東洋陶磁美術館） ア ホームページ（4ヶ国語対応）のスマホ対応化、館案内パンフレット（5ヶ国語）、年間展示予定、ポスター・チラシ、国内外の関連雑誌、Instagram、YouTubeなどにより情報発信を継続して行った。また、臨時休館中には展示室の3Dデジタルコンテンツの公開やニコニコ動画の協力によりニコニコ美術館として展覧会内容の配信を行った。 ・ウェブサイト「ARTことはじめ」ブログに学芸員が8件を寄稿し、他媒体との提携を行った。 ・Instagram投稿回数96件、フォロワー3210人。（更新） ・収蔵品画像オープンデータサイトの公開 【令和元年度実績】Instagram投稿回数51件 イ グーグル・アートなど各種媒体との提携による優れたコレクションの国内外への情報発信を継続的に行った。（再掲）	4	
	（大阪市立科学館） ア ホームページ、Twitter、YouTube等を利用した情報発信を行う。 イ 月刊誌「うちゅう」を発行する（年12回）。（再掲） ウ 3カ月ごとに「科学館だより」を発行する（年4回）。 エ 学芸員の執筆によるミニブックを発行する。	20	（大阪市立科学館） ア 次のような情報発信を行った。 ・展示解説の動画配信は106件公開した。 ・ツイッターでは通常の発信に加え、ハッシュタグ [#エア大阪市立科学館]を付けて、科学情報を積極的に発信した。 ・新たに、サイエンスショーのライブ配信を開始したほか、科学教室をオンライン事業で実施した。 ・ホームページ内に学芸員のページを設置した。 【令和元年度実績】ツイート数799件、Youtube動画公開数106件。 イ 月刊「うちゅう」4月～3月号の計12冊を発行した（再掲）。 ウ 「科学館だより」を3回発行した（再掲）。	4	

			エ ミニブックを17冊作成し、ミュージアムショップで販売中。今年度は1冊を新規製作、1冊を増刷した（再掲）。		
	(大阪歴史博物館)	20	ア ホームページ、Twitterでの情報発信を継続して行う。 イ 紙媒体として「歴博カレンダー」を継続的に発行する（年4回）。	4	
	(事務局)	20	ア インターネットのポータルサイト「Osaka Museums」を多言語で運営し、展覧会情報等を掲載する。（再掲） イ Twitter や Facebook といった SNS による展覧会情報等の広報を日常的に行う。（再掲） ウ 各館の事業やコレクション、学芸員等を紹介する広報誌「Osaka Museums」を3回発行する。（再掲） エ 英文季刊誌に館情報を掲載し、訪日外国人の来館の促進を図る。	3	
21 マスメディア等への積極的な情報発信 プレスリリースや内覧会など、マスメディア向けの情報発信を行う。 →各館記載のこと。評価委員会指摘事項			【機構の評価】 美：3 自：3、陶：3、科：3、歴：3 各種事業の開催などについて、適宜情報発信を行った。	3	3
	(大阪市立美術館)	21	(大阪市立美術館) 特別展にあわせてプレス向け内覧会やプレスリリースを行った。 ・ フランス絵画の精華 ・ 天平礼賛	3	
	(大阪市立自然史博物館)	21	(大阪市立自然史博物館) プレス向け内覧会はコロナ禍により行うことができなかった。プレスリリース8件（定例で行っている毎月の催事情報、臨時休館・再開館情報を除く）を行い、さらにホームページおよびSNSで情報発信に努めた。	3	
	(大阪市立東洋陶磁美術館)	21	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア マスメディアに対して展覧会などのプレスリリースを送信した。	3	

			・天目展 ・黒田泰蔵展、柿右衛門展 ・クリエイティブアイランド中之島に関する事業 ・李秉昌公開講座 ・収蔵品画像オープンデータサイト公開 ・音声ガイドアプリ導入 イ マスメディア向けの展覧会プレスプレビューを開催した。 ・黒田泰蔵展		
	(大阪市立科学館) ア 適宜マスコミに対してメールマガジン、プレスリリースを実施する。 イ 学芸員の専門性を生かしたホームページを作成する。	21	(大阪市立科学館) ア メールマガジン、プレスリリースを計5件発行したほか、326件の記事・広告掲載があった。 【令和元年度実績】記事・広告掲載 336件 イ ホームページ内に学芸員のページを設置した。 また、スタッフにより、ツイッターなど、学芸員が紹介するページの設置、公開を行った。	3	
	(大阪歴史博物館)	21	(大阪歴史博物館) ア 特別展・特集展示が中止となるなか、特別公開や再開後の特別企画展、特集展示、常設展示の企画もの等について、マスコミ等にプレスリリースを行った。特に、企画ものの「疫病退散の祈り」はメディアの反響があった。特別展「埋忠」については、実行委員会より民間事業者に委託して広報を実施した。	3	
【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 <u>22 各館の枠を超えたマーケティングの実施及びその結果に基づく広報戦略の策定</u> 国内外からの来館者や各種活動への参加者のニーズを把握するため、必要な調査(マーケティング)やデータ分析を行う(再掲)。 各種活動への参加者に対するアンケート等を実施し、ニーズの把握に努める。 広報専門職員や外国人スタッフの確保など、外国人観光客や海外に情報発信するための体制整備や戦略立案に努める。			【機構の評価】 美：2、自：2、陶：3、科：3、歴：3、経：3 各館の枠を超えてのマーケティングについては、検討がほぼされない状態だったため機構として2の評価とする。	2	2
	(大阪市立美術館) ア これまでに実施した外国人動向調査の成果等を生かし、多言語での情報発信の見直しを進める。	22	(大阪市立美術館) 事務局経営企画課が主催する機構広報WGに参加し、各館情報の共有と、機構としての広報活動(「Osaka Museum」、「Exploring Osaka's Museums」、「Osaka Museums Card」等の刊行)に参画した。	2	
	(大阪市立自然史博物館) ア これまでに実施した外国人動向調査の成果等を生かし、多言語での情報発信の見直しを進める。	22	(大阪市立自然史博物館) 事務局経営企画課が主催する機構広報WGに参加し、各館情報の共有と、機構としての広報活動(「Osaka Museum」、「Exploring Osaka's Museums」、「Osaka Museums Card」等の刊行)に参画した。	2	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア これまでに実施した外国人動向調査の成果等を生かし、多言語での情報発信の充実を努める。	22	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 事務局経営企画課が主催する機構広報WGに参加し、各館情報の共有と、機構としての広報活動(	3	

		「Osaka Museum」、「Exploring Osaka's Museums」、「Osaka Museums Card」等の刊行)に参画した。 イ 館のアンケート結果について報告し、機構の広報戦略策定に貢献した(以下、再掲)。 ・天目展 実施回数:3回 実施期間:18日 回答数213(実施期間中入館者の約6%) ・黒田展 実施回数:5回 実施期間:30日 回答数255(実施期間中入館者の約11.5%) ※非常事態宣言に伴う臨時休館のため、竹工芸展の今年度分は実施できず。 ※新型コロナウイルス感染症対策の一環で、従来の用紙方式に加え、新たにウェブアンケートも同時に実施した。 従来の顧客満足度に代わり、新たに顧客ロイヤリティを数値化する指標を導入し、分析の参考とした。		
(大阪市立科学館)	22	ア チケット発券システム等により、来館者属性や来館動向を調査分析し、データに基づいた効果的なマーケティング、プロモーション、広報活動を実施する。	3	(大阪市立科学館) ア 事務局経営企画課が主催する機構広報WGに参加し、各館情報の共有と、機構としての広報活動(「Osaka Museum」、「Exploring Osaka's Museums」、「Osaka Museums Card」等の刊行)に参画した。 【令和元年度実績】 336件 イ 館独自に、チケット販売状況から分析した来館者属性や今年度から導入したインターネットを利用したチケット販売の記録より、来館者の客層分析、動向調査を実施している。 また、展示場の入場者数をカウントするシステムを導入し来館者の動向調査を行っている(再掲)。
(大阪歴史博物館)	22	ア これまでに実施した外国人動向調査の成果を生かし、多言語での情報発信の見直しを進める。	3	(大阪歴史博物館) ア インバウンドの来館はないが、6月の再開後はデジタルサイネージを用いた日本語での案内を充実させた。 常設展示リニューアルに関連付けて、専門業者に委託して利用者調査を実施し、当館利用者の意向の傾向を把握した(再掲)。今後、機構や各館の広報戦略の参考として情報共有を図る。 イ 事務局経営企画課が主催する機構広報WGに参加し、各館情報の共有と、機構としての広報活動(「Osaka Museums」、「Exploring Osaka's Museums」、「Osaka Museums Card」等の刊行)に参画した。
(事務局)	22	ア マーケティングリサーチを実施するため、専門業者にヒアリングを行う。 イ 広報誌とSNSの連携、訪日外国人目線に沿った館情報の発信(雑誌・Web)などにより、広報の強化を図る。	3	(事務局経営企画課) ア 業者との打ち合わせを実施、ECや、今後の集客方法について検討を実施。 イ 広報誌とSNSの連携は実施中。外国人ライターによる目線での情報誌制作し、発行した。 機構広報WGを主催し、各館情報の共有と、機構としての広報活動(「Osaka Museum」、「Exploring Osaka's Museums」、「Osaka

			Museums Card」等の刊行)を主導した。 また、年度途中に民間から、広報の実務経験を有する係長を採用し、機構や中之島美術館の広報戦略の策定に着手した。		
23 生涯学習に関する施設等及びその事業者との連携及び協働を通じた広報活動の展開 市立の生涯学習施設等を利用した講座などの事業展開や、施設との広報連携を進める。			【機構の評価】 美：2、自：3、陶：3、科学：2、歴：3、経：3 コロナ禍にありながら連携を図った部分もある。しかしながら、その取り組みが機構全体としては弱かった。	2	2
	(大阪市立美術館) ア あべのハルカス美術館等との相互割引等を行い、新規来館者の増加に努める。	23	(大阪市立美術館) ア いちよう並木掲載 年間2回(ミュージアムトビックス1、おすすめコレクション1)	2	
	(大阪市立自然史博物館) ア 長居植物園、大阪セレッソなどと連携した情報発信に努める。 イ 咲くやこの花館・動物園など大阪周辺の生物多様性関連施設との連携した広報に努める。	23	(大阪市立自然史博物館) ア 『大阪府立図書館(1月)「大阪アンダーグラウンド展」、『大阪市立中央図書館(3月)出張！自然史博物館展』を実施した、このほか各区の図書館で展示する資料キットを提供した(再掲)。 イ 年間2回(ミュージアムトビックス1、おすすめコレクション1) ウ 情報センター改修工事に対応し、協力して導線確保に努めた。コロナ対応でも連携を行った。 エ 咲くやこの花館との来年の連携を模索した	3	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 国立国際美術館など近隣関連施設との相互割引を実施する。 イ 中央公会堂をはじめ中之島エリアの中之島図書館、国際会議場等との広報協力を実施する。	23	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 国立国際美術館をはじめ、中之島エリアの関連施設との広報協力を行った。 ・国立国際美術館、中之島香雪美術館とのチラシの相互設置など広報相互協力を継続して実施した。 ・「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」への参加により、中之島エリアの各種機関との連携事業や広報協力について検討した。 ・中央公会堂をはじめ中之島エリアの中之島図書館などとの広報協力を実施した。 ・「中之島図書館・近隣施設スタッフがオススメする1冊」への協力 ・7月23日ラボカフェ(オンラインプロジェクトミーティング「美術館のいま」第2回) ・クリエイティブアイランド中之島2020エクステンジプログラムvol.4大阪市立東洋陶磁美術館×graf「東洋陶磁の過去・現在、そして文化島としての中之島の未来を考える」(オンライン配信)2月10日 イ 年間2回(ミュージアムトビックス1、おすすめコレクション1)	3	
	(大阪市立科学館) ア Osaka Metro、京阪電鉄、JR等の交通機関にポスターを掲示する。 イ Osaka Metro、京阪電鉄、近隣図書館、動物園、近隣ホテル等の各種施設にチラシ・リーフレット等を設置する。	23	(大阪市立科学館) ア 年間2回(ミュージアムトビックス1、おすすめコレクション1)	2	

	ウ Osaka Metro の「キッズ・サマーパス」等に協力し、観覧者の誘致を図る。 (大阪歴史博物館) ア 生涯学習情報誌「いちよう並木」への情報掲出 イ シニアCITYカレッジへの講師の派遣を行う。	23	(大阪歴史博物館) ア 年間2回（ミュージアムトピックス1、おすすめコレクション1） イ コロナウイルスの影響で外部講座も軒並み中止となり派遣は少なかったが、シニアCITYカレッジで歴史講演・見学会（2回）を行ったほか、地元の南大江学区の地域団体へ講師派遣（4回）を行った。2月には館長が民間企業に対してオンライン講演（1回）を行うなど派遣を実施した。	3	
	(事務局経営企画課)		(事務局経営企画課) ア 生涯学習情報誌「いちよう並木」の原稿執筆に関して各館への割り振り執筆依頼を実施した。 イ 大阪市立大学との包括連携協定による事業「ミュージアム連続講座」を、難波市民学習センターとの共催で、2～3月に実施した（再掲）。	3	
24 各館の職員の専門的な知識及び技能を活かした効果的な広報活動の展開 地域の広報誌や新聞誌上への寄稿等を通じて、専門情報の平易な発信に努める。 テレビ等メディアへの出演機会を捉え、効果的発信を行う。			【機構の評価】 美：3 自：3、陶：4、科：4、歴：4 各館とも順調に実施した。東洋陶磁は海外で発信力を持つ美術雑誌に協力した。東洋陶磁及び歴博ではNHK「歴史秘話ヒストリア」などのテレビ番組に協力・出演するなど、学芸員の専門知識を活かして多方面で広報を行った。	4	4
	(大阪市立美術館)	24	(大阪市立美術館) 特別展を中心に、館長や担当学芸員による展覧会紹介や作品紹介などをテレビや新聞などのメディアで行った。 ・フランス絵画の精華 ・天平礼賛	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア 近隣の自然関連団体への学術的指導や学芸員による講演などを通じた広報活動を行う。 イ 外部の普及誌・学術誌の執筆を行う。	24	(大阪市立自然史博物館) ア 大阪自然環境保全協会、近畿植物同好会、関西菌類談話会、日本野鳥の会、日本自然保護協会をはじめ、多くの自然関連団体への指導や講演を行っている。一部はコロナ影響により中止。 イ 査読付き論文、査読なし論文および雑誌記事、書籍などを多数執筆したのに対し、学会の中止などにより学会発表数は令和2年度で減少している。令和2年度実績 著書・論文267篇、学会発表10件（令和元年度実績著書論文250篇、研究発表23件）。 ウ NHK・民放放送局、新聞社等15件の取材対応を行った。	3	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 国内外の関連雑誌等と提携して館蔵品に関する研究成果や展覧会情報等を発信する。	24	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 国内外の関連雑誌等と提携して館蔵品に関する研究成果や展覧会情報等を発信した。9件 ・『典藏』（台湾）・『Asia Ceramic News』（韓国） ・『陶説』、『目の眼』、『炎芸術』、『大阪春秋』等	4	

		【令和元年度実績】5件 イ テレビ等メディアでの紹介や取材協力により館蔵品に関する研究成果や展覧会情報等を発信した。4件 ・NHK・歴史秘話ヒストリア「謎の茶碗はなにを語る」(4月1日) 取材協力、出演 ・NHK「ぐるっと関西おひるまえ」(「ぐるかん おうちで美術館」、7月6日) 展覧会紹介、取材協力、出演 ・NHK・ETV「日曜美術館」(「アートシーン」、7月26日、2月14日) 展覧会紹介、取材協力		
(大阪市立科学館)	24	(大阪市立科学館) ア NHKラジオ第一放送「関西ラジオワイド」に出演し火星探査についての解説を行い(4/24)、また読売テレビ「大阪ほんわかテレビ」に出演し大気圧の実験の紹介を行った(4/10)をはじめ、テレビやラジオ、新聞への出演、インタビュー対応、寄稿などを通じて館や学芸員の活動を積極的に発信した。 イ テレビなど様々なメディアに、企画展やイベント、館の取り組みなどの紹介、インタビュー対応などに応じ、館の認知度を高めた。	4	
(大阪歴史博物館)	24	(大阪歴史博物館) ア 情報誌・タウン誌などへの記事の執筆や、様々なメディアに学芸員が出演することにより研究成果を紹介する。 ・駐大阪韓国文化院ホームページに館長が「朝鮮通信使と大阪」を連載し、オンラインフィールドワーク動画に出演したほか、NHKテレビ「歴史秘話ヒストリア」、MBSラジオ「中村孝太郎のうえほんまち夜カフェ」など、新聞・テレビ・ラジオ等を通して、学芸員の活動成果を紹介し、館の存在を知ってもらう機会としている。 ・日本経済新聞「関西タイムライン とことん調査隊」(10月20日夕刊)や、注目を集めたつぼらや看板の新聞記事(毎日、日経)等に学芸員が歴史的背景に関するコメントを寄せた。	4	

大項目 I-②	I 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 2 幅広い利用者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」 (1) ソフトの充実及び利用者の受入れ体制の整備 (2) 周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携 (3) 民間企業等との協働等
------------	--

中期目標	2 幅広い利用者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」 法人は、各館が都市に立地するという特徴を活かし、国内外から幅広い利用者を獲得するとともに、各館の周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携を図ることにより、大阪の活性化及び発展に貢献する。 (1) ソフトの充実及び利用者の受入れ体制の整備 ・マスメディア等と連携した特別展及び企画展の誘致 ・多言語表記等による外国人の受入れ体制の充実 ・芸術文化に係る団体への成果発表の機会の提供及び当該団体の活動の奨励 ・さまざまな事業者等と連携した観光客の獲得
------	--

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由・評価のコメント	評価
(1) ソフトの充実及び利用者の受入れ体制の整備						
各館の立地の優位性を活かし、幅広い利用者を獲得するため、次の通り、展覧会又は展示物に係るソフトの充実及び利用者の受入れ体制の整備を図る。						
【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】 <u>25 マスメディア等と連携した特別展及び企画展の誘致</u>			【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：一、歴：3 コロナ禍のため、特別展等が中止や延期になるものもあったが、美術館「フランス絵画の精華」のように開催中止になりかけたものを借用先（外国）との交渉により、期間を変更して開催に漕ぎ着けるなど、各館の努力により、開催にできたものについては新聞社・テレビ局と連携した特別展等を実施した。	3		3
(大阪市立美術館) 国内外の美術館・博物館や寺院・神社をはじめとする所蔵者と連携するとともに、新聞社・テレビ局などと協働した特別展を開催する(年3～4回程度)。 なお、改修工事実施に伴い、年度により、開催回数が変動することがある。	(大阪市立美術館) ア 国内外の美術館・博物館や寺院・神社をはじめとする所蔵者と連携するとともに、新聞社・テレビ局等と協働し、本年度は5本の特別展を実施する。(再掲)	25	(大阪市立美術館) ア コロナ禍により来館者が平年に比べ大きく落ち込んだが、フランス絵画展の会期を変更し、天平展出は補助金を獲得するなどして、赤字削減に取り組んだ(再掲)。 ・「フランス絵画の精華」(巡回企画) 会期を5月26日～8月16日(71日間)に変更して実施した。入館者数：60,031人 ・「改組新7回 日展」(巡回企画) 予定通り実施。入館者数：30,271人	3		
(大阪市立自然史博物館) 博物館の収蔵品や学芸員の調査研究の成果の市民への還元や新たな価値の創出を目指し、主催特別展を開催する(毎年1回)。 国内外の自然史系博物館やマスメディアなどと連	(大阪市立自然史博物館) ア 読売新聞社との共催による「かがくのとりばら展」を実施する。令和3年度以降の企画に向け各社と準備をすすめる。	25	(大阪市立自然史博物館) ・「かがくのとりばら展」(巡回企画) 関係者の協議により、月に密接・密集を避けて本来の事業目的を達成することが難しいと判断し、開催中止の判断を実行委員会締結前に行った(再掲)	3		

携して、特別展を開催する(年2~3回程度)。			。		
(大阪市立東洋陶磁美術館) 国内外の美術館・博物館などと連携し、当館の特徴を活かした特別展や企画展を開催する(年3~4回程度)。 なお、改修工事実施に伴い、年度により、開催回数が変動することがある。	(大阪市立東洋陶磁美術館) ・NHK大阪放送局・NHKプラネット近畿との共催による特別展「上海博物館所蔵 明時代 “空白期”の景德鎮磁器」(5月16日~8月16日)及び特別展「天目—中国黒釉の美」(4月25日~8月16日)を実施する。	25	(大阪市立東洋陶磁美術館) ・NHK大阪放送局・NHKエンタープライズ近畿との共催による「天目—中国黒釉の美」(6月2日~11月8日)を実施した。 ・NHKプロモーションとの共催による特別展「竹工芸名品展：ニューヨークのアビー・コレクション—メトロポリタン美術館所蔵」(12月21日~2020年4月12日)が会期中で休館のため中断したことをうけ、共催先と連携して展覧会に合わせて制作された現代作家によるインスタレーション作品の展示延長をおこなった(9月27日まで)。	3	
	(大阪市立科学館) ア 読売新聞社が主催で参画する「青少年のための科学の祭典」を実施する。	25	(大阪市立科学館) 8月に予定していた青少年のための科学の祭典は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。 【令和元年度実績】22,000人	—	
(大阪歴史博物館) 国内外の博物館やコレクター、大学や企業などと連携し、巡回展や共催展などの特別展を開催する(年3~4回程度)。	(大阪歴史博物館) ア 読売新聞大阪本社との共催で、NHK 大河ドラマ特別展「麒麟がくる」(4月25日~6月14日)、特別展「埋忠—桃山刀剣界の雄」(10月31日~12月14日)を実施する。 イ 特別展「妖怪—怪異をめぐる世界展」(7月18日~9月14日)についてもマスメディアとの共催を目指す。	25	(大阪歴史博物館) 3本の特別展のうち、読売新聞大阪本社等と共催の「麒麟がくる」、マスメディアとの共催を模索中であつた「妖怪」の2本がコロナウイルスのため中止となった。10月末から特別展「埋忠」を実施した。特に「埋忠」は、感染症対策を十分に計画、時間指定制による入場制限を実施した。SNS効果もあり若年層の観覧者を誘客し、グッズ販売も好調であつたが、コロナウイルス感染症拡大第3波により後半の来場者数は大きく影響を受けた(再掲)。 ○特別展「埋忠<UMETADA>桃山刀剣界の雄」 ・読売新聞大阪本社、NHK大阪放送局、NHKエンタープライズ近畿との共催 ・目標 21,0000人 ・入場者数 18,412人(達成率 88%) ・会期 10月31日~12月14日 開催日数39日	3	
(大阪中之島美術館) 開館後、近代から現代にいたる美術や造形文化を中心に、国内外のさまざまなジャンルの優れた作品や動向に注目した企画展を開催する。	(大阪中之島美術館) 【開館前のため記載なし】	25			
26 さまざまな利用者の受入れ体制の充実(中期目標にはないが、計画で追加) 高齢者、障がい者、ベビーカー利用者等の利便性を図るため、バリアフリー化を推進する(再掲)。 わかりやすいサインの掲出や安全な導線確保に努める。			【機構の評価】 美：3、自：4、陶：3、科：3、歴：3 施設の大規模改修等によりバリアフリー化を計画するとともに、自然史博物館ではパイロット事業として、視覚障がい者向けの点字を導入、並びに職員研修を実施して障がい者支援に取り組んだ。	3	3
	(大阪市立美術館) ア 館の機能強化やサービス・魅力向上を目的とした本館の大規模改修計画を策定し、今年度は基本設計を策定。令和4年度からの着工、令和7年度の	26	(大阪市立美術館) ア 基本設計を完了させ、来年度は実施設計に進む。中央ホールの無料化、多目的ホールや教育普及のための施設の設置、カフェやショッップの充実、	3	

	リニューアルを目指す（再掲）。 イ 来館者状況を注視しつつ施設案内等（非常時の案内を含む）の多言語化の見直しを進める。（再掲）		慶沢園とのアクセスなど多岐にわたって検討し、設計に反映できた（再掲）。		
	（大阪市立自然史博物館） ア 障がい者の観覧や行事参加を補助するための支援策策定に向けプログラム検討や教育ニーズなどの情報を収集する（再掲）。 イ 受付カウンターなどでのタブレット端末を利用した翻訳や説明の支援を検討し進める。 ウ 授乳場所など、来館者ニーズに応じたサービス提供を進める。	26	（大阪市立自然史博物館） ア 日本ライトハウスによるアドバイスを受け、10月以降、館内研修、点字資料などの改善・作成を行った（再掲）。 イ 独自事業による実施を一部行ったがコロナにより接触端末の利用、外国人案内の機会がほとんど無かった。 ウ 確保した。 エ 科研費による研究会を3月に予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止した（再掲）。	4	
	（大阪市立東洋陶磁美術館） ア 障がい者の観覧を補助するための支援策策定に向けて情報を収集する（再掲）。 イ トイレの改修、授乳室設置など来館者ニーズを踏まえた環境整備の検討を進める（再掲）。 ウ 増加する海外からの来館者を踏まえ、施設案内等（非常時の案内を含む）の多言語化の検討を進める（再掲）。 エ 館内 Free Wi-Fiの提供を継続して行う。 オ 新たに年間パス販売などによるリピーターの確保に努める。	26	（大阪市立東洋陶磁美術館） ア エントランス増築棟建築計画に合わせて情報収集をした。（再掲） イ エントランス増築棟建築計画に合わせて情報収集をした。（再掲） ウ 館内Free Wi-fiの提供を継続して行った。	3	
	（大阪市立科学館） ア 施設案内等（非常時の案内を含む）の多言語化の検討を進める。（再掲） イ 救護室、おむつ交換用ベビーベッドなど、来館者ニーズに応じたサービスを提供する ウ トイレ洋式化などの計画策定を進める	26	（大阪市立科学館） ア 救護室、おむつ交換用ベビーベッドを設置している。また、車椅子とベビーカーの貸し出しを実施している（再掲）。 イ トイレ洋式化を検討中（再掲）。	3	
	（大阪歴史博物館） ア 障がい者の観覧を補助するための支援策策定に向けて情報を収集する（再掲）。 イ 増加する海外からの来館者対応のため、トイレ洋式化などの計画策定を進める（再掲）。 ウ 来館者状況を注視しつつ施設案内等の多言語化について見直しを進め、展示更新計画と合わせて新たなあり方を検討する。（再掲） エ 震災・火災等の非常時の案内について、様々な来館者に対応できる方策を検討する（再掲）。	26	（大阪歴史博物館） ア 全館バリアフリー化、多目的トイレ設置、車椅子貸出し等対応済み。（再掲） イ トイレの洋式化は、改修計画作成済み。（再掲） ウ AED（自動体外式除細動器）を1階ならびに5階に設置。新型コロナウイルス感染症拡大防止の案内を多言語で実施した。（再掲）	3	
27 多言語表記等による外国人の受入れ体制の充実 デジタル機器（情報端末）などを活用した多言語対応を進める。 パンフレット、展示解説文等の多言語化や、サインの充実を図る。			【機構の評価】 美：3、自：3、陶：4、科：4、歴：3、経：3 科学館では、スマートフォンによる展示解説システムにおいて韓国語を追加。経営企画は、外国人記者による、訪日・在日外国人向けの英語冊子を制作し、外国人誘致の資料とした。	3	3

	(大阪市立美術館) ア 来館者状況を注視しつつ施設案内等（非常時の案内を含む）の多言語化の見直しを進める。（再掲）	27	(大阪市立美術館) ア 施設案内の英語表示以外の多言語化については改修工事を含めて検討中。ウェブサイトでの展覧会情報の英語対応は実施。 イ ホームページなどでの対応を進めている（再掲）。	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア 常設展示場内における外国語表記について QRコードを利用した解説など多様な手法を用いる検討を行う。 イ 館内表示や非常放送の多言語対応などについて検証と検討を進める。	27	(大阪市立自然史博物館) ア ホームページの見直しなどをすすめた。外部有識者を含めた見直し検討を行った（再掲）。 イ 実施できなかったつばき展に関し英語解説動画を作成、公開した。 ウ 英語による非常放送などは実現しているが、スタッフによる対応などさらなる改善手法について検討中。	3	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 平常展示における主要館蔵品 60 点の作品解説の多言語対応（日・英・中・韓 音声ガイド機のレンタルを継続して行う。 イ 作品解説やパネル、出版物などの多言語化に努める。	27	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア これまで大阪市博物館協会が実施した外国人動向調査の成果等を生かし、多言語での情報発信の充実に努めた（再掲）。 ・ホームページ4ヶ国語による発信 ・館蔵品図録の英語併記 ・解説キャプションの英語表記 ・館蔵品パンフレット（5ヶ国語）の配布 ・館蔵品のデジタル画像データのオープンデータ化に向け、利用規約の新規制定、新規規約の英語、中国語（簡・繁）、韓国語への翻訳を行った。 ※特記：トリップアドバイザー「旅好きが選ぶ！日本人に人気の美術館ランキング 2020」第6位（参考）2019年に初登場11位 イ 平常展示における主要館蔵品60件の作品解説の多言語対応（日・英・中・韓）音声ガイド機のレンタルは、感染症予防対策のため休止中。 ※感染症の状況をふまえ、次年度からは従来の音声ガイド機（有料）に代え、ミュージアム展示ガイドアプリ「ポケット学芸員」（無料）の導入を決定。次年度4月からのサービス提供に向け、今年度はテキスト、及び音声による作品解説（日・英）、画像の多言語対応の準備を進めた。 【令和元年度実績】レンタル件数計464台 ウ 作品解説やパネル、出版物などの多言語化に努めた。 ・常設展示の作品解説やパネルの英文併記 ・新館蔵品図録、展覧会図録等における英文併記 ・鼻煙壺のキャプション改訂 エ 未対応箇所の洗い出しを行い、改修計画の検討を進めた。	4	
	(大阪市立科学館) ア ホームページ、リーフレットの英語・中国語・韓国語対応を行う。 イ オンラインを利用した展示場解説文の多言語化、展示解説ビデオの英語テロップ表記を行う。	27	(大阪市立科学館) ア 施設案内の英語、中国語など多言語化を一部実施している。加えて非常階段内の表示をわかりやすく認識しやすいものに変更した。 イ 文化庁から補助金を受け、常設展示物211点の解説文をスマートフォンアプリで取得できるシス	4	

			テム「ポケット学芸員」(運用中)に、韓国語版解説文を追加した。 ウ ホームページの自動翻訳や三つ折りリーフレットにて英語・中国語・韓国語・仏語(三つ折りリーフレットのみ)の対応を実施している。 エ 文化庁補助金により、スマートフォンアプリを利用した展示場解説文の多言語化(英語、中国語簡体字)を運用中で、今年度には韓国語を追加した。		
	(大阪歴史博物館)	27	ア 館内における外国語表記について、来館者動向を見ながら見直しを行う。	4	
	(事務局経営企画課)	27	ア これまで実施した各館の多言語化状況について、インバウンドの状況を注視しながら改善を図る。	3	
【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 28 芸術文化に係る団体への成果発表の機会の提供及び当該団体の活動の奨励 美術団体等へ施設を貸出し、市民による成果発信を支援する。 施設のエントランス等を利用し、関係団体による成果展示を支援する。 市民参加のフェスティバル等を開催し、活動成果発表の場を提供する。			【機構の評価】 美：3、自：3、科：一、歴：3 コロナ禍のため、実施回数等は減ったが、実施可能な取り組みについては、感染対策を施しながら実施した。	3	3
	(大阪市立美術館)	28	ア 地下展示会室の美術団体への貸出及び館長賞を授与する。	3	
	(大阪市立自然史博物館)	28	ア 市民の自然に関わる文化活動の発表の場として大阪自然史フェスティバルを開催する。 イ 博物館と連携して活動する市民団体・アマチュア団体・学術団体の指導・支援を継続的に行う。 ウ アーティストによる標本活用など、芸術分野とのコラボレーションを継続して模索する。 エ 関連学会と連携した市民科学の発表機会を誘致する。	3	

	(大阪市立科学館)		(大阪市立科学館) ア・イ 新型コロナウイルス感染拡大防止のためボランティアによる展示ガイドやエキストラ実験ショーは休止した（再掲）。 ウ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度の青少年のための科学の祭典が中止となったため、友の会による出展は中止した。 【令和元年度実績】 1件出展 エ 科学館大好きクラブによる展示解説は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。代替として、展示「自然科学の基礎を訪ねる ～おうちで楽しむ身近な科学～」を実施した。 【令和元年度実績】 2回		
	(大阪歴史博物館) ア 館の活動に関係する学術団体等と連携し、発表の場を設ける。	28	(大阪歴史博物館) ア 例年共催している「歴史学入門講座」はコロナウイルスの影響で中止（次年度に延期）となるなど、連携する講座等の事業を実施できなかった。 ・島根県主催（古代文化センター）の「島根学講座 in大阪」開催（10・11月）に協力した。 ・韓国文化院制作「朝鮮通信使と大阪」オンラインフィールドワーク動画への企画、出演等の協力 イ わくわく子ども教室「手作りおもちゃで遊ぼう」では、市民の地域団体がボランティア「おもちゃ作りサポーター」として活動し、市民活動の発表の場ともしてきたが、今年度は感染防止のため実施を見送った。	3	
	【記載なし】 (大阪市立東洋陶磁美術館)				
29 さまざまな事業者等と連携した観光客の獲得 鉄道事業者や旅行社、宿泊施設等と連携した広報やチケット販売等を実施する。			【機構の評価】 美：2、自：2、陶：3、科：3、歴：4、経：3 コロナ禍で、鉄道業者との一定連携は持てたものの、目標となる観光客の取り組みができなかった。	2	2
	(大阪市立美術館) ア 各種施設事業者等と連携して広報を進める。	29	(大阪市立美術館) ア 【令和2年度実績】 「天平礼賛」では大阪観光局の後援協力のもと開催。また、「天平礼賛」ではJR西日本車内広告も実施 イ 特別展でのポスター掲出、車内中吊り広告などを実施。	2	
	(大阪市立自然史博物館) ア 連携のための情報収集を行う。	29	(大阪市立自然史博物館) ア 車内放送やポスター掲出を実施した。 イ 今年度は特筆すべきものがない	2	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア JR、京阪電車はじめ関連鉄道事業者等との連携による交通広告等の充実に努める。	29	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア JR、京阪電車はじめ関連鉄道事業者等との連携による交通広告等の充実に努めた。	3	

	イ 周辺ホテル、観光施設等との連携による広報活動を実施する。		・JR、京阪電車、大阪メトロ等 イ 最寄りのOsaka Metro淀屋橋駅や京阪なにわ橋駅構内でのポスター、案内掲示を継続して行った。 ウ 周辺ホテル、観光施設等との連携による広報活動を実施した。 ・京阪電車ミュージアム・インフォメーション当館枠へのポスターの通年掲出 ・市内主要ホテルへのチラシ送付(コンシェルジュ取扱い) ・ホテル客室情報誌「大阪観光コンシェルジュ」への記事広告掲出		
	(大阪市立科学館) ア 旅行社などを通じた来館誘致や、個人でのインターネットによる展示場やプラネタリウム予約・決済システムなどを活用する。	29	(大阪市立科学館) ア 団体予約については9月より人数を制限して再開した。また、インターネットを通じて展示場とプラネタリウムのチケット購入ができるようシステムを構築し、運用中。 イ Osaka Metro、京阪電鉄等の交通機関にポスターをプログラム更新に合わせ掲示した。 ウ 近隣施設にチラシ等を設置したが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、設置範囲を近隣地域に制限した。	3	
	(大阪歴史博物館) ア 連携のための情報収集を行う。	29	(大阪歴史博物館) ア Osaka Metro谷町四丁目駅での電照広告や館案内ポスターの掲出や谷町線車内音声案内を継続した。特別展ポスターの車内吊り・駅の市政広報板への掲出による広報活動を展開した。 ・京阪電車各駅への特別展等のポスター掲出を実施し、京阪天満橋駅のデジタル地図への館広告掲載を継続した。 ・特別展「埋忠」では、JR大阪駅のデジタルサイネージ、阪急梅田駅への大型ポスター掲示、Osaka Metro10駅への大型ポスター掲示、Osaka Metro管轄のホワイティうめだデジタルサイネージへの広告掲載を実施した。 ・株式会社KADOKAWAと関東・中部・近畿の11施設が連携し、文化庁補助金による「戦国無双5」博物館応援プロジェクト」に参画し、ゲームキャラクター等身大パネル・ポスター設置、デジタルスタンプラリー、1DAYイベント(トークショー)を実施した。 ・JR西日本「三都をめぐるサマーキャンペーン」(デジタルスタンプラリー)に参画。 イ 施設・ホテル等との連携した観光客の獲得(インバウンド含む)はコロナウイルスの影響で行いづらい状況にある。	4	
	(事務局経営企画課)	29	(事務局経営企画課) ア Osaka Metroの「キッズ・パス」等への協力を行っている。 イ 「Osaka Museums」の発行…実績: 30,000部×4回発行、全国1082ヶ所へ配布。	3	

中期目標	2 幅広い利用者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」 (2) 周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携 各館の周辺エリアの魅力向上のため、近隣の施設及び周辺エリアで活動するさまざまな事業者等と積極的に連携する ・各館の近隣の施設及び周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携による広報及び誘客 ・各館の近隣の施設及び周辺エリアで活動するさまざまな事業者等と協働して行うイベントの企画及び実施
------	---

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由・評価のコメント	評価
(2) 周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携						
各館の周辺エリアの魅力向上のため、次の通り、近隣の施設及び周辺エリアで活動するさまざまな事業者等と積極的に連携する。						
【各館等の基礎的活動の充実を目指す事項】 30 各館の近隣の施設及び周辺エリアの事業者等との連携による広報及び誘客 最寄り駅や近隣の商業施設との連携を図る。 近隣の集客施設や関連施設との相互連携による誘客を目指す。 周辺エリアの広報誌や地域情報誌など広報手段を積極的に活用する。			【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3、経：3 コロナ禍ではあったが、来館者に対する感染対策を施したことにより、近隣の事業者等との協力関係を堅実に維持することができ、市民への来館機運を高めることを行った。	3		3
	(大阪市立美術館) ア あべのハルカス美術館等との相互割引等を行い、新規来館者の増加に努める。 イ 最寄りのOsaka Metro駅構内でのポスター掲示の継続や、Osaka Metroの事業への協力等を通じての広報を推進する(再掲)。 ウ 天王寺駅周辺の商業施設(あべちか、あべのキューズモール、あべのハルカス、アポロビル等)との共同広報展開を継続する。	30	(大阪市立美術館) 慶沢園との割引やてんしば、あべちか、あべのキューズモールなど各商業施設での情報掲出などを実施。 ア 【令和2年度実績】 特別展での相互割引を実施 ハルカス美術館 フランス絵画 一般206人、高大生26人 天平礼賛 一般10人 高大生0人 イ 特別展でのポスター掲出、車内中吊り広告などを実施(再掲) ウ 【令和2年度実績】特別展でのポスター掲出、展覧会半券での優待サービスなどを実施。	3		
	(大阪市立自然史博物館) ア 長居植物園、セレッソ大阪、駐車場事業者などと連携した情報発信に務める(再掲)。 イ 最寄のOsaka Metro車内での放送やポスター掲出、Osaka Metroの事業への協力などを通じての広報を推進する。(再掲)	30	(大阪市立自然史博物館) ア 特別展に際して「のぼり旗」の駐車場や公園内への掲出のほか、臨時休館などのアナウンス、などで協力した。また、「長居植物園案内」をコロナによる休止期間を除き実施、植物園の魅力を発信した。 イ 車内放送やポスター掲出を実施した(再掲)。	3		
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 国立国際美術館をはじめ、中之島エリアの関連施設との広報協力を行う。	30	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 国立国際美術館など近隣関連施設との相互割引を実施した。	3		

	イ 最寄りのOsaka Metro淀屋橋駅や京阪なにわ橋駅構内でのポスター、案内掲示を継続して行う。		イ 最寄りのOsaka Metro淀屋橋駅や京阪なにわ橋駅構内でのポスター、案内掲示を継続して行った（再掲）。		
	(大阪市立科学館) ア Osaka Metro、京阪電鉄、JR等の交通機関にポスターを掲示する（再掲）。 イ Osaka Metro、京阪電鉄、近隣図書館、動物園、近隣ホテル等の各種施設にチラシ・リーフレット等を設置する（再掲）。 ウ Osaka Metroの「キッズ・サマーパス」等に協力し、観覧者の誘致を図る。	30	(大阪市立科学館) ア Osaka Metro、京阪電鉄等の交通機関にポスターをプログラム更新に合わせ掲示した（再掲）。 イ 近隣施設にチラシ等を設置したが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、設置範囲を近隣地域に制限した（再掲）。 ウ Osaka Metroの「キッズ・サマーパス」については新型コロナウイルス感染症拡大防止のため入場制限を行っていたため、参加を見送った。 エ 国立国際美術館との連携事業は今年度予定されていないため未実施であったが、本事業は中長期的に連携を行う予定である。	3	
	(大阪歴史博物館) ア 大阪城天守閣との共通券の発行を継続し、新規来館者の増加に努める（再掲）。 イ 最寄りのOsaka Metro駅構内でのポスター掲示の継続や、Osaka Metroの事業への協力などを通じての広報を推進する。 ウ 博物館周辺の商業施設（もりのみやキューズモールBASEなど）との共同広報展開を継続する。	30	(大阪歴史博物館) ア 6月の再開以降、共通券の発行を継続して実施した。 イ コロナウイルスの影響で掲出を控えてきたが、秋季以降はOsaka Metro駅構内のポスター掲示を再開した。 ウ もりのみやキューズモールBASEとの連携は、コロナ禍による展覧会中止などにより停止中。上町台地エリアとして、あべのハルカス近鉄本店と連携し、店内に展覧会ポスター・チラシを設置し始めた。	3	
	(事務局経営企画課) ア Osaka Metro、阪神高速等の交通機関、銀行等の商業施設に広報誌「Osaka Museums」を設置し、広報を行う。 イ Osaka Metroの「キッズ・サマーパス」等に協力し、観覧者の誘致を図る。	30	(事務局経営企画課) ア 「Osaka Museums」の発行…実績：30,000部×4回発行し、全国1082ヶ所へ配布。（再掲）。	3	
【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 31 各館の近隣の施設及び周辺エリアの事業者等と協働して行うイベントの企画及び実施 周辺エリアの博物館・美術館と連携した事業を展開する。 近隣の公共施設や商店街等と連携したイベントへ参加する。			【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3 コロナ禍のためイベント自体が中止になることが多かったが、近隣各所との連携を図りながら、参加者を絞ったり、参加方法を変えるなどして事業を開催することができた。	3	3
	(大阪市立美術館)	31	(大阪市立美術館) ア 【令和2年度実績】慶沢園との共催事業については今年度、コロナ禍のため見送ったが、将来的な一体活用について建設局（天王寺動物公園管理事務所）と協議を開始。	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア 大阪市環境局などの開催する環境イベントほかに協力する。 イ 長居植物園、セレッソ大阪、駐車場事業者などの連携に努める（再掲）。	31	(大阪市立自然史博物館) ア 予定していた環境局イベントが中止となった。 イ 特別展に際して「のぼり旗」の駐車場や公園内への掲出のほか、臨時休館などのアナウンス、などで協力した。また、「長居植物園案内」をコロ	3	

		ナによる休止期間を除き実施、植物園の魅力を発信した。(再掲)		
(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 水都大阪、中之島まつり、光のルネサンスなど中之島エリアの活性化につながるイベントへの協力を継続して行う。 イ 「こども本の森 中之島」との連携に向けての検討を行う。	31	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 光のルネサンスなど中之島エリアの活性化につながるイベントは、新型コロナウイルスの影響により中止となり協力を継続して行う事はできなかった。 ・光のルネサンスのイベント中止のため、12月19日(土)、20日(日)の夜間開館についても行うことができなかった。 ※新型コロナウイルス感染症拡大のため、中之島まつり、大阪マラソンは中止。 ・「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」への参加により、クリエイティブアイランド中之島2020エクステンジプログラムvol.4大阪市立東洋陶磁美術館× graf「東洋陶磁の過去・現在、そして文化島としての中之島の未来を考える」(オンライン配信、2月10日)を実施した。 イ 「こども本の森 中之島」との連携に向けての検討を行った。	3	
(大阪市立科学館) ア 国立国際美術館との相互割引を実施する。 イ 中之島地域のエリアネットワーク(アートエリア B1、中之島ウエストエリアプロモーション等)と連携したイベントに協力、実施する。 ウモバイルプラネタリウム、サイエンスショーなどのアウトリーチプログラム等での連携を行う。	31	(大阪市立科学館) ア 中之島地域のエリアネットワーク「クリエイティブアイランド中之島」と連携したイベント、エクステンジプログラムVol.4大阪市立科学館×大阪中之島美術館「デザインと科学技術・複眼で見る家電コレクション」(オンライン配信、2月11日)を実施した。 イ 今年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、連携事業の実施を見送った。	3	
(大阪歴史博物館) ア 隣接するNHK大阪放送局との共同企画を立案・推進するとともに、同局イベントへの参画を継続し、NHK大阪BKワンダーランドにあわせた企画を実施する。 イ 書店や図書館などが実施するまちライブラリーブックフェスタに参画する。	31	(大阪歴史博物館) ア BKワンダーランドはコロナの影響で5月、2月とも中止となった。また同局事業部とは、特別展「埋忠」において共同企画を実施した。 イ 「まちライブラリーブックフェスタ2020 in 関西」に参加し、当館の広報に努めた。 その他、次の企画にも参画・協力した。 ・(一財)地域振興調査会などが立ち上げた「聖徳太子1400年忌まち旅プロジェクト」実行委員会に参画し、企画立案や、シンポジウムやまち旅(見学会)に講師派遣するなど、プロジェクトに積極的に関わった。 ・大阪府環境農林水産部主催「ぐるっと大阪湾フォトコンテスト」への協力を実施。	3	

中期目標	2 幅広い利用者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」 (3) 民間企業等との協働等 地域経済及び産業の活性化のため、民間企業等との協働及び相互支援を推進する - 各館の売店等における民間企業等と連携したサービスの充実 - 民間企業等との協働による各館の活動に関連する商品及び技術の開発 - 博物館等資料及び関連情報を活用した民間企業等の活動の支援
------	---

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由・評価のコメント	評価
(3) 民間企業等との協働等						
地域経済及び産業の活性化のため、次の通り、民間企業等との協働及び相互支援を推進する。						
【各館等の基礎的活動の充実を目指す事項】 32 各館の売店等における民間企業等と連携したサービスの充実 ミュージアムショップやレストランについて、民間事業者の協力を得て、機能の維持と魅力向上を図る。 図書やミュージアムグッズを扱う「オンラインショップ」の開設を目指す。			【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3 美術館、東洋陶磁美術館、科学館で、オンラインショップを開設し、図録販売など新しい取り組みを始めた。科学館ではオリジナル商品を開発が着実に進んでいる。	3		3
	(大阪市立美術館)	32	【令和2年度実績】 10月からのオンラインでの図録販売を開始。	3		
	(大阪市立自然史博物館) ア ミュージアムショップサービスを間断なく提供できるように努め、常設展や特別展と連携した商品展開のための情報提供など、魅力の向上に努める。 イ 自動販売機設置などアメニティを間断なく提供できるように努める。	32	(大阪市立自然史博物館) ア ミュージアムショップサービスも休館により4/1～6/2まで休止を余儀なくされたが、ネットショップにより活動を継続。アンケートは見合わせ。外来生物展に際し、Tシャツやエコバックなどを開発、販売した。 イ アンダーグラウンド展に向けて商品開発を行っている。	3		
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 民間事業者による魅力ある喫茶の運営を継続して実施する。 イ 来館者サービスの充実のため、特別展開催時の民間事業者による臨時ショップの設置を推進する。	32	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 民間事業者による魅力ある喫茶の運営を継続して実施した。 イ 来館者サービスの充実のため、特別展「天目―中国黒釉の美」開催期間に収益性の高い高額グッズ(中国現代の天目作品)の販売を行った。3月からオンラインショップを開設した。	3		
	(大阪市立科学館) ア 民間企業と連携したオリジナル商品を販売する。	32	(大阪市立科学館) ア 大手製薬会社とのタイアップにより、一般店舗では入手できない商品を特別販売した。 また、3月からオンラインショップを開設した。 イ 館内喫茶委託業者と連携し、プラネタリウム番組と連携したオリジナルメニューの開発を行った。	3		

	(大阪歴史博物館) ア ミュージアムショップの魅力向上に努める。 イ レストランの機能維持に努め、実施している相互割引などに加えて魅力向上にも努める。	32	(大阪歴史博物館) ア 来年度以降のミュージアムショップ運営委託先との契約を継続中である。 令和3年4月からオンラインショップの開設に向け準備を進めた。 イ 令和2年10月特別展「埋忠」の期間限定メニューを開発し、当館ホームページにも情報掲載した。特別展「埋忠」では、刀剣にちなんだ創作メニューが若年層に好評で、SNSで多数ツイートされ拡散した。	3		
【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 33 民間企業等との協働による各館の活動に関連する商品及び技術の開発 民間事業者等と連携したミュージアムグッズの企画と商品化を図る。 民間事業者等と協働し、ICT技術を活用した仮想展示や解説端末などの研究・開発を進める。 大阪にゆかりの深い企業の協力による資料の寄贈やデジタルアーカイブの構築・公開を目指す。			【機構の評価】 美：3、自：4、陶：4、科：3、歴：3、中：3 各館とも民間事業者との協働を進めた。自然史博物館、東洋陶磁、歴博では、特別展に際し、新しいミュージアムグッズの製品化が進んだ。	3		3
	(大阪市立美術館) ア 特別展開催にともなうグッズ等の商品開発を行う。	33	(大阪市立美術館) ア 【令和2年度上期実績】 「フランス絵画の精華」「天平礼賛」でグッズを作成。	3		
	(大阪市立自然史博物館) ア ミュージアムショップ運営会社のグッズ開発に協力し、ショップの魅力向上につとめる。 イ 特別展などに合わせた新規グッズの開発に協力し、特別展の認知向上にも務める。	33	(大阪市立自然史博物館) ア 外来生物展に際し、Tシャツやエコバックなどを開発、販売した。(再掲) イ アンダーグラウンド展に向けて商品開発を行っている。(再掲) 【令和元年度実績】新規グッズの開発4種(バッジを除く)	4		
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 民間事業者との協働や画像データのオープンデータ化による館蔵品関連の図書や商品の開発を促進する。	33	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 民間事業者との協働や画像データのオープンデータ化による館蔵品関連の図書や商品の開発を促進した。 ・館蔵品画像のオープンデータ化に向けた利用規約の新規制定を進め、4か国に翻訳を行った。 ・株式会社グラフィックでの作品画像を使用しTシャツ商品化に協力した。 ・一般社団法人一茶庵と連携し、展示期間を延長したインスタレーション作品を使用した動画コンテンツの作成。 ・天目展公式図録の外部出版社による出版 ・特別展「黒田泰蔵」展覧会オリジナルグッズを民間事業者が作成し、ショップの充実を図った。	4		
	(大阪市立科学館) ア 企業の協力による展示の製作を行う。	33	(大阪市立科学館) ア オリジナル商品として、民間のノウハウを導入するなどの新しい取り組みを行い、科学館でしか入手できないオリジナル製品の比率を高めている。	3		

			イ 大阪大学。東京大学の協力により常設展示を公開している。		
	(大阪歴史博物館) ア 館蔵資料の写真利用、問い合わせ対応などを通じて、企業、自治体、市民団体の要請に応える。	33	(大阪歴史博物館) ア 特別展「埋忠」で、実行委員会においてオリジナルグッズを開発し、10月末から販売した。大阪会場の会期終了後、東京会場の会期に合わせて、2月末までECサイトにて販売を継続した。 株式会社マッシュと共同して「歴史リアル謎解きゲーム 謎の城」を実施した。 館蔵品等を活用したオリジナルグッズの開発・販売（ECを含む）に向けて、民間業者にヒアリングを行い、次年度の販売に向けて具体化している。	3	
	(大阪中之島美術館準備室)	33	(大阪中之島美術館準備室) 企業の協力を得て家電を中心とした工業デザイン製品の情報を収集し、「インダストリアルデザイン・アーカイブズ研究プロジェクト」(IDAP)のポータルサイトを立ち上げた。	3	
34 博物館等資料及び関連情報を活用した民間企業等の活動の支援 研修等を通じて、民間事業者の地元への理解促進や知識習得を支援する。 専門的知識に基づく助言等で、市民活動を行う団体等を支援する。 民間事業者による博物館等資料を使った出版活動や商品開発を支援する。			【機構の評価】 美：3、自：4、陶：3、科：3、歴：3 自然史博物館では、大阪府内の市町村を中心に、環境行政の協力を積極的に進めている。その他の館は計画通りに実施し、出版活動や商品開発を支援することができた。	3	3
	(大阪市立美術館)	34	(大阪市立美術館) ア 館蔵資料の画像データ提供、問い合わせ対応などを通じて、企業、自治体活動の要請に応えた。 写真貸出：75件 【令和元年度実績】67件	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア 学芸員の知見を求める自治体などの自然環境行政や企業などの環境保全活動の要請にこたえる。 イ 館蔵資料やその情報を活用した自然環境保全など、自然環境行政、環境活動に協力する。 ウ 人材育成を目的として講座や見学会への講師派遣など、友の会への連携を継続する。 エ 学芸員の学術的知見を必要とする民間団体、市民団体の活動に協力する。	34	(大阪市立自然史博物館) ア 大阪市、大阪府、堺市、吹田市、岸和田市、京都府などの環境行政に委員などとして協力を行っている（行政委員25件）。 イ 堺市RDB（Red Date Book）の改訂に協力中、十津川村の村史にデータ提供中など、事例多数 ウ 月例ハイク、合宿などを含め連携を継続 エ 業務内、兼業を含め講師派遣を多数行っている。	4	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 館蔵資料の画像データ提供、問い合わせ対応などを通じて、企業、自治体活動の要請に応える。	34	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 館蔵資料の画像データ提供、問い合わせ対応などを通じて、企業、自治体活動の要請に応えた。 写真貸出54件 取材協力1件 ・発掘出土資料プレス協力1件（京都府埋文） 【令和元年度実績】44件	3	
	(大阪市立科学館) ア 現在提供している画像資料を引き続き有償提供する。（再掲）	34	(大阪市立科学館) 8件の有償による画像提供を実施した。 【令和元年度実績】3件	3	

	・ 古代人の宇宙観 (6点) ・ 学天則 (3点) ・ 江戸時代の天文書 (6点) ・ 西洋の古書 (3点)				
	(大阪歴史博物館)	34	(大阪歴史博物館) ア 写真利用の申請に対し、合計213件（有料140件、免除73件）に対応した。問い合わせ対応は随時実施した。 【令和元年度実績】 236件（有料151件、免除85件） ・ 市民団体「喜連村史の会」に講師を派遣し、活動の支援を行っており、令和3年度に共同で特別企画展を実施予定。また民間の保険会社の社員研修に協力し歴史講話を行った。	3	

大項目 I-③	I 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 3 人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」 (1) こども及び教員等への支援 (2) 幅広い利用者への支援 (3) 参画機会の提供
------------	---

中期目標	3 人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」 法人は、各館を人々が探究心を抱き、感受性及び創造性を育むことができ、多様な学習ニーズに応えるものとするにより、市民力の向上に貢献する。 (1) こども及び教員等への支援 ・こども向けワークシートの作成及びワークショップ等の実施 ・教員等を対象とした研修及び教材の開発に係る支援の実施
------	--

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由・評価のコメント	評価
(1) こども及び教員等への支援						
こどものリテラシーの向上及び教員等のスキルの向上のため、各館の活動における支援メニューの充実に取り組む。						
【各館等の基礎的活動の充実を目指す事項】 35 こども向けワークシートの作成及びワークショップ等の実施 こども・親子向け展示プログラムや体験型イベントを実施する。 学校利用向けのワークシートの作成や教材の開発・貸出しを行う。 団体鑑賞学習の受入れや来館時のオーダーメード講演へ対応する。 職場体験の受け入れを実施する。			【機構の評価】 美：一、自：3、科：3、歴：3 コロナ禍のため、中止になる事業も多かったが、デジタルコンテンツに置き換えるなどして、実施する事業もあった。	3	未実施館があり、全体としても十分にフォローアップできる成果をあげられたとは言えない。	2
	(大阪市立美術館) ア 小中学生の美術鑑賞授業におけるレクチャー等を実施する。	35	(大阪市立美術館) コロナ禍のため実施なし。 【令和元年度実績】1回	—		
	(大阪市立自然史博物館) ア 展示室内での子どもワークショップを継続的に実施することによって、既存の展示室の活用を活性化する。 【平成30年度実績】 36回 イ 常設展での小学生・中学生向けワークシート、学習用貸出資料の開発と提供を継続的に行う ウ 特別展での見学用「ワークシート」、「キッズマップ」「キッズパネル」の開発と提供を行う。 エ 学校団体を対象とした遠足下見、説明会、相談対応を実施する。 オ 事前の要請に応じた博物館内での学芸員による特別授業を実施する。	35	(大阪市立自然史博物館) ア 子どもワークショップを38回企画したが、4-7月実施分はコロナ影響により中止。代替プログラムをデジタルコンテンツにより提供した。8月以降は再開している（再掲）。 イ 継続的にワークシート、貸出資料を提供中、新規のキットなども積極的にYOUTUBEやホームページに提供、「おうちミュージアム」として休館中の対応を積極的に行った ウ 「外来生物展」に向けた「キッズマップ」及び「キッズパネル」、ワークシートを開発・公開した。 エ 遠足下見、説明会、相談対応を随時実施してい	3		

	カ 中学生、高校生、大学生への職業体験、インターンに対応する。 キ 常設展での自己学習型シート「たんけんクイズ」の配布を継続する。				
	(大阪市立科学館) 1) こども向けワークシートの作成やワークショップ等の実施 ア 学習指導要領に対応した展示場ワークシートの作成とその利用促進を図る。 イ 学校代替向けブラネタリウム学習投影を実施し、児童生徒の天体の運行などに関する学習理解の手助けとなる学習用資料を作成する。 ウ 幼児～小学校低学年を対象とした展示コーナーを常設するとともに、ブラネタリウムに関しても「ファミリータイム」を実施する。 エ 教員と連携を行い、事業の教育効果を高める。 オ 小学校 5・6 年生を対象としたジュニア科学クラブを実施する。 2) 学校利用での利用を前提としたワークシートの作成と配布 ア 学習指導要 領に対応した展示場ワークシートの作成とその利用促進を図る。(再掲) イ 学校代替向けブラネタリウム学習投影を実施し、児童生徒の天体の運行などに関する学習理解の手助けとなる学習用資料を作成する。(再掲)	35	る。 オ 秋以降再開。 カ コロナ影響により依頼がない。 キ 探検クイズは8月以降実施している。 (大阪市立科学館) 1) ア 小学生向けの展示場ワークシート「たんけんラリー」5種類を科学館HP上で公開し、利用に供した。 イ 学習投影の投影実績は108回。観覧者には「学習のしおり」を無料配布した。 【令和元年度実績】206回 ウ 「ファミリータイム」の投影実績は305回。また展示場2階において「おやかでかがく」をテーマとした常設展示を行った。 【令和元年度実績】ファミリータイム実施415回 エ ジュニア科学クラブは新型コロナウイルス感染拡大防止のため、通常の対面型での活動は中止し、代替としてオンラインによる会員向け映像配信や、月刊「うちゅう」での各種情報紹介などを実施した。会員数：137名 2) ア 小学生向けの展示場ワークシート「たんけんラリー」5種類を科学館HP上で公開し、利用に供した。 イ 学習投影は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため9月1日まで休止し、9月2日より再開。学習投影の投影実績は108回。観覧者には「学習のしおり」を無料配布した。 【令和元年度実績】206回。 ウ 大阪市立小学校向けの出張サイエンスショーを11月から2月に実施した。10校10件。 【令和元年度実績】計10校10件実施	3	
	(大阪歴史博物館) ア 常設展示場内でのスタンブラリー実施や8階「歴史を掘る」コーナーでのワークシートの配布。 イ 「わくわく子ども教室」「考古学体験教室」などのこども向け事業を実施する。 ウ 学校団体を対象とした学芸員による遺跡探訪ツアーを実施する。 エ 中学生向け職業体験を実施する。	35	(大阪歴史博物館) ア コロナウイルスの影響で中止している。 イ コロナウイルスの影響で中止している。 【令和元年度実績】 手作りおもちゃで遊ぼう(21回1,527名) むかしの瓦の拓本体験(6回147名) 和同開珎の拓本でしおりをつくろう(4回60名) 綿くり・糸つむぎ体験(93名) ダンボールでつくる(21名) 風づくりと風あげ(18名) 考古学体験教室(個人)(91名) 考古学体験教室(学校向け)(16校884名) ウ コロナウイルスの影響で中止している。 【令和元年度実績】18校1,034名 エ 中学生向けは新型コロナ拡大のため要望がなく実施せず。高校生1件、小学生1件の職業講話を行った。 【令和元年度実績】6校11名	3	
	【記載なし】(大阪市立東洋陶磁美術館)	35			

36 教員等を対象とした研修及び教材の開発に係る支援の実施 教員に対する博物館活用に関する研修会やワークショップを開催する。 教員による施設利用の事前学習を支援する。 大阪府・市教育センター等と連携を図り、教科部会や教員を支援する。			【機構の評価】 美：一、自：3、陶：3、科：一、歴：3、経：3 コロナ禍のため、センター側からの中止要請のため実施しなかった研修会もあるが、独自に取り組めるオンライン事業については、実施した。	3		3
	(大阪市立美術館)	36	(大阪市立美術館) コロナ禍のため実施予定なし。	—		
	(大阪市立自然史博物館) ア 教員のための博物館の日を開催し、学校利用のための研修や相談を集中実施する。 イ 教員向けサポート連絡誌TM通信の発行し、利用法の周知につとめる。 ウ 教員と連携した貸出資料・学習キットの開発につとめる。	36	(大阪市立自然史博物館) ア コロナ影響により中止。研修用動画コンテンツを提供。 イ 発行を再開。 ウ 科研費事業などで取り組んでいる。研究会は今年度実施できなかった。	3		
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 教員研修・教員のための博物館の日への協力を行う。 イ 館蔵品画像のオープンデータ化を通し、教材への利用推進を図る。	36	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 実績なし ※新型コロナウイルス感染症拡大のため 【令和元年度実績】なし イ 館蔵品画像のオープンデータ化 ・館蔵資料23件については、「大阪市立東洋陶磁美術館収蔵品画像オープンデータ」サイトの制作に伴い、オープンデータ化した(3月26日公開)(再掲)	3		
	(大阪市立科学館) ア 大阪市教育センター等と連携を図り、サイエンスショーや実験実習等の教職員向けの研修を実施する。	36	(大阪市立科学館) ア 新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を見送った。 【令和元年度実績】4件11回。 イ 教員研修などは、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い実施を見送った。	—		
	(大阪歴史博物館) ア 教員向けの利用講座を通じ、ワークショップなどで当館の魅力を伝えるようにし、当館の活用を図るようにする。 イ 教員研修への協力を行う。 ウ 教員のための博物館の日を実施する。	36	(大阪歴史博物館) ア コロナ禍で中止していた学校団体見学は8月末から再開したが、感染症防止のため教員へのガイドは実施していない。考古学体験教室、教員のための博物館の日は中止となったため、教員向けの発信はできていない。 イ 学校からの要望なし 【令和元年度実績】初任者研修 南高校1名、玉造小学校1名 ウ「教員のための博物館の日2020」は中止だったが、国立科学博物館の開催したオンライン研修に参加した。 【令和元年度実績】71名参加	3		
	(事務局経営企画課) ア 学校利用を促すための「授業に役立つミュージアム活用ガイド」を配布する。 イ 夏休み期間に「教員のための博物館の日」を自然史博物館、歴史博物館で各1回開催する。	36	(事務局経営企画課) ア「授業に役立つミュージアム活用ガイド」の配布 イ「教員のための博物館の日」は新型コロナウイルス感染症のため実施できなかったが、開催予定館のオンライン研修に参加した。	3		

中期目標	3 人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」 (2) 幅広い利用者への支援 ・学生その他の専門的な知識の習得を目指す者への支援の実施 ・博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧並びにそれらの調査研究に関する教育及び普及の事業を行うこと(再掲11) ・多様な媒体及び手段を通じた調査研究その他の活動の成果の公開(再掲12) ・多言語表記等による外国人の受入れ体制の充実(再掲23)
------	--

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由・評価のコメント	評価
(2) 幅広い利用者への支援						
さまざまな人々の多様な学習ニーズに応えるため、支援メニューの充実に取り組む。						
【各館等の基礎的活動の充実を目指す事項】 37 学生その他の専門的な知識の習得を目指す者への支援の実施 学校を単位としたメンバーズ制度による高校・大学生等の利用促進を図る。 大学院生や若手研究者への研究協力(インターン制度を含む)を行う。 市民による高度な研究を支援するための制度を継続的に実施する。 関連団体への専門的助言などを通じて支援を行う			【機構の評価】 美：3、自：4、陶：3、科：3、歴：4、経：3 コロナ禍のため、時期をずらす、オンラインでの研修など工夫を凝らし、可能な限り、実習を行った。 また、キャンパスメンバーズ制度も契約を年度中から再開した。	3		3
	(大阪市立美術館) ア 博物館実習を通じ、学芸員資格の取得を目指す実習生を受け入れる。 イ 要請にもとづき、大阪市立大学等での博物館学関連講座への出講を行う。	37	(大阪市立美術館) ア 次のコースを開設し、実技指導を通じた知識・技能の習得を支援した。 素描部 石膏素描科 前期 実技コンクール 年6回 石膏素描科 後期 実技コンクール 年6回 人体素描科 実技コンクール 年6回 絵画部 美術研究所展 年1回 彫塑部 美術研究所展 年1回 イ 博物館実習受入：36名 コロナ禍のため感染対策をとり、時期を9月にずして実施。 【令和元年度実績】受入47名 ウ 博物館関連講座出講：3名 【令和元年度実績】3名 エ コロナ禍のため 受入0名	3		
	(大阪市立自然史博物館) ア 博物館実習などを通じ、学生への支援を行う。 イ 要請にもとづき、大学での博物館学関連講座への出講を行う。 ウ 館蔵資料の閲覧対応などを通じて研究者の活動を支援する。 エ ジュニア自然史クラブを通じた自然史科学に興味を持つ中高生への直接的な指導を行う。	37	(大阪市立自然史博物館) ア 夏期20名、秋期13名、冬期に21名、合計45名を受け入れた。コロナにより一部の大学が実施を見送ったようだ。 【令和元年度実績】受入55名(夏期20名秋期17名冬期21名) イ 計画通り実施予定。 ウ 6月以降日常的に対応。利用の成果集計中。	4		

	オ 周辺地域のSuper Science Highschool指定校などへのサポートを要請に基づいて行う。 カ 博物館と連携して活動する市民団体・アマチュア団体・学術団体の指導・支援を継続的に行う。(再掲) キ 大学生ワークショップサポートスタッフへの教育学的指導を含めたエデュケーターとしての育成につとめる。		
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 博物館学を開講する大学の見学実習の受入れを行う。 イ 館蔵資料の調査対応などを通じて研究者の活動を支援する。	37 (大阪市立東洋陶磁美術館) ア 博物館学を開講する大学の見学実習の受入れを行った。 3大学55名(※市大の展示論を含む) 【令和元年度実績】5大学97名(※市大の展示論を含む) イ 館蔵資料の調査対応などを通じた研究者の活動支援は新型コロナウイルス感染症拡大のため当面の間中止 【令和元年度実績】なし ウ インターン3名の受け入れを行った。	3
	(大阪市立科学館) ア 天文学を学べる大学と連携し、その分野への進学に興味を持っている生徒に情報提供を行う場を設け、大学と高校生の仲立ちを担う活動を実施する。 イ 市井の研究者と学芸員の協同による中之島科学研究所事業を行う。	37 (大阪市立科学館) ア 全国の大学と協力し、天文を学べる大学や大学院に興味のある高校生教員、保護者等を対象にしたイベント「天文学者大集合！宇宙を学ぶ大学紹介イベント」は、今年度はオンライン事業に変更して9月20日に開催した。97名参加。 【令和元年度実績】176名参加 イ 中之島科学研究所事業を実施し、研究員と学芸員等による講演、議論を行う「コロキウム」を7月から8回実施した。また、中之島科学研究所の研究員による研究報告2本を、科学館研究報告誌第30号に掲載した。 【令和元年度実績】コロキウム9回実施 ウ 友の会の活動を支援し、例会での講演をはじめとした各種支援を実施した。(参考：友の会会員数725人)	3
	(大阪歴史博物館) ア 夏季に博物館実習などを通じ、学芸員資格の取得を目指す実習生を受け入れる。 イ 要請にもとづき、大阪大学、大阪芸術大学等への出講を行う。 ウ 館蔵資料の閲覧対応などを通じて研究者の活動を支援する。	37 (大阪歴史博物館) ア 令和2年度は、12大学46名の実習生を受け入れた。従来は2期に分けて実施してきたところ、実習中の密を避けるために1期ごとの受講生を減らし、かつできるだけ多くの受講希望に対応するために、コロナ対策を万全に行った上で実施回を増やし3期に分けて実施した。 【令和元年度実績】10大学53名 イ 大阪大学、大阪芸術大学、関西大学、神戸大学、同志社大学への出講を実施した(合計5講座)。このほか機構との連携協定により、大阪市立大学の博物館学関連講座3講座に派遣。 【令和元年度実績】大阪大学、大阪芸術大学、大阪市立大学 3講座 ウ 11件の資料閲覧申請に対応した。 【令和元年度実績】17件	4

	(経営企画)	37	(経営企画) コロナ禍のため、4・5月の利用契約を結ぶことができなかったが、6月期の無料利用期間も含め、7月以降7校（大学4、高校3）の契約を結ぶことができた。 大阪市立大学とは、昨年度に続き協定を締結した。キャンパスメンバーズ制度への継続加入、博物館学講座（保存論、展示論、経営論の3授業）への出講などを行った。（再掲）。	3	
38 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧等に関する教育及び普及の事業 講座・講演会・シンポジウム等を通じて、活動成果の公開と普及に努める。（再掲） 踏査や見学機会を通じて、実物に接する機会を提供する。（再掲） ワークショップの実施やリファレンス窓口を設置して、利用者の学習支援を行う。（再掲）			【機構の評価】 美：3、自：4、陶：3、科：3、歴：4、経：4 コロナ禍のため、中止の事業が多かったが、可能なものについては、感染予防を施しての実施、オンラインでの開催など、機会の確保に努めた。	3	3
	(大阪市立美術館) ア 展覧会等の関連事業としての講演会等を開催する(再掲)。	38	(大阪市立美術館) ア コロナ禍により中止していたが、「天平礼賛」展では2回講演会を実施した。また、オンラインでのミニギャラリートークも3本アップ（再掲）。 。【令和元年度実績】 講演会：3回 トークイベント：1回 ギャラリートーク：19回	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア 各種の自然観察会など多様な野外行事・講演会を継続的に実施する（再掲）。 イ 学芸員の専門、特別展の内容に則した「自然史オープンセミナー」を開催する。 ウ 外部の学術団体などと連携したシンポジウム・講演会などを誘致開催する。	38	(大阪市立自然史博物館) ア 野外観察会、室内実習、ワークショップなど合計173回を企画したが、緊急事態宣言およびその後の体制が整うまでの7月末までの期間、12月から2月末まで大阪府赤信号期間はオンライン行事を除き休止となった。結果、 ・コロナにより中止となった行事110回 ・雨天などによる中止8回 ・実施した行事55回 これらの結果参加者数は2,462名であった。 自然史フェスティバルやジオカーニバルも中止となり、対面の行事は人数制限など厳しい状況となった。中止になった行事の代替としてTwitterやホームページによるコンテンツ提供を「おうちミュージアム」と連携して行った。また、YOUTUBEへ動画コンテンツを積極的に公開し、新規に実施した51番組で24958回再生された。大阪市立自然史博物館チャンネル全体では4月から3月まで述べ7万5千回の再生、7222時間の再生時間、742名のチャンネル登録者増加となった（再掲）。 イ 外来生物展に関連し、webでのオープンセミナーを計3回、その他公開の学芸員のセミナーを5回実施した。合計2,912人が視聴（再掲）。 ウ 地学団体研究会、日本菌学会との共催講演会を4、6月に予定していたが中止となった。12月に関	4	

		西自然保護機構と実施した共催webシンポジウムは2,809回の再生となった（再掲）。		
(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 展覧会ごとに関連した講演会、講座などを開催する（再掲）。 イ 学芸員の調査研究の成果を還元するための講演会、講座、レクチャーなどを継続的に実施する（再掲）。 ウ 韓国陶磁研究基金による李秉昌博士記念公開講座を実施する（再掲）。	38	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 展覧会ごとに関連した講演会、講座などの開催は感染症予防対策のため中止、10月末から定員を半減して再開。（10月31日午前・午後2回展覧会関連の講演会実施）11月以降は再び中止し、ボランティアに向けたレクチャーの動画配信をおこなった（再掲）。 実来場2回、オンライン2回 【令和元年度実績】26回 イ 学芸員の調査研究の成果を還元するための講演会などは感染症予防対策のため中止。オンラインでの講演を行った（再掲）。 2回（オンライン） 【令和元年度実績】2回 ウ 韓国陶磁研究基金による李秉昌博士記念公開講座(13)「耀州窯青磁と高麗」をオンライン開催(2021年3月7日)で行った（再掲）。 【令和元年度実績】 韓国陶磁研究基金による李秉昌博士記念公開講座(13)「耀州窯青磁と高麗」を延期(2020年3月14日開催予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で次年度以降に延期)	3	
(大阪市立科学館) ア 各種友の会活動等への学芸員の協力、関与を行い、科学に対して興味関心の高い市民に対する専門的な助言等の支援を行う。 イ 一般市民が演示を行う科学実験大会を実施する。 ウ 小学校向けの出張サイエンスショーを実施する。 エ 随時、来館・電話による問い合わせ対応を行う。	38	(大阪市立科学館) ア 新型コロナウイルス感染拡大防止による休館やリスク回避などにより、7月8日まではすべての普及行事、研修などを中止し、7月9日以降再開した。また、1/14から2/28発出の緊急事態宣言下においては夜間行事を全て中止した（再掲）。 学芸員等による各種実験教室・講座として、天体観望会を4回、プラネタリウム・スペシャルナイトを1回、大人の化学クラブをのべ2回、中之島科学研究所コロキウムを8回開催した。また、新型コロナウイルス感染拡大に対応するために、新たにオンライン科学教室を企画し3回実施した（再掲）。 その他実施を予定していた日食観望会、大学紹介イベント、南部陽一郎生誕100周年記念講演会は、オンライン実施に変更して実施した（再掲）。 なお、再開に当たっては、機構ガイドラインに基づき、入館者の体温チェックや手指消毒、館内でのマスク着用要請などを実施したほか、会場の床・壁・机・椅子への抗ウイルス剤塗布、参加者のソーシャルディスタンス確保のための定員数減などを行った（再掲）。 【令和元年度実績】22件 イ 新型コロナウイルス感染拡大防止のためボランティアによる展示ガイドやエキストラ実験ショー	3	

			は休止した（再掲）。 【令和元年度実績】 展示ガイド活動延べ1,502名、エキストラ実験ショー319回 ウ アウトリーチ事業では、従来事業に加えて、新型コロナウイルス感染拡大防止に対応する事業として新たに「おうちでサイエンス」サービスを新たに追加し、今年度5件実施した（再掲）。 【令和元年度実績】22件 エ 市民からの問い合わせ対応は随時行っている（再掲）。		
	(大阪歴史博物館) ア 学芸員が各自の専門の最新の研究成果をつたえる「なにわ歴博講座」の継続的に実施する（再掲）。 イ 学芸員の専門に即した連続講座を実施する（再掲）。 ウ 展覧会などの関連事業としてのシンポジウムなどを開催する（再掲）。	38	(大阪歴史博物館) ア なにわ歴博講座は2期6回開催予定であったが、新型コロナウイルスの影響により、年内の開催は見送り、1月から3回実施した（165名）（再掲）。 【令和元年度実績】1期3回（192人）※一部新型コロナウイルスの影響で未実施。 イ 考古学入門講座、漢文講座、古文書講座は、新型コロナウイルスの影響で今年度の実施を見送った。その欠を補う意味で、新たに「館長講演会」を7月に実施した（59人）。12月に予定していた第2回は新型コロナウイルスの影響で延期した（再掲）。 【令和元年度実績】 ・考古学入門講座 3回（107人）、漢文講座 3回（166人） ウ 特別展「埋忠」 ・シンポジウム 96人 ・講演会 94人（再掲） 特集展示「新発見！なにわの考古学2020」 ・講演会 76人（再掲）	3	
	(事務局経営企画課) ア 博物館に興味を持つ市民団体等のために「出前講座」を実施する。	38	(事務局経営企画課) ア 各館の学芸員による連続講座「TALK&THINK」を令和3年2月に、コロナ禍のため、会場の設備を活用し、SNSを媒介にしたオンラインで15回実施した。著作権に関しての処理が事務局でできなかったため、講義1回分が実施できなかった（再掲）。 イ 大阪市立大学との包括連携協定による事業「ミュージアム連続講座」を、難波市民学習センターとの共催で、2～3月に実施した。シンポジウムは、令和2年1月実施。夏季に行う予定だった理系の講演会は、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止（再掲）。 ウ 10月に2件実施した（再掲）。 【令和元年度実績】 3件	4	
39 多様な媒体及び手段を通じた調査研究その他の活動の成果の公開 図録・紀要等印刷物の発行によって調査研究その他の活動の成果を公表する（再掲）。 収蔵資料や図書等に関する情報をインターネットを介して公開する（再掲）。 講演会や学会発表映像、収蔵標本データ観察記録			【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3 各館とも展覧会ごとに図録等を計画どおり作成した。東洋陶磁美術館ではデジタル図録の製作・公開・頒布も行った。	3	3

などのアーカイブ化と公開を促進する(再掲)。					
	(大阪市立美術館) ア 研究紀要を発行し、ホームページ上で公開する(再掲)。 イ 広報誌『美をつくし』を発行する(再掲)。	39	(大阪市立美術館) ア 研究紀要を3月に刊行・公開した。(再掲) イ 「天平礼賛」(独自作成)、「フランス絵画の精華」展の2回の特別展で図録を作成・販売した。(再掲) ウ 広報誌『美をつくし』を9月・3月に発行。(再掲)	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア 研究報告の継続的な発行とホームページ上での公開。 イ 共同研究報告書、館蔵資料集などの継続的な発行。 ウ 年報の作成およびホームページ上での公開を通じ、館の活動を公開する。 エ SNSやブログ、ホームページを活用した学術情報や研究過程の発信を行う。	39	(大阪市立自然史博物館) ア 大阪市立自然史博物館研究報告75号を発行(再掲)、自然史研究4巻4号を発行した。(再掲) イ 収蔵資料目録52集岸川椿蔵書の発行(予定)。(再掲) ミニガイドNo. 33 「クジラのバトン」を発行した。(再掲) ウ 10月に館報45号を発行、リポトリに掲載した。(再掲) エ 次期特別展解説書の発行を予定。(再掲) オ 友の会発行の月刊誌Natu令和 Study66巻4号から67巻3号の12冊を発行した。(再掲) カ 共著書籍の出版が発行された。(再掲) キ HPでの新着情報46件、Twitter 111件、FaceBook50件を投稿 オフィシャルアカウントはTwitterを9500人がフォロー、FaceBook 2350人がフォローしている。この他、各学芸員がそれぞれ自然関連情報や館の活動を発信している。(再掲)	3	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 調査研究の成果を反映した展覧会図録や館蔵品に関する書籍・図録の制作、監修、発行、販売などを行う(再掲)。 イ 李秉昌博士記念韓国陶磁研究報告を発行する(再掲)。	39	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 調査研究の成果を反映した展覧会図録や館蔵品に関する書籍・図録の制作、監修、発行、販売などを行った(再掲)。 ・当館編集の館蔵品図録の発行、販売 ・特別展「天目—中国黒釉の美」展図録の編集 ・特別展「黒田泰蔵」図録の発行 ・四代田辺竹雲斎による《GATE》制作の記録集の制作・発行 ・特集展「現代の天目—伝統と創造」デジタル図録の制作・発行・頒布 ・特集展「柿右衛門—Yumezurasセレクション」展図録の編集 イ 李秉昌博士記念韓国陶磁研究報告について、オンライン開催用PDF版を発行した(再掲)。 李秉昌博士記念韓国陶磁研究報告(13)「耀州窯青磁と高麗」PDF版	3	
	(大阪市立科学館) ア 月刊誌「うちゅう」を発行する(年12回)(再掲)。 イ 3カ月ごとに「科学館だより」を発行する(年4回)(再掲)。 ウ ホームページ、ツイッター、YouTube等を利用	39	(大阪市立科学館) 大阪市立科学館研究報告誌第30号の出版を行った。また、学芸員による研究成果の学会・研究会発表(口頭、論文を含む)を15件行った。 ア 月刊「うちゅう」4月～3月号の計12冊を発行した。	3	

	した情報発信を行う（再掲）。 エ 学芸員の執筆によるミニブックを発行する（再掲）。		イ 「科学館だより」を3回発行した。 ウ ホームページ内に学芸員のページを設置した。また、スタッフだより、ツイッターなど、学芸員が紹介するページの設置、公開を行った。 エ ミニブックを17冊作成し、ミュージアムショップで販売中。今年度は1冊を新規製作、1冊を増刷した。		
	（大阪歴史博物館） ア 年1号の研究紀要を継続的に発行し、ホームページ上で公開する（再掲）。 イ 共同研究報告書、館蔵資料集などの継続的に発行する（再掲）。 ウ 年報の作成およびホームページ上での公開を通じ、館の活動を公開する（再掲）。	39	（大阪歴史博物館） ア 研究紀要第19号を発行。第18号のホームページアップを完了し、今年度から総合学術電子ジャーナルサイト「J-STAGE」への登録を開始した（再掲）。 【令和元年度実績】「大阪歴史博物館研究紀要」第18号 イ 共同研究報告書15、館蔵資料集17「旧大阪市都市工学情報センター所蔵写真 大阪城とその周辺」を発行（再掲）。 【令和元年度実績】共同研究報告書14、館蔵資料集16「小絵馬 中コレクション・柴垣コレクション」 ウ 2本の巡回特別展における図録作成に大きく関わったが、大河ドラマ特別展「麒麟がくる」は当館では中止となり、9月に岐阜展で発行された。10月開催の特別展「埋忠」は予定通り発行した（再掲）。 【令和元年度実績】2本の自主企画特別展において作成 エ 特集展示「発掘成果から考える近世都市「おおさか」の食文化」「発掘された難波京」はリーフレットを作成したが、臨時休館・中止のため未配布。「なにわの考古学2020」以降の特集展示は予定通り作成・配布した（再掲）。 【令和元年度実績】開催した5本の特集展示において作成・配布（公開中止の特集展示1本は作成のみ） オ 平成31（令和元）年度の年報を発行し、ホームページに掲載した（再掲）。 【令和元年度実績】「大阪歴史博物館年報」平成30年度	3	
40 多言語表記等による外国人の受入れ体制の充実 デジタル機器(情報端末)などを活用した多言語対応を進める(再掲)。 パンフレット、展示解説文等の多言語化や、サインの充実を図る(再掲)。			【機構の評価】 美：3、自：3、陶：4、科：4、歴：3 経：3 外国人の受け入れがほとんどなかったが、将来に向けた見直しを行った。	3	3
	（大阪市立美術館） ア 来館者状況を注視しつつ施設案内等（非常時の案内を含む）の多言語化の見直しを進める。（再掲）	40	（大阪市立美術館） ア 施設案内の英語表示以外の多言語化については改修工事を含めて検討中。ウェブサイトでの展覧会情報の英語対応は実施。 イ ホームページなどでの対応を進めている（再掲）。	3	
	（大阪市立自然史博物館）	40	（大阪市立自然史博物館）	3	

		ア 館内における外国語表記について、来館者動向を見ながら適宜見直しを行う。（再掲）		
(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 平常展示における主要館蔵品約 60 点の作品解説の多言語対応（日・英・中・韓音声ガイド機のレンタルを継続して行う。（再掲） イ 作品解説やパネル、出版物などの多言語化に努める。（再掲）	40	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア これまで大阪市博物館協会が実施した外国人動向調査の成果等を生かし、多言語での情報発信の充実に努めた（再掲）。 ・ホームページ4ヶ国語による発信 ・館蔵品図録の英語併記 ・解説キャプションの英語表記 ・館蔵品パンフレット（5ヶ国語）の配布 ・館蔵品のデジタル画像データのオープンデータ化に向け、利用規約の新規制定、新規規約の英語、中国語（簡・繁）、韓国語への翻訳を行った。 ※特記：トリップアドバイザー「旅好きが選ぶ！日本人に人気の美術館ランキング 2020」第6位（参考）2019年に初登場11位 イ 平常展示における主要館蔵品60件の作品解説の多言語対応（日・英・中・韓）音声ガイド機のレンタルは、感染症予防対策のため休止中（再掲）。 ※感染症の状況をふまえ、次年度からは従来の音声ガイド機（有料）に代え、ミュージアム展示ガイドアプリ「ポケット学芸員」（無料）の導入を決定。次年度4月からのサービス提供に向け、今年度はテキスト、及び音声による作品解説（日・英）、画像の多言語対応の準備を進めた。 【令和元年度実績】レンタル件数計464台 ウ 作品解説やパネル、出版物などの多言語化に努めた（再掲）。 ・常設展示の作品解説やパネルの英文併記 ・新館蔵品図録、展覧会図録等における英文併記 ・鼻煙壺のキャプション改訂 エ 未対応箇所の洗い出しを行い、改修計画の検討を進めた（再掲）。	4	
(大阪市立科学館) ア ホームページ、リーフレットの英語・中国語・韓国語対応を行う。（再掲） イ オンラインを利用した展示場解説文の多言語化、展示解説ビデオの英語テロップ表記を行う。（再掲）	40	(大阪市立科学館) ア 施設案内の英語、中国語など多言語化を一部実施している。加えて非常階段内の表示をわかりやすく認識しやすいものに変更した（再掲）。 イ 文化庁から補助金を受け、常設展示物211点の解説文をスマートフォンアプリで取得できるシステム「ポケット学芸員」（運用中）に、韓国語版解説文を追加した（再掲）。 ウ ホームページの自動翻訳や三つ折りリーフレットにて英語・中国語・韓国語・仏語（三つ折りリーフレットのみ）の対応を実施している（再掲）。 エ 文化庁補助金により、スマートフォンアプリを	4	

			利用した展示場解説文の多言語化（英語、中国語簡体字）を運用中で、今年度には韓国語を追加した（再掲）。		
	(大阪歴史博物館) ア 館内における外国語表記について、来館者動向を見ながら見直しを行う。（再掲）	40	(大阪歴史博物館) ア 平常は7種の外国語パンフレット配布数を分析し、国別の来館者動向の把握に努めているが、本年度はインバウンドが皆無の状態である（再掲）。 イ 展示資料の内容に合わせ適宜外国語訳を付した（再掲）。 ウ インバウンドの来館はないが、6月の再開後はデジタルサイネージを用いた日本語での案内を充実させた。（再掲）。	3	
	(事務局経営企画課)	40	(事務局経営企画課) ア 外国人ライターによる英語の冊子を発行し、在日外国人を呼び込めるよう新たな取り組みを実施（再掲）。 イ 広報誌とSNSの連携は実施中。外国人ライターによる目線での情報誌制作し、発行した（再掲）。	3	

中期目標	3 人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」 (3) 参画機会の提供 ・ボランティア及びNPOの各館の活動への参画の促進 ・各館の活動に関する利用者との対話の機会及び場の設定 ・さまざまな人々が自らの学習成果を活用して行う教育活動の機会の提供及びその奨励
------	---

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由・評価のコメント	評価
(3) 参画機会の提供						
市民活動に寄与するため、次の通り、各館の活動への幅広い参画の機会を提供する。						
【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】 41 ボランティア及びNPOの各館の活動への参画の促進 友の会の組織と自主性を活かした運営を支援する各種ボランティア(ガイドや学芸補助等)活動の拡充を図る。			【機構の評価】 自：3、陶：3、科：一、歴：3 コロナ禍のため、ボランティア活動などがほぼできなかったが、可能な場合は、研修や、一部活動を実施した。	3	未実施館や代替措置の状況からも2評価が妥当と考える。	2
	(大阪市立自然史博物館) ア ボランティア活動を維持し、自然科学的な研修を施して活動が充実するよう継続して検討を行う。 イ 学生むけのボランティアについては、自然科学的な研修とともに、教育手法についての研修を充実させ、人材育成を強化する。 ウ 関連NPO法人などとの協働事業を積極的に実施する。	41	(大阪市立自然史博物館) ア 8月以降11月まで、補助スタッフとして各種野外行事・実習などを支援を再開した。 イ 昨年度から継続の学生が参加し、研修を受けている。 ウ 催事は少ないが各NPOと連携を進めている エ 月例ハイク、合宿などを含め連携を継続（再掲）	3		
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア ボランティアガイド活動を継続的に実施し、研修などを実施しその充実に努める。	41	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 展覧会ごとの研修を新型コロナウイルス感染症対策のためオンラインに変更し実施 2回 イ 従来の友の会制度を見直し、その一環として新たに年間パスの販売を開始した（6月2日から） 販売枚数146枚 【令和元年度実績】 展覧会ごとの研修 4回 定刻ガイド・団体ガイド実施39回	3		
	(大阪市立科学館) ア 展示解説ボランティアによる展示ガイド、プチサイエンスショー、実験教室並びにその実施に向けての研修を行う。 イ 科学デモンストレーターによるエキストラ実験ショーの実施、並びにその実施に向けての研修とスキルアップ活動を行う。 ウ 科学館だいすきクラブ、友の会活動、東亜天文学会の活動支援を行う。	41	(大阪市立科学館) ア 展示解説ボランティア「サイエンスガイド」による活動は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため休止。 【令和元年度実績】活動延べ人数 1,502人 イ 科学デモンストレーターによるエキストラ実験ショーは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため休止。 【令和元年度実績】 エキストラ実験ショー 319回 見学者数 16,971人(2月22日～3月31日休止) ウ 科学館大好きクラブが企画・作成した展示「自	—		

			然科学の基礎を訪ねる ～おうちで楽しむ身近な科学～」を実施した。友の会活動では、例会やサークルなどの実会場実施・オンライン開催を支援した。東亜天文学会への活動支援は新型コロナウイルス感染症拡大防止により休止した。		
	(大阪歴史博物館) ア ボランティア活動を維持し、特別展および博物館見学、異文化理解などの研修を行い、活動が充実するように努める。 イ 近隣地域に活動拠点を置く NPO 法人などと、わくわく子ども教室「風づくりと風揚げ」などの協働事業を実施する。	41	(大阪歴史博物館) ア 新型コロナウイルス感染症防止のため、通常実施の「ハンズオン」「スタンプラリー」「歴史を掘る」「遺跡探訪」の4活動は休止とし、8月の再開時には、活動メニューをパズルの糊のふき取り、ハンズオンで使う衣装・着物などの修繕、ハンズオン「双六」の持ち帰り用コマの作成の3活動のバックヤード作業として実施した。 10月からは、パズルの糊のふき取り、持ち帰り用コマの作成、備品整理、復元倉庫の掃除、土器洗いを実施した。ただし、感染者増加のため12月から3月10日まで活動を中断した。 コロナ対策で研修が困難なため、研修に代わるものとして発行した「ボランティアだより」は3～19号までを発行した。 活動のべ人数132名（49日） 【令和元年度実績】5,266名（306日） イ コロナウイルスの影響により、大阪観光ボランティアガイド協会などへの講師派遣は行えない状況である。 【令和元年度実績】8回 ・南大江地域活動協議会に協力し、地域の歴史・文化の学習会である「郷塾」に講師派遣を行った。 ・恒例となっているNPOまち・すまいづくりと共催の「風づくりと風あげ」は、今年度はコロナ感染防止のため開催を見送った。	3	
	【記載なし】（大阪市立美術館）	41			
42 各館の活動に関する利用者との対話の機会及び場の設定 ボランティアとの意見交換の場を設け、意見を聴取する。 友の会会員等との意見交換の場を設け、意見を聴取する。 市民団体との共同事業を通じて、利用者との対話を図る。			【機構の評価】 自：3、陶：3、科：2、歴：3 コロナ禍において対面での取り組みが難しかった。そのような中でもオンラインにより意見徴収等を実施した	2	2
	(大阪市立自然史博物館) ア 市民連携のあり方を検討する館長諮問の協議会を設置し、ボランティアやNPOとのさらなる連携などに関する方針を検討する。 イ 友の会の総会および評議員会、各種ワーキンググループを通じ、意見を聴取する。 ウ 協働するNPOとの定期的な協議の機会を設け連携を密に行う。	42	(大阪市立自然史博物館) ア 協議会についてはまちづくり関係者、コミュニティビジネス関係者、NPO経営アドバイザーなどの候補を決定し、打診し打ち合わせを目指したが臨時閉館に伴い延期している。 イ 評議員会（ネット会議により実施）、事業WG（ネット会議または対面により実施）などで意見聴取した。	3	

			【令和元年度実績】総会、評議委員会5回、事業ワーキンググループ8回開催 ウ 自然史センターと毎月協議を実施、事業報告会 は中止となった。		
	(大阪市立東洋陶磁美術館)	42	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 展覧会ごとの研修を新型コロナウイルス感染症 対策のためオンラインに変更し実施 2回	3	
	(大阪市立科学館)	42	(大阪市立科学館) ア 新型コロナウイルス感染拡大防止によるサイエ ンスガイド活動休止のため、実績なし。(再掲)	2	
	(大阪歴史博物館) ア ボランティアとの意見交換の場を継続して設け る。 イ 友の会の総会および幹事会を通じ、意見を聴取 する。	42	(大阪歴史博物館) ア ボランティア懇談会の開催が困難であるため、 12月に代替アンケートを1回実施した。 【令和元年度実績】ボランティア懇談会の代替アン ケートを1回実施 イ 令和2年度は新型コロナ感染症拡大防止のため活 動休止(総会は書面決議のみ)。10月と11月に幹 事会を開き、12月からの活動再開を準備したが、 その後の感染者数の増加を受けて再開を見送った 。現在、再開に向けての意見交換を行っている。	3	
	【記載なし】 (大阪市立美術館)	42			
【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 43 さまざまな人々が自らの学習成果を活用して行 う教育活動の機会の提供及びその奨励 美術団体等へ施設を貸出し、市民による成果発信 を支援する(再掲)。 施設のエントランス等を利用し、関係団体による 成果展示を支援する(再掲)。 市民参加のフェスティバル等を開催し、活動成果 発表の場を提供する(再掲)。			【機構の評価】 美：3、自：3、科：3、歴：3 コロナ禍でも対応できる事業については、実施した 。	3	代替措置も積極的に講じ られておらず、2評価とす る。
	(大阪市立美術館) ア 地下展示会室の美術団体への貸出及び館長賞を 授与する(再掲)。	43	(大阪市立美術館) ア 【令和2年度実績】 利用のべ39団体、館長賞のべ15団体 ※新型コロナウイルス感染症大対策のため利用団 体が激減(再掲)	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア 市民の自然に関わる文化活動の発表の場として 大阪自然史フェスティバルを開催する。(再掲) イ 博物館と連携して活動する市民団体・アマチュ ア団体・学術団体の指導・支援を継続的に行う。(再 掲) ウ 関連学会と連携した市民科学の発表機会を誘致 する。(再掲) エ 大阪府高等学校生徒生物研究発表会や自由研究 展など生徒・児童の発表機会の確保につとめる。(再 掲)	43	(大阪市立自然史博物館) ア 市民の自然に関わる文化活動の発表の場として 大阪自然史フェスティバルを開催する(再掲)。 イ 博物館と連携して活動する市民団体・アマチュ ア団体・学術団体の指導・支援を継続的に行う(再 掲)。 ウ 関連学会と連携した市民科学の発表機会を誘 致する(再掲)。 エ アーティストによる標本活用など、芸術分野と のコラボレーションを継続して模索する(再掲)。 オ 大阪府高等学校生徒生物研究発表会や自由研究 展など生徒・児童の発表機会の確保につとめる(	3	

		再掲)。		
(大阪市立科学館) ア エキストラ実験ショーの実施をはじめとした科学デモンストレーター活動を支援する。 イ サイエンスガイドによる「サイエンスガイドの日」を開催する。 ウ 友の会有志による、「青少年のための科学の祭典」への出展を支援する。 エ 科学館だいすきクラブによる展示解説を支援する。	43	(大阪市立科学館) ア・イ 新型コロナウイルス感染拡大防止のためボランティアによる展示ガイドやエキストラ実験ショーは休止した(再掲)。 ウ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度の青少年のための科学の祭典が中止となったため、友の会による出展は中止した(再掲)。 【令和元年度実績】 1件出展 エ 科学館大好きクラブによる展示解説は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。代替として、展示「自然科学の基礎を訪ねる ～おうちで楽しむ身近な科学～」を実施した(再掲)。 【令和元年度実績】 2回	3	
(大阪歴史博物館) ア 館の活動に関係する学術団体等と連携し、発表の場を設ける(再掲)。	43	(大阪歴史博物館) ア 例年共催している「歴史学入門講座」はコロナウイルスの影響で中止となるなど、連携すべき講座等自体が実施できなかった(再掲)。 ・島根県主催(古代文化センター)の「島根学講座 in大阪」開催(10・11月)に協力した。 ・韓国文化院制作「朝鮮通信使と大阪」オンラインフィールドワーク動画への企画、出演等の協力 イ わくわく子ども教室「手作りおもちゃで遊ぼう」では、市民の地域団体がボランティア「おもちゃ作りサポーター」として活動し、市民活動の発表の場ともしてきたが、今年度は感染防止のため実施を見送った(再掲)。	3	
【記載なし】(大阪市立東洋陶磁美術館)	43			

大項目 1-④	I 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 4 大阪中之島美術館の開館に向けて
------------	---

中期目標	4 大阪中之島美術館の開館に向けて 法人は、大阪市北区中之島に建設予定の大阪中之島美術館について、2021年度中の開館に必要な準備業務を行う。 (1) 大阪中之島美術館の開館に向けて ・コレクション展及び企画展の開催の準備 ・新たな博物館等資料の収集 ・博物館等資料の公開に向けた修復及びアーカイブ化 ・開館に向けた機運の醸成 ・大阪中之島美術館とともに運営するPFI事業者の選定
------	---

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由・評価のコメント	評価
(1) 大阪中之島美術館の開館に向けて						
[1] 2019年度：法人が開館準備業務を行う。 [2] 2020年度から2021年の建物引渡し時まで：選定されたPFI事業者の一部を委託して、共に開館準備業務を行う。 [3] 2021年の建物引渡し時から開館まで：学芸員がPFI事業者等に在籍出向した上で、PFI事業者が運営権者として開館準備業務を行う。 [4] 開館後：PFI事業者が運営権者として美術館の運営を行う。 ・大阪中之島美術館の建設に関して大阪市と連携して進め、学芸員の視点が整備内容に適切に反映されるよう助言を行う。[1][2](上記の各時期に該当、以下同じ) ・大阪中之島美術館の運営を担うPFI事業者の公募及び選定業務を行う。[1] ・美術及びデザインに関する作品資料及び情報の収集を行う。[1][2][3][4] ・収蔵作品資料の公開に向けた修復と額装を行う。[1][2][3][4] ・開館後に開催する展覧会(企画展・コレクション展)の実施に向けた準備を進め[1][2][3]、開館後は展覧会の準備と開催を継続的に行う。[4] ・作品資料に関する情報及び画像データの整備を行う。[1][2][3][4] ・アーカイブ活動の充実のための図書やアーカイブ資料の整備を行い[1][2][3][4]、開館後はアーカイブ室を運営する。[4] ・収蔵作品資料について、準備業務をへて引っ越しを実施する。[1][2][3] ・ヴィジュアル・アイデンティティ(VI)の構築と展	(1) 整備事業への関与 大阪中之島美術館の建設に関して、大阪市と連携して進める。 1) 大阪市及び工事業者との間で開催される工事定例会や整備内容に関する協議等に積極的に参加し、情報の収集を行う。 2) 収蔵作品資料の管理や開館後の運営について責任をもつ学芸員の視点が整備内容に適切に反映されるよう、大阪市に助言を行う。 (2) 開館準備業務の実施 1) コレクション展及び企画展の開催の準備 ア 収蔵作品資料及び図書等の大阪中之島美術館への輸送(引越)準備を行う。 ・令和3年度秋に予定する収蔵作品資料及び書類・図書等の大規模輸送を確実に実施するため、本年度中に業者の選定を行う。そのために以下の計画を立案する。 ①収蔵作品資料の輸送前製図計画 ②収蔵作品資料の輸送及び配架計画 ③書類・図書等の輸送及び配架計画 ・収蔵作品資料の状態チェック及び簡易クリーニングを実施する。 イ 開館後に開催する展覧会(企画展・コレクション展)について企画立案し、実施に向けた準備を進める。PFI事業者と共に、令和7年度以降に開催する展覧会の計画に着手する。 ウ 作品資料の撮影を行う。 ・令和元年度新収蔵作品を中心に、未撮影作品の撮影を実施する。 ・撮影済みの画像データを公開して、大阪中之島美術館収蔵品管理システムの充実を図る。 エ 大阪中之島美術館で必要な備品等の調達準備を	44 -1	1) ・現場事務所で定例会議に参加し、大阪市、工事業者と情報を共有した。	3	3	
		44 -2	2) ・展示室及び収蔵庫の仕様・設備をはじめ、館内のあらゆる施設・設備について学芸員と大阪市技術担当が共に検討し、意見交換・調整した。	3	3	
		44 -3	ア ・輸送に係る事務手続きを進めた(継続)。 ・収蔵庫への収納計画を作成(継続)した。 ・図書資料を整理(継続)した。 ・製図・廃棄等のプランを作成し、事務手続きを進めた(継続)。 イ ・開館当初3年間の企画展について具体的に準備を進めた。 ・コロナ影響に係る企画変更の対応を実施した。 ・共催メディアや巡回候補美術館との協議を詳細に進めた。 ・作品借用交渉を進めた。 ・令和7年度以降に開催する展覧会の計画に着手した。 ・観覧料の設定について、民間事業者への調査委託を通じて、妥当な価格を見つけることができた。 ウ ・作品撮影：283カット ・アーカイブ資料撮影：440カット ・画像データの収蔵品管理システムへの掲載を段階的に実施した。	3	3	

開をデザイナーと共同して推進する。〔1〕 ・広報活動やイベント開催の実施と、開館に向けた機運の醸成を進める。〔1〕〔2〕〔3〕 ・他の美術館・博物館、大学、企業等と連携して、共同の研究や事業を実施する。〔1〕〔2〕〔3〕〔4〕	行う。 ・納品が各開館準備業務に間に合うよう、本年度中に業者の選定を行う。		エ ・18件契約案件について、契約事務審査会で承認された。うち、年度内に15件の業者を選定した。 ・公募型プロポーザル案件の募集を開始した。			
	2) 新たな博物館資料の収集 ア 美術及びデザインに関する作品資料及び情報の収集を行う。 ・開館後のコレクション展示等における活用のため、収集方針に従って作品の収集を行い、コレクションの充実を図る。 ・収集活動における適切な情報収集のため、国内外の美術動向に関する資料を継続的に収集する。 ・所蔵作家の著作権状況に関して継続的に調査を進める。 イ 大阪中之島美術館の開館前の燻蒸及びIPMの実施準備を進める。 ・PFI事業者と共に、収蔵作品資料及び図書の燻蒸計画を立案し、業者を選定する。 ・PFI事業者と共に、作品資料収蔵エリア等のIPMクリーニングの計画を立案し、業者を選定する。	45	ア ・新規収蔵作品：収集・評価委員会を10月28日に開催。 購入： 16件（35点） 寄贈等：19件（318点） 寄託： 5件（55点） ・研究用資料の購読： 海外雑誌、国内雑誌を定期購読した（継続）。 ・所蔵作家著作権状況に関する調査： 著作権管理手法の調査を実施した（継続）。 イ ・PFI事業者と共にIPMに係る手法検討、マニュアル作成、他館見学を実施した（継続）。 ・PFI事業者と共に燻蒸計画を進め（継続）、燻蒸を委託する業者を選定した。 ・PFI事業者と共に、作品資料収蔵エリア等のIPMクリーニングの計画を進め（継続）、委託する業者を選定した。	3		3
	3) 博物館等資料の公開に向けた修復及びアーカイブ化 ア 収蔵作品資料について、作品保護と開館後の展示の必要性を考慮して、修復と額装を行う。 イ 開館後のアーカイブ事業の充実のため、アーカイブ資料やアーカイブ図書の整理や登録等の業務を行う。	46	ア ・修復：油彩画18点、家具等デザイン作品9点、日本画8点 ・額縁：製作30点、修繕19点 ・保存処置：貴重資料157点 イ ・アーカイブ図書登録の事業委託を推進し、所蔵情報5000件をCiNiiで公開した。 ・アーカイブ資料管理システムを構築（継続）し、データベースのテストサイト（非公開）を開設した。 ・普及事業を通じた最新の知見を習得した。 ・一般及び機構職員向けにアーカイブ普及事業の研修会「美術分野におけるオーラルヒストリーの収集と管理」を実施（昨年度コロナ影響により中止したものをオンライン開催）（再掲）。	3		3

	4) 開館に向けた機運の醸成 ア PFI事業者と共に、ウェブサイトやSNS等の更新や充実等を通じて、大阪中之島美術館の整備や開館準備の状況を発信する。 ・大阪中之島美術館公式ウェブサイトを制作し、公開する。 ・大阪中之島美術館の開館に向けた機運を醸成するためのPR・広報活動を実施する。 ・大阪中之島美術館の整備の進捗や開館準備についてわかりやすく周知する「開館準備ニュース」を発行、ホームページ上に掲載する。 ・SNS等を活用し、イベント等の情報を積極的に発信する。 イ ヴィジュアル・アイデンティティ（VI）のアプリケーション制作を、VIデザイナーと共同して進める。 ウ PFI事業者と共に、トークイベント、シンポジウム等、開館イベントを実施する。 エ 他の美術館や大学、企業等との連携を推進する。	47	ア ・公式サイトのリニューアルを推進した（継続。2月10日公開）。 ・整備の進捗状況や大阪中之島美術館の特色を一般に普及する「開館準備ニュース：NAKKA NEWS」を公開した（継続）。 ・「中之島アートウォール」（中之島三井ビル4階）にて所蔵品のパネル展示を実施した。 ・公式サイトおよび機構サイトとSNSツールによる情報発信に加え、新たにFacebook、Instagram、Twitterアカウントを開設し、発信力の強化を推進した（継続）。 ・開館イベントの実施にあたっては特設サイトを開設した。 イ ・ロゴタイプ、シンボルマーク等をはじめとした基本VIエレメントの運用を開始した。 ・アプリケーションの制作を進めた（継続）。 ・商標登録の変更申請を実施した。 ・VIの建築サイン計画への適用、監修を行った。 ウ 【開館イベント】 ・「コレクションへのラブレターを大募集」市民参加型プロジェクト（10/12～令和3.3/31） ・「ホームビデオ募集：思い出がアートになる」市民参加型プロジェクト（10/12～令和3.3/31） ・スペシャルトーク「松本隆×館長」（2/27） エ 開館イベントや開館後の展開を見据えた事業取り組みを推進。コロナ影響による令和元年度中止イベントの復活オンライン開催を含む。 【開館イベント、中之島地域連携】 アートエリアB1、クリエイティブアイランド中之島実行委員会、中之島まちみらい協議、中之島三井ビルディング、株式会社銭高組、国立国際美術館 【アーカイブ事業・研究連携】 大阪大学、大阪市立大学、同志社大学、インダストリアルデザイン・アーカイブズ協議会、パナソニック株式会社、シャープ株式会社、積水ハウス株式会社、ダイキン工業株式会社 【展覧会連携】 国立国際美術館、東京ステーションギャラリー、大分県立美術館、他（再掲）	3	3
--	---	----	--	---	---

大 項 目 Ⅱ	Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する事項 5 業務運営の改善及び効率化 (1) 人材の活用と育成 (2) 評価制度の活用 (3) I C Tの導入及び活用 (4) 民間活力の導入
------------	--

中期目標	5 業務運営の改善及び効率化 法人は、業務運営の改善及び効率化を図ることで、法人の事業の持続的かつ安定的な実施を目指す (1) 人材の活用と育成 ・ 職員の能力が発揮できる組織体制の構築及び適切かつ柔軟な人員配置 ・ 職員のスキルアップを図るための学習機会の確保 ・ 包摂的な社会にふさわしい人材の獲得 ・ 法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成(再掲5)
------	--

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由・評価のコメント	評価
(1) 人材の活用と育成						
49 職員の意欲及び能力を活かすため、必要な体制整備を図るとともに、職員の育成に取り組む。 【法人として充実を目指す事項】 49 職員の能力が発揮できる組織体制の構築及び適切かつ柔軟な人員配置	(事務局) 職種に応じた能力が的確に把握できる評価制度の浸透を図る。 法人内での人事交流を実施する。	49	(事務局総務課) 4月から、大阪歴史博物館（非常勤⇒）及び中之島美術館（空席⇒）に常勤新館長を配置し、組織体制を強固にした。 4月から、民間管理職経験のある事務系課長1名を、1月に民間から実務経験のある事務系係長3名を新たに採用し、3館の総務課に配置して事務部門の体制を強化した。 (事務局施設管理課) 10月に民間出身者を含む技術職員2名（建築及び電気職）を採用し、体制を強化した。 (事務局経営企画課) 1月に広報の実務経験を有する民間出身の職員1名を採用し、広報コンテンツの分析や広報誌作成といった分野の体制を強化した。	4		4
50 職員のスキルアップを図るための学習機会の確保 法人内での人事交流を積極的に実施する。 職員のスキルアップに寄与するため、職員の職能別・階層別の研修を実施する。	(事務局) 職種や職階を超えた職員に共通する研修を実施する。 。 管理者層向けの研修を実施する。 学芸員の資質向上を目的に、専門的研修を実施する。 。 法人の内部統制の推進のための研修を実施する。	50	(事務局総務課) 人事交流については、令和2年4月の定期異動、新規採用に伴う10月及び令和3年1月に、事務局及び各館全体で積極的に実施した。 4月(事務系・学芸系職員向け)、10月及び1月（事務係長級・技術系係長級及び主任級向け）の新規採用者に対して、それぞれ新採研修を行った。 職員のスキルアップに寄与するため、管理者層向けとして、10月に内部統制及び会計監査に関する研修を、それぞれ実施した。	3		3

			(事務局経営企画課) 事務局経営企画課 外部講師を招いた次の研修機会を通じて知識等の共有を図った。 ・博物館機構ICT関連オンライン研修（「情報化会議」）（7月31日） ・大阪市博物館機構「コロナ状況下で博物館の価値を発信していく—令和2年度大阪市博物館機構の試み」（オンライン）（3月24日）= また、科研費従事者への研究者倫理研修として、機構の研究者を対象にオーサーシップに関する研修会を開催した（再掲）。			
【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 51 包摂的な社会にふさわしい人材の獲得	(事務局) 年齢等にとらわれず、能力、適性に応じた人材を、すべての職種において採用する。	51	(事務局総務課) 機構発足後、引き続き独自採用や民間採用等、職種を問わず多様な人材の確保に向け採用活動を積極的に行っており、障がいを持つ方の法定雇用率を堅持している。	3		3
52 法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成(再掲) 業務の中核を担う職員を安定的に確保するために、中長期的な採用計画及び育成計画を立案し、運用する。 年齢等にとらわれず、能力、適性に応じた人材を採用する。 館蔵品保存管理、広報、教育、資金調達等に特化した専門人材の安定的確保と充実をめざす(再掲)。 【中期計画期間中の目標】 2021年度の大阪中之島美術館の開館後は、準備業務に従事した職員の削減を予定(3名程度)			【機構の評価】 各館及び事務局において、技術や事務系で民間出身者を中心に、多くの新たな人材を獲得することができた。	4		4
	(事務局) 教育普及や広報など多様な分野の専門職員のあり方や育成法について、検討を行うため、作業部会を開催する。(再掲)	52	(事務局総務課) 4月から民間管理職経験のある事務系課長1名を、1月に民間から実務経験のある事務系係長3名を新たに採用し、3館の総務課に配置して事務部門の体制を強化した(再掲)。 翌年度の4月1日の職員採用に向け、採用試験、合否判定等の手続きを順調に行った。 機構の広報を検討するために、広報誌作成のための検討部会並びに、編集会議議を実施した。 (事務局施設管理課) 10月に民間出身者を含む技術職員2名を採用し、体制を強化した(再掲) (事務局経営企画課) 1月に広報の実務経験を有する民間出身の職員1名を登用し、機構全体の広報体制を強化した(再掲)(各館) 各館における「法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成」(＝学芸員)については、既出の 「4 法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成」(P5～7)に記載	4		

中期目標	5 業務運営の改善及び効率化 (2) 評価制度の活用 - 法人の中期計画及び年度計画における適正な目標設定及び自己評価 - 能力に応じた人事評価の実施 - 法人の適正な目標設定及び評価の基礎となる運営に関する調査研究の実施 - インセンティブが適正に働く人事制度の導入
------	---

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由・評価のコメント	評価
(2) 評価制度の活用						
評価制度に基づく業務改善及び職員のモチベーションが向上するよう、適正な制度の構築及び運用を目指す。						
【法人として充実を目指す事項】 53 法人の中期計画及び年度計画における適正な目標設定及び自己評価 中期計画及び年度計画(以下「中期計画等」という。)の策定及び評価に関する規程等を整備し、その適切な運用に努める。	(事務局) 年度計画については、令和3年度分の策定に向けて、評価委員会の意見に沿いながら、適正な目標設定を行ったうえで年度計画を作成する。自己評価については、6月末までに令和元年度の自己評価を大阪市長に提出し、また上半期終了後に令和2年度の中間評価(仮評価)を実施して下半期の業務改善につなげる。	53	(事務局経営企画課) ・令和3年度の計画を、評価委員会の意見を取り込みながら作成した。 ・令和元年度の自己評価をとりまとめ大阪市に提出し、結果を得た(再掲)。その際、評価内容の記載内容・位置について、改善の指摘があった。 ・令和2年度上半期の中間評価を取りまとめ、下半期での改善目標を立てた(再掲)。	2		2
54 能力に応じた人事評価の実施 職員の能力向上を図るため、業務の成果を総合的に評価する人事評価制度を構築し、その運用をめざす。	(事務局) 職種に応じた能力が的確に把握できる評価制度の構築とその理解促進を図る。(再掲)	54	(事務局総務課) ・職員の人事評価制度については制度構築を実現し、試行として開始した。 ・人事評価制度にかかる研修を計4回実施し、制度の浸透を図った。 (事務局経営企画課) 学芸連絡会議等で学芸員の人事評価制度について検討を重ね、試行として開始した。	3	既に中期目標が達成されており、そのスピード感も含め4評価とする。	4
【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 55 法人の適正な目標設定及び評価の基礎となる運営に関する調査研究の実施 他館の事例研究など、博物館運営に関する調査・研究を実施する。(再掲)	(事務局) 展覧会事業における観覧者数や事業費を始め、適正な目標設定や評価の基礎となる運営に関する他館情報も含めた調査研究を実施する。	55	(事務局経営企画課) ・各館の日々の展示ごとの観覧者数等をリアルタイムで集計・分析し、他館の情報も含めた経営会議等での議論を通じ、業務改善を促した(再掲)。 ・博物館の評価に関する調査研究を進め、評価制度の構築やPDCAサイクルの循環に関する研究結果を公表した(再掲)。	4		4
56 インセンティブが適正に働く人事制度の導入 適正な目標設定や評価の基礎となる運営に関する調査研究を実施する。 職員の資質向上を図るため、自己評価や人事評価に基づき、インセンティブが適正に働く制度を構築し、その運用を目指す。	(事務局) 事業評価や人事評価に基づき、インセンティブが適正に働く制度の構築を検討し、次年度、その運用を実現する。	56	(事務局総務課) ・他の機関における人事評価制度を活用したインセンティブの在り方について、先行する独立行政法人の制度やインセンティブの配分方法について検証を行った。 ・(事務局経営企画課) ・学芸連絡会議等で学芸員の人事評価制度を議論する中で、その結果の反映方法についても意見を交換し、今後の導入のあり方を検討した。	3		3

中期目標	5 業務運営の改善及び効率化 (3) ICTの導入及び活用 ・財務、会計、勤怠、人事及び給与業務等におけるシステムの導入及び活用
------	--

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価			
			評価の判断理由(実施状況等)	評価		
(3) ICTの導入・活用						
業務の標準化及び迅速な処理のため、ＩＣＴの導入及びその活用を図る。						
【法人として充実を目指す事項】 57 財務、会計、勤怠、人事及び給与業務等におけるシステムの導入及び活用 業務の効率化を図るため、法人の各館を結ぶネットワークを構築し、各種システムを稼働させる。	(事務局) 各館と事務局を結ぶネットワークを通じて、法人情報の迅速な共有を図る。 人事・給与や財務会計システムの利用範囲（者）拡大に向けた取り組みを進める。 利用者へのサービスの向上及び業務の効率化を図るため、次の通り、民間活力を効果的に導入する。	57	(事務局総務課) 昨年度の評価結果を受けて以下の改善に取り組んだ。 ・財務会計システム導入のプロジェクトチームを立ち上げて推進を図った。4月より準備期間を経て10月から本格稼働に移行し、コロナ禍における臨機の経営判断（決算見込み）に活用できた。 ・人事・給与システムについては、12月から従来のアナログ方式との並行稼働を経て、令和3年3月から本格稼働し、ペーパーレス化や集計作業における業務の効率化を実現した。 これらに加え、次のICT技術の導入による業務の効率化と経費縮減を図った。 ・全館へのグループウェア導入を通じて、迅速な情報共有を図るとともに、ペーパーレス化を推進した。 ・コロナ禍においてオンライン会議ソフトを導入することで、移動のための経費や時間の縮減を図るとともに、ペーパーレス化を推進した。	4		4

中期目標	5 業務運営の改善及び効率化 (4) 民間活力の導入 ・事業効果を見極めた外部委託の推進 ・専門的な知識又は技能を有する民間の人材の登用 ・民間事業者等の外部からの意見を聴取する仕組みの導入
------	--

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価	市長の評価	
			評価の判断理由（実施状況等）	評価	評価の判断理由・評価のコメント
(4) 民間活力の導入					
利用者へのサービスの向上及び業務の効率化を図るため、民間活力を効果的に導入する。					
【法人として充実を目指す事項】 58 事業効果を見極めた外部委託の推進 施設の管理・運営業務などにおける効率化を図る観点から、競争入札等を継続するとともに、各館の特性を踏まえて、新たな仕組みの導入について検討する。	(事務局) サービス向上や効率化を図るため、外部委託を進める。 より効果的な契約手法の導入に向けた検討を行う。	58	(事務局総務課) 機構においてはサービスの向上や効率化に資するため、案内・受付・清掃・設備保守等の部門について外部委託を実施している。 (事務局施設管理課) 前年に引き続き、サービス向上や効率化に資するため、CM（コンストラクション・マネジメント）方式を実施し、市立美術館改修及び東洋陶磁美術館エントランス工事において、建設プロジェクトの企画、設計、発注、工事、引き渡しの各段階におけるスケジュール管理及びコスト管理等の委託化による業務の効率化を実現した。 さらに、より有効な外部委託者を得るための選定方法について、定例及び臨時で契約事務審査会において適宜検討を行った。	3	3
【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 59 専門的な知識又は技能を有する民間の人材の登用 広報や教育など適材適所で、専門的知識を有する外部人材の登用を検討する。	(事務局) 教育普及や広報など多様な分野の専門職員のあり方や育成法について、検討を行うため、作業部会を開催する。（再掲）	59	(事務局総務課) 4月に民間管理職経験のある事務系課長1名を、1月に民間から実務経験のある事務系係長3名を新に採用し、3館の総務課に配置して体制を強化した（再掲）。 (事務局施設管理課) 10月に民間出身者を含む技術職員2名を採用した（再掲）。 (事務局経営企画課) 1月に広報の実務経験を有する民間出身の職員1名を登用した（再掲）。	4	4
60 民間事業者等の外部からの意見を聴取する仕組みの導入 委託事業者等から意見を聴取し、必要に応じて、業務改善への反映を図る。	(事務局) 委託事業者等から意見を聴取し、必要に応じて、業務改善への反映を図る。	60	(事務局総務課) 定期的に、受付業務や清掃業務等の委託業者から意見を聴取し、業務改善へ反映を行った。 新しいシステムの導入に際し、他の博物館・美術館とネットワークを組み、情報交換の体制を構築した。	3	3

		(事務局施設管理課) 大規模改修工事の設計・工事監理において技術的内容の精査、コスト削減、工程管理における技術的サポートを受けるため、民間事業者のノウハウ活用することに取り組んだ。 一昨年度に選定した業者にCM業務を委託することにより、設計者選定方法や工事発注方法等の手法の改善や、基本設計の精査の向上が図られた (東洋陶磁美術館・市立美術館計2件)。		
--	--	---	--	--

大項目 Ⅲ	Ⅲ 財務内容の改善に関する事項 6 財務内容の改善 (1) 収入の確保 (2) 経費の節減
----------	--

中期目標	6 財務内容の改善 法人は、財務内容の改善を図り、持続可能な事業の実施に必要な資金を確保することで、安定的な経営を目指す (1) 収入の確保 ・幅広い利用者の獲得及び法人資産の有効活用による収入の増加 ・各館の活動への理解と支援に基づく寄附金等の積極的な獲得
------	---

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価																																						
			評価の判断理由(実施状況等)	評価																																					
(1) 収入の確保																																									
持続可能な事業の実施に必要な資金を安定的に確保するため、各館の収入の増加に努めるとともに、外部からの資金獲得に努める。 61 幅広い利用者の獲得及び法人資産の有効活用による収入の増加 観覧料収入や法人資産の有効活用などにより、安定的な収入確保を図る。 【法人として充実を目指す事項】 観覧料収入の安定的確保を図るため、館毎の特性に応じた常設展及び特別展の集客力を高める取り組みを実施し、観覧料収入の増加に努める。 【中期計画期間中の増収目標（5年での割合）】 <table><tr><td></td><td>常設展</td><td>特別展</td></tr><tr><td>美術館</td><td>3%</td><td>5%</td></tr><tr><td>自然史博物館</td><td>—</td><td>5%</td></tr><tr><td>東洋陶磁美術館</td><td>—</td><td>3%</td></tr><tr><td>科学館</td><td>5%</td><td>—</td></tr><tr><td>歴史博物館</td><td>3%</td><td>3%</td></tr></table> 保有資産について、新たなテナントの誘致や適切なテナント料の設定、貸会議室の稼働率上昇の取り組み等を実施し、施設の有効利用による増収を図る		常設展	特別展	美術館	3%	5%	自然史博物館	—	5%	東洋陶磁美術館	—	3%	科学館	5%	—	歴史博物館	3%	3%	(事務局) 観覧料収入や法人資産の有効活用などにより、安定的な収入確保を図る。 次の中期目標期間中の増収目標の他一斉に必要な単年度分の増収をめざす。 中期計画期間中の増収目標（5年での割合）】 <table><tr><td></td><td>常設展</td><td>特別展</td></tr><tr><td>美術館</td><td>3%</td><td>5%</td></tr><tr><td>自然史博物館</td><td>—</td><td>5%</td></tr><tr><td>東洋陶磁美術館</td><td>—</td><td>3%</td></tr><tr><td>科学館</td><td>5%</td><td>—</td></tr><tr><td>歴史博物館</td><td>3%</td><td>3%</td></tr></table> ユニークベニューの実施など、施設の有効利用による増収を図る。		常設展	特別展	美術館	3%	5%	自然史博物館	—	5%	東洋陶磁美術館	—	3%	科学館	5%	—	歴史博物館	3%	3%	61	(事務局総務課) コロナ禍による外出制限や4～5月の休館及び各館の入場者数（座席数）の制限、さらに開館後2ヶ月間の来館者数伸び悩み等の状況を踏まえて、上半期末時点では当初計画していた事業収入から65%減を予測していたが、コロナ対策戦略（CRS）を策定し推進することで3%の増収を実現し、結果62%減に留めることができた。 コロナ感染症対策のための費用として、文化庁による補助金を申請・獲得した（7,171千円） (事務局経営企画課) ユニークベニューについては、料金設定をはじめとした制度構築が必要なことに加え、コロナ禍にあっては試行的な実施も困難であった、こうした中で、市立美術館・自然史博物館・大阪歴史博物館では、施設を背景に大阪クラシック2020（無料動画配信）の演奏収録に協力した。 その上で、CRSにおいて今後、ユニークベニューとしての取り組みが行えるよう、計画した。	3	3
	常設展	特別展																																							
美術館	3%	5%																																							
自然史博物館	—	5%																																							
東洋陶磁美術館	—	3%																																							
科学館	5%	—																																							
歴史博物館	3%	3%																																							
	常設展	特別展																																							
美術館	3%	5%																																							
自然史博物館	—	5%																																							
東洋陶磁美術館	—	3%																																							
科学館	5%	—																																							
歴史博物館	3%	3%																																							
【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 62 各館の活動への理解と支援に基づく寄附金等の積極的な獲得 積極的な寄附金や協賛金等の獲得のため、法人の担当者を定め、取り組みを強化する。 社会教育施設としての役割と、安定的事業実施を念頭においた、特別展等における適正な料金のあり方を検討し、その適用に努める。	(事務局) 社会教育施設としての役割と、安定的事業実施を念頭においた、特別展等における適正な料金のあり方を検討する。 積極的な寄附金や協賛金等の獲得に取り組む。	62	(事務局経営企画課) 次の2点を通じて、今後の寄附収受の促進に不可欠な体制を整備した。 ・ 国税庁との協議を進め、極めて膨大な書類と手続きを要する所得税免除手続きを、簡素化するため二必要な機関指定を受けた。 ・ これまでの現金によらず、時間を問わずキャッシュレスで手続きが可能な、インターネットでの寄	5	5																																				

			付金を受け付けるためシステムを構築した。 コロナ感染症対策として、文化庁の補助事業に応募し、抗ウイルス剤の塗布や消毒液等の消耗品購入に必要な経費を確保した。 (事務局総務課) (中之島美術館) 観覧料の設定について、民間事業者への調査委託を通じて、適正な価格を見つけることができた(再掲)。		
--	--	--	---	--	--

中期目標	6 財務内容の改善 (2) 経費の節減 ・ 契約の方法、期間及び単価の見直しによる経費の縮減 ・ 共同調達による経費の縮減
------	---

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由・評価のコメント	評価
(2) 経費の節減						
安定的な経営を実現するため、経費の縮減に努める。 【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 <u>63 契約の方法、期間及び単価の見直しによる経費の縮減</u> 委託費等の契約内容を点検し、契約期間や単価の見直しを実施する。 【中期計画期間中の削減目標】 2022年度から一括契約を導入し、美術館を除く各館の維持管理費(委託費)の5%削減を見込む	(事務局) 業務委託や高額物品の調達等において、規程に従い、競争入札を実施する。 令和4年度からの契約手法の見直しを見据え、一括調達や長期契約に向けた規程等を整備する。	63	(事務局総務課) 規程に沿って、可能な限り競争入札を実施するとともに、契約期間を長期化することによって取引金額を低減するよう努めた。 (施設管理課) ・光熱水費の削減に向けて、データを整理するなど技術的なサポートを行った。 これらに加え、次のICT技術の導入による業務の効率化と経費縮減を図った(再掲)。 ・全館へのグループウェア導入を通じて、迅速な情報共有を図るとともに、ペーパーレス化を推進した。 ・コロナ禍においてオンライン会議ソフトを導入することで、移動のための経費や時間の縮減を図るとともに、ペーパーレス化を推進した。	3		3
64 共同調達による経費の縮減 各施設の業務内容などを考慮し、消耗品や役務について、具体的な品目を定めたうえで共同調達を進める。	(事務局) 各施設の業務内容などを考慮し、消耗品や役務について具体的な品目を定めたうえで、各館室等との共同調達を進める。	64	(事務局総務課) コロナウイルス感染対策資材に関しては、5館で使用する物品の品目を統一し、一括購入を進めることで、スケールメリットを出し購入額を抑えた。	3		3

大 項 目 Ⅳ	Ⅳ その他業務運営に関する重要事項 7 その他業務運営に関する重要事項(内部統制) (1) 環境整備 (2) 重要なリスク回避のための体制の構築
------------	---

中期目標	7 その他業務運営に関する重要事項(内部統制) 法人は、業務を恒常的に維持し発展させることのできる組織を確立するため、リスクを回避できる仕組みを構築し、機能させることで、内部統制の強化に努める (1) 環境整備 ・法人として内部統制に必要な規程及び体制の整備並びに法人内での周知徹底 ・研究者及び学芸員として必要な規程及び体制の整備並びに法人内での周知徹底 ・各職階及び各職域に応じた必要な権限の付与及び責任の明確化 ・法人の各機関への適切な権限の配分及び各機関における適切な意思形成の確保 ・情報共有に必要なイントラネットをはじめとするＩＣＴの活用の促進 ・内部監査等による定期的な内部点検及び監事による監査の確実な実施
------	--

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由・評価のコメント	評価
(1) 環境整備						
内部統制の確立のため、必要な規程の策定等を行うとともに、その理解を深めるための環境を整備する。						
【法人として充実を目指す事項】 65 法人として内部統制に必要な規程及び体制の整備並びに法人内での周知徹底 コンプライアンスの遵守を徹底するため、法令や社会的規範に基づいて法人の内部規程を整備し、理解促進に向けた研修を実施する。	(事務局) 法令や業務方法書等に基づいた内部統制の推進に関する規程に沿った運用を行う。 役員及び職員並びに研究者としての倫理指針及び行動指針を遵守する。	65	(事務局総務課) ・6月に法人として内部通報・外部通報制度にかかる内部窓口及び外部窓口を設置し、内部統制の推進にかかる仕組みを整備した。 ・11月に内部統制委員会を開催し、内部通報制度について周知徹底を図るとともに、リスク管理の今後の進め方について確認を行った。	3		3
66 研究者及び学芸員として必要な規程及び体制の整備並びに法人内での周知徹底 研究者や博物館人としての倫理観を確保するため、内部規程を整備し、理解促進に向けた研修を実施する。	(事務局) 研究者及び学芸員としての倫理観の確保、理解増進に向けた研修を実施する。	66	(事務局経営企画課) ・「科学研究費助成事業－科研費－の研究実施規程」ほか、必要な内部規程を昨年度制定済み。 ・公的研究費の管理・運営体制の整備、公的研究費の不正使用に係る調査等に関する規程の作成等環境整備も進めた。 ・科研費従事者への研究者倫理研修として、機構の研究者を対象にオーサーシップに関する研修会を開催した（再掲）。	3		3
67 各職階及び各職域に応じた必要な権限の付与及び責任の明確化 役員の役割を明確にし、法人業務を監理・監督を遂行する。 業務執行のための体制と役割分担を明確にし、確実な執行に努める。	(事務局) 組織や役員の分掌に関する規程に沿って、法人業務を監理・監督する。	67	(事務局総務課) ・役員の分掌規程を整備し、役割を明確化させ、定期的に理事会等で執行状況を報告することにより、役員による業務執行の監理・監督体制を整備した。 ・組織が分掌規程に則って運営できているかを監督するため、監事による各種会議への出席、役員との面談などを行った。	3		3

68 法人の各機関への適切な権限の配分及び各機関における適切な意思形成の確保 理事会や業務執行のための会議体を整備し、迅速な意思決定や情報共有を図る。 業務分担と執行および責任の所在を明確にするための規程を整備し、その確実な運用を図る。	(事務局) 理事会や業務執行のための会議を定期的開催し、迅速な意思決定や情報共有を図る。	68	(事務局総務課) ・機構における会議体として、「理事会」「経営会議」「総務連絡会」「学芸連絡会」を定期的開催し、各階層において迅速な意思決定や情報共有等を図った。 ・昨年度に引き続き「新型コロナウイルス感染症対策本部会議」を設置し、コロナ禍における機構内の統一的な対応を迅速に決定する仕組みを構築した。	3		3
69 情報共有に必要なイントラネットをはじめとするICTの活用促進 意思疎通や情報共有のため、テレビ会議システムなどのICT技術の活用を検討する。	(事務局) 意思疎通や情報共有のため、ウェブ会議システムなどのICT技術の活用を検討する。	69	(事務局総務課) ・全館へのグループウェア導入を通じて、迅速な情報共有を図るとともに、ペーパーレス化を推進した（再掲）。 ・コロナ禍においてオンライン会議ソフトを導入することで、移動のための経費や時間の縮減を図るとともに、ペーパーレス化を推進した（再掲）。 ・在宅勤務を可能とするための端末（モバイルパソコン）を導入するとともに、運用に向けて必要なセキュリティ対策を実施した。	4		4
70 内部監査等による定期的な内部点検及び監事による監査の確実な実施 内部監査等により定期的に内部統制環境の整備状況・有効性をモニタリングするとともに、監事による監査機能・体制の強化に取り組み、内部統制に関する必要な見直しを行う。	(事務局) 法令や法人諸規定の理解促進と遵守に向けた内部研修を実施する。 監事による監査を通じて、内部統制に関する必要な見直しを行う。	70	(事務局総務課) ・内部監査計画書を策定し、事務局及び各館において業務監査及び会計監査を実施した。 ・9月より監事による各館往査を実施し、内部統制環境や年度計画の進捗状況等の監査を行った。	3		3

中期目標	7 その他業務運営に関する重要事項(内部統制) (2) 重要なリスク回避のための体制の構築 ・リスク管理体制の整備及び組織全体で取り組むべき重要なリスクの評価 ・ネットワークセキュリティの強化
------	--

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由・評価のコメント	評価
(2) 重要なリスク回避のための体制の構築						
重要なリスクを回避するため、早期の発見及び対処が可能な体制を構築する。 【法人として充実を目指す事項】 71 リスク管理体制の整備及び組織全体で取り組むべき重要なリスクの評価 適切なリスク管理を行うため、業務の遂行、入館者の安全、資産管理等多角的な視点からリスクを調査し、問題の早期発見に努める。	(事務局) 業務実施の障害となるリスクを調査し、当該リスクへの適切な対応への適切な対応を可能とする規程に沿った運用を行う。	71	(事務局総務課) ・内部監査計画書を策定し、事務局及び各館において業務監査及び会計監査を実施した(再掲)。 ・9月より監事による各館往査を実施し、内部統制環境や年度計画の進捗状況等の監査を行った(再掲)。 ・昨年度に引き続き「新型コロナウイルス感染症対策本部会議」を設置し、コロナ禍における機構内の統一的な対応を迅速日決定する仕組みを紀行させるとともに、5月以降の再開に当っては独自の「ガイドライン(大阪市博物館機構 関係各館用)」を定め、リスク回避(利用者および職員等の安全確保)を機能させるとともに、5月以降の再開に当っては独自の「ガイドライン(大阪市博物館機構 関係各館用)」を定め、リスク回避(利用者および職員等の安全確保)を図った。(再掲) ・(事務局施設管理課) ・建築工事等において、事故・災害が起こらないよう施工業者に対して、工程会議などの機会に安全の徹底を指示するよう努めた。 ・安全に対する不安要素がないかどうかという視点で工事現場を確認し、不具合箇所を是正させるなど、事故を未然に防止するよう努めた。 ・施工業者に施工前に総合施工計画書を作成させ現場の施工体制・安全衛生管理計画・予想される災害・公害対策・火災予防計画等を明記させ施工業者にリスク等の顕在化を未然に防止することによりリスク回避に努めた。 ・	3		3
72 ネットワークセキュリティの強化 個人情報などの機密情報の漏えいを未然に防ぐため、情報セキュリティ対策を一元化し、徹底する。 訓練等を通じて、情報セキュリティ対策の実施状況を毎年度把握し、その結果に基づいて改善に努める。	(事務局) 入館者の安全、資産管理等多角的な視点からリスクを調査し、問題の早期発見とリスク回避を図る。 建築物(付帯設備も含む)管理・点検を行い施設障害発生のリスク回避に努める。 個人情報などの機密情報の漏えいを未然に防ぎ、情報セキュリティ対策の一元化を図るため、情報シ	72	(事務局総務課) 昨年度の評価結果を受け以下の改善に取り組んだ。 ・情報セキュリティについて規程整備等を進めた。 ・会議において諸規程の浸透を図ることにより、リスク回避に努めた。 ・在宅勤務を可能とするための端末(モバイルパソコン)を導入するとともに、運用に向けて必要な	3		3

	ステムに関する作業部会を立ち上げ、報告をまとめる。 訓練や研修を通じて、情報セキュリティ対策の実施状況を把握し、その結果に基づいて改善に努める。	セキュリティ対策を実施した（再掲）。 （事務局経営企画課） ・大阪市のIT部局担当者を講師に、博物館機構ICT関連オンライン研修（「情報化会議」（7月31日））を開催し、先端動向を学習した。			
--	--	--	--	--	--

大項目 IV	IV その他業務運営に関する重要事項の目標を達成するためとるべき措置 8 その他業務運営に関する重要事項(その他) (1) 利用者等の安全確保 (2) 環境保全の取組み (3) 情報公開の推進
-----------	---

中期目標	8 その他業務運営に関する重要事項(その他) 法人は、時代の要請に応え、社会の理解や支持を得ることで、公共的な施設としての役割を果たす (1) 利用者等の安全確保 ・利用者及び職員等の安全確保に必要な体制の整備及び各館で業務に従事する関係者への安全意識の周知徹底 ・博物館等の施設として必要な機能及び快適な利用環境の確保に向けた各館の施設の計画的な整備及び改修(再掲9) ・バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した各館の施設の計画的な整備及び改修(再掲)
------	---

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由・評価のコメント	評価
(1) 利用者等の安全確保						
さまざまな人々が快適に利用できるようにするため、各館の施設における安全を確保する。 【法人として充実を目指す事項】 73 利用者及び職員等の安全確保に必要な体制の整備及び各館で業務に従事する関係者への安全意識の周知徹底 利用者及び職員の安全を確保するため、定期的な安全訓練を行う。 職員に対する研修等を通じて、職員の安全に対する意識向上を図る。	(事務局) 利用者及び職員の安全を確保するため、定期的な安全訓練を行う。 研修等を通じて、職員の安全に対する意識向上を図る。	73	(事務局総務課) コロナ禍にあって、利用者及び職員の安全確保のため、「新型コロナウイルス感染症対策本部会議」での決定や機構独自のガイドラインに沿って、次の対策を実施した。 新型コロナウイルス対策として、機構独自の「ガイドライン(大阪市博物館機構 関係各館用)」を制定し、5月下旬以降、順次、再開館した。また、その後も政府や府・市の方針に沿ったガイドラインの改定と施設での適用を行い、以下の通り、利用者の安全確保に努めた。 ・入場者数の制限と管理 ・検温 ・消毒液の配備 ・飛沫防止シールドの設置 ・立ち位置の明示 ・館内放送や注意喚起の掲示 ・一般利用者のある箇所、可能な範囲で抗ウ	3	新型コロナに対して、ガイドラインの策定と対策を迅速に行い、安全確保に努めた点は大いに評価できると考える。	4

			ウイルス剤の塗布を実施した。 (大阪市立科学館) ハンズオン展示と、座席が隣接すプラネタリウム投影を行う科学館では、次の対策を講じた。 ・プラネタリウムの使用可能座席の制限、 ・トイレ・階段手摺・レストラン設備等への抗ウイルス剤塗布、 ・団体等の食事場所の提供休止などの措置 また、コロナ対策とは別に各館においては、通常の安全訓練を実施し、訓練を通じて職員の安全に対する意識向上を図った。			
【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 74 博物館等の施設として必要な機能及び快適な利用環境の確保に向けた各館の施設の計画的な整備及び改修 博物館施設として必要な機能や快適な利用環境の確保に向けた計画的整備・改修を行う。	(事務局) 快適な利用環境の確保に向けた計画的な整備を行う。 高齢者、障がい者、ベビーカー利用者等の利便性を図るため、バリアフリー化を念頭に施設の点検を実施する。	74	(事務局施設管理課) 「8 各館の施設の計画的な整備及び改修」(P12～14)で示した各館の改修計画の立案や、「10 バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した計画的な整備及び改修」(P15～16)に参画し、技術面でのサポートを行った。 あわせて、各館施設の計画的な整備及び改修(5か年の改修計画)の具体的な中身(詳細)を検討し、現状の令和5年度までの中期5ヶ年の改修計画について、点検結果報告や劣化状況、工事手順等を勘案し、計画を修正した。	3		3
75 バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した各館の施設の計画的な整備及び改修(再掲) 高齢者、障がい者、ベビーカー利用者等の利便性を図るため、バリアフリー化を推進する。(再掲) さまざまな利用者を念頭に、ユニバーサルデザイン化を推進する。(再掲)	建築物の大規模改修時において、バリアフリー化を推進する。	75	(事務局施設管理課) ・既設建築物のエレベーターやエスカレーター、自動扉の作動状況等、現状のバリアフリーの維持管理状況について、毎月の点検結果に基づいて適切に維持管理されていることを確認している。 ・「10 バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した計画的な整備及び改修」(P15～16)に参画し、技術面でのサポートを行った(再掲)。 ・東洋陶磁美術館の増築、市立美術館の大規模改修時に、トイレやスロープ、エレベーター等のバリアフリー化を推進すべく設計を進めた。 ・自然史博物館のエレベーター更新においてバリアフリー化を図った(再掲)。 ・各館にて現状のバリアフリーの点検を行った。	3		3

中期目標	8 その他業務運営に関する重要事項(その他) (2) 環境保全の取組み ・省エネ機器の使用の推奨及び適正な空調温度の設定 ・再生紙その他の資源の有効利用の促進 ・環境に配慮した取組みの指標化及びその公開 ・新たな省エネルギーの実現に向けた取組みの推進
------	---

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由・評価のコメント	評価
(2) 環境保全の取組み						
環境への負荷を低減するとともに、社会の要請に応えるため、環境に配慮した取組みを進める。						
【法人として充実を目指す事項】 76 省エネ機器の使用の推奨及び適正な空調温度の設定 環境に配慮した業務運営を行うため、省エネ機器・器具の使用や適正な空調温度の設定・維持に努める。	(事務局) 環境に配慮した業務運営を行うため、省エネ機器・器具の使用や適正な空調温度の設定・維持に努める。	76	(各館) コロナ禍における換気に留意しつつ、省エネ機器・器具の使用や適正な空調温度の設定・維持に努めた。 (大阪市立自然史博物館) ネイチャーホールの天井耐震(9月から実施)に合わせて、ネイチャーホールの天井照明のLED化を図った(再掲)。 (事務局施設管理課) ・各館における上記の設定・維持に必要な技術的指導を行った。 ・エネルギーの使用の合理化等に関する法律の下に省エネに取り組んだ。	3		3
77 再生紙その他の資源の有効利用の促進 ICTを活用したペーパーレスの推進や、再生紙利用の促進等を図る。 リデュース・リユース・リサイクルの徹底に努める。	(事務局) 再生紙利用の促進や両面コピーの徹底を図る。	77	(事務局総務課) ICT活用に伴う以下のペーパーレス化を推進した。 ・全館へのグループウェア導入を通じて、迅速な情報共有を図るとともに、ペーパーレス化を推進した(再掲)。 ・コロナ禍においてオンライン会議ソフトを導入することで、移動のための経費や時間の縮減を図るとともに、ペーパーレス化を推進した(再掲)。 ・また、事務局及び各館で、再生紙利用の促進や両面コピーの徹底を図った。	3		3
【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 78 環境に配慮した取組みの指標化及びその公開 環境への取組状況を明らかにするため、その成果を公表する。	(事務局) 建物の大規模改修時に省エネルギー機器の導入を図る。	78	以下の具体的な取組みを実施したが、「指標化」やその公開には至らなかった。 (事務局・各館) ・ゴミの分別収集を通じて、プラスチックの再利用等に貢献した。 ・事務局及び各館で、再生紙利用の促進や両面コピーの徹底を図った(再掲)。	2		2
79 新たな省エネルギーの実現に向けた取組みの推進	(事務局) 環境への取組状況をエネルギーの使用の合理化等	79	(事務局総務課) ・昨年策定したリデュース・リユース・リサイクル			

	に関する法律に基づき管理する。制定した「リデュース・リユース・リサイクルのための法人としての取組計画に沿って省エネルギーに努める。	のための法人としての取組計画の浸透を図ること で、各館の省エネ推進に取り組んだ。 (事務局施設管理課) エネルギーの使用の合理化等に関する法律の下に以下の省エネに取り組んだ。 ・各館の省エネ診断結果をもとに、より効率的な施設整備計画となるよう見直しを図った。 ・自然史博物館ポンプ取替えに省エネ法に基づくトップランナー機器の導入を図った。(本館消火ポンプ用モーター5.5kW1台・本館冷温水ポンプ3.7kW展示室用・11kWホール研究室用・2.2kW講堂用・1.5kW第1・3収蔵庫用各1台) ・自然史博物館のエレベーターをトップランナー制度の形式への更新により省エネを図った。(原油換算1Kℓ/年、機構全体で0.03%減) ・市立美術館大規模改修や東洋陶磁美術館増築の機会に、省エネとなるような機器への更新に取り組んだ。 ・予防保全による空調機器等の自動制御の更新に取り組んだ。 (東洋陶磁美術館・大阪歴史博物館) 改めて、建物全体の省エネ診断を実施し、削減見込み額の算定を含む今後の計画を立案した。	3		3
--	--	---	---	--	---

中期目標	8 その他業務運営に関する重要事項(その他) (3) 情報公開の推進 ・ホームページ等を通じた情報の積極的な公開 ・情報公開請求に対する迅速な対応
------	---

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由・評価のコメント	評価
(3) 情報公開の促進						
運営状況の透明性を確保し、広く法人の活動への理解及び信頼を得るため、情報公開を推進する。 【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】 80 ホームページ等を通じた情報の積極的な公開 業務内容等を広く理解してもらうため、法令に定める情報のみならず業務内容の理解に資する情報を、ホームページ等で積極的に公表する。	(事務局) 法令に定める情報のみならず業務内容の理解に資する情報を、ホームページ等で積極的に公表する。 事業内容や運営状況に関する情報公開請求に対して、迅速に対応する。	80	(事務局総務課) 法定事項をはじめ、業務内容の理解に資する情報を、ホームページ等で積極的に公表した。 (事務局経営企画課) 機構ホームページにおいて、展覧会等の報道発表や採用・調達情報などを逐次公表した、	3		3
81 情報公開請求に対する迅速な対応 事業内容や運営状況に関する情報公開請求に対して、迅速に対応する。	(事務局) 事業内容や運営状況に関する情報公開請求に対して、迅速に対応する。	81	(事務局総務課) 事業内容や運営状況に関する情報公開請求（令和2年度16件）に対して、迅速に対応した。	3		3